

# 大地震ニヨル東京火災調査報告

委員 中村清二

## 目 録

### 第一篇

總説

調査ノ方法

現場調

材料ノ整頓ト火災動態地圖ノ作製

### 第二篇

起災火元

消止火元

火災系統

火足ノ速サト風

安政二年ノ江戸大震火災

交通不可能トナツタ橋

### 第三篇

飛ビ火

耐火構造ト耐震構造

延焼ノ媒介

避難者ノ荷物  
第四篇

消防

破壊消防

消防設備ノ不備

樹木ノ効力

大道路、河川、鐵道線路等

慘死者

燒殘

### 第五篇

雜件數則

結論

附圖 火災動態地圖九枚一組

## 第一篇

總 説

大地震ニハ大火災ガ伴フコトヲ常トスル。之ニハ種々ノ理由ガアツテ先ヅ第一ニハ地震ガ直接失火ノ原因トナルコトデアル。第二ニハ火災ガ起ツテモ人民ガ地震ヲ怖レテ逃ゲルコトヲ先ニシ火ヲ消スコトヲ忘レルカラ火ハ縦ニ暴威ヲ逞フスルノデアル。第三ニハ火災ガ殆ド同時刻ニ諸方カラ起ルタ

メニ本職ノ消防士ガ難ニ赴クコトガ出来ナイノデアル。第四ニハ大地震ニハ水道ノ鐵管ガ破損シテ斷水ヲ生ズルノデ消防設備ガ能力ヲ減損セラレル。第五ニハ平常ハ耐火構造デアル建築物ガ地震ノ爲メニ耐火性ヲ失ナフカラ延焼ヲ起シ易イ。

地震ニ伴ナフ火災ハ實ニ恐ルベキモノデアツテ地震ニヨル損害ト火災ニヨル損害トハ全然比較ニナラヌト思ハレル。今回ノ大地震デハ地震ノ爲メニ生命ヲ失ナツタモノハ倒壊家屋十戸ニツキ一名ノ割合デアルガ火災ノ方ハ焼失家屋四戸ニツキ一名ノ死亡者ヲ出シタ。特ニ地震デハ財寶ガ假令一部分デモ殘ルガ火災デハ全部跡方モナク失ハレテ仕舞フノデアル。又地震ノ威力ニハ吾人ハ直接之ニ反抗シテ地震其者ヲ小サクスル方策ハ無イノニ、火災ノ方ハ之ヲ小サクシ或ハ全ク起サヌコトモ出来ル筈デアル。此等ノ事柄ヲ考ヘルト地震ニ伴フ火災ト云フ問題ニ就テハ平素カラ十分ニ研究シテ其對策ガ講ゼラルベキデアルノニ不幸ニシテ此問題ハ全ク閑却セラレテアツタ。試練ノ日ガ來ツタ。帝都ハ焦土ト化シ巨萬ノ財産ハ燒盡セラレ多數ノ生靈ハ喪ハレタ。實ニ殘念ナコトデアル。本會デハソコデ震災後第一回ノ委員會デ今回ノ東京ノ火災ノ現狀ヲ調査シテ後ノ參考ニ供スベキ事ヲ決定シ本委員ガ之ヲ擔當スルコトニナツタノデアル。

附圖第一 赤坂區ノ地盤ガ惡イ所ニ於ケル震災。此ノ如ク

倒壊シテモ火災ガ無ケレバ多少ノ財産ガ殘ル。

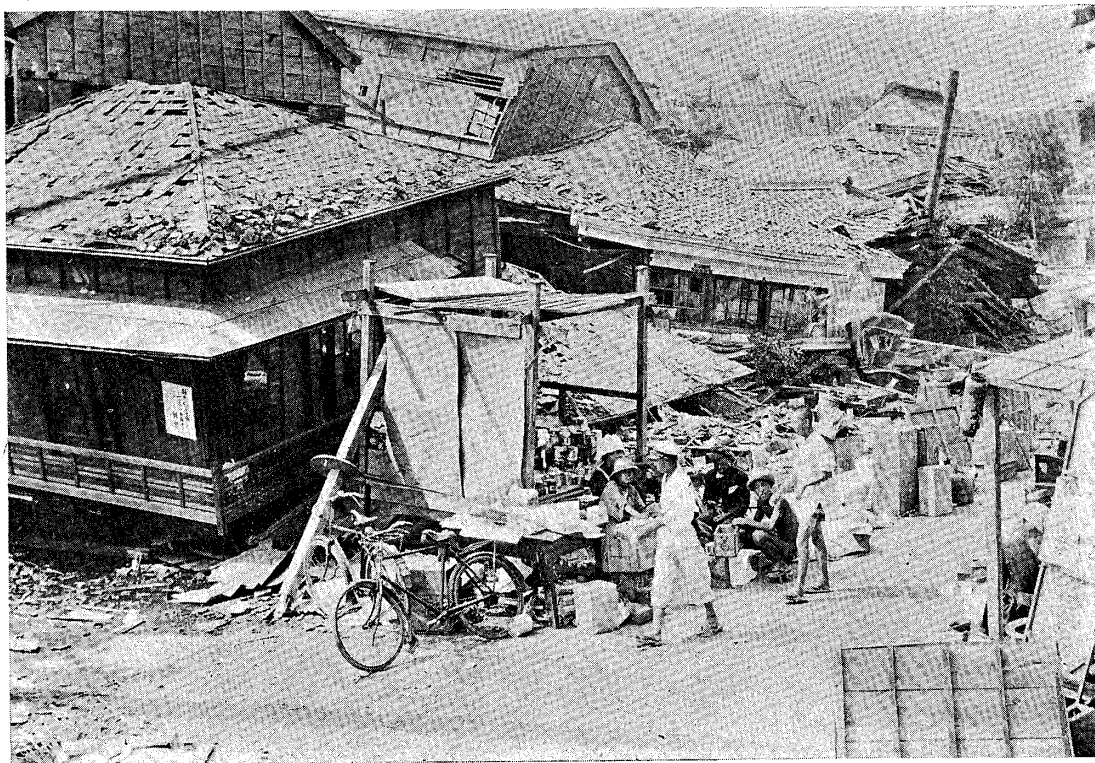
附圖第二 芝區ノ木造家屋計リノ所ノ燒跡。全ク荒涼タル焦土デ何モ殘ラヌ。

附圖第三 日本橋區ノ燒跡。耐火構造ノ家屋ガ地震ノ爲メニ耐火性ヲ失ツタ所ヲ示ス。之デハ跡片付ケニモ莫大ノ費用ガカ、ル。

### 調査ノ方法

扱テ如何ニシテ調査ヲ行フベキカ、調査スベキ事項ハ何々デアルカ。先ヅ如何ニ調査ヲ行フベキカニ就テ考ヘルト何ニセヨ燒失全面積四千萬平方メートル以上ニ渉ル大焦土ニ關スル調査デアルカラ多クノ人手ヲ要スルコトハ勿論デアルガ尙交通機關ガ全然無イノデアルカラ多數ノ人ヲ諸方面ニ派出スルノニ非常ナ困難ガアル。然ルニ幸ナル哉東京帝國大學理學部ノ物理、天文學科ノ學生中ノ有志者三十餘名ガ献身のニ現場調べニ從事スルコトヲ申出ラレタノデ人手ノ事ハ直チニ解決シタ。此等有爲ノ青年諸君ガ九月下旬ヨリ十月中旬ニ至ルマデ焦土ノ中ヲ往來シテ事物ヲ的確ニ判斷シ得ル其明晰ナル頭腦ト如何ナル勞働ニモ堪ユル其健全ナル肉體ト如何ナル困難ニモ潔ク對抗スル其義勇的ナル精神トヲ以テ調査ヲ助ケラレタ事ニ對シテハ余ハ衷心感謝スル次第デアツテ本調査ノ成レルハ全ク學生諸君ノ努力ノ賜デアル。左ニ諸君ノ姓名ヲ列

第一圖



赤坂區ニ於ケル震災

第二圖



芝區ニ於ケル木造家屋ノ焼跡

「ドーガ」下ニ置タル荷物ニ引火シタル爲メ生シセ煉瓦ノ變色

第三圖



景光ノ跡焼ル見ヲ向方橋本日リヨ橋京  
骸殘ノ車電ハルアニ上路

第四圖



影撮行飛月一十年十正大  
橘田代千、橋場新、橋安久リヨ右ハ橋、根屋丸ノ行銀友住隅下左、殿公本坂左  
景光ノ前災震街市京東



記シテ深厚ナル謝意ヲ表スル。

淺田常三郎

藤岡由夫

五代正友

服部學順

今岡賀雄

猪俣一郎

嘉村直太郎

氣賀和雄

木下國助

國富信夫

工藤清

松永義信

正田大

三石巖

三並虎一郎

宮部直巳

室井英夫

中田金市

中村正清

野附誠夫

岡崎篤義

岡田光世

大島卓

太田林三

坂井卓三

佐藤直儀

白井俊二

高田重雄

玉野光男

田中正道

坪井忠二

宇野利雄

和達清夫

和田美稻

湯本清比古

矢田富三

人手ハ斯ク出來タガ電車其他交通機關ノ無イ時ニ然カモ東京市ノ大部分ヲ占メタ大地域デ休息所モ無イ所ヲ諸方面ニ分レテ部署ニ就キ現場調べヲ行フコトハ非常ナル肉體上ノ勞苦デアル。此時ニ當ツテ末廣委員ノ盡力ニヨツテ本調査會ガ某富豪カラ數千圓ノ寄贈ヲ得之レニヨツテ諸調査用ノ自動車ヲ借入ラレタ。夫ヲ朝夕各一回ヅ、學生ノ派遣ト回收トニ使用セシメラレタノハ實ニ幸福デアツタ。某富豪ノ學術ニ理解アル此好意ニ向テ厚ク敬意ヲ表スル。

次ニ調査スベキ事項ハ何々デアルカラ、ザツト考ヘテ見ルト(一)發火ニ就テハソノ數更ニ詳シクハ其場所ト時刻ト原因(二)延焼ニ就テハ火流ノ進ンダ徑路及ビ火足ノ速サ、飛火及ビ延長ヲ助長シタ原因(三)鎮火ニ就テハ如何ニシテ火ガ喰止メラレタカ。天然ニ鎮火シタノカ消防ガ其効ヲ奏シタノカ、大道路、河川、鐵道線路等ガ防火壁トシテ役ニ立ツタノカ。其他尙種々ノ問題ガアル。

此等ヲ調査スルコトガ出來レバ焼失面積、火災系統等ガ明カナルノデアアル。然シ此等全體ヲ綜合シテ考ヘテ、吾人ハ之ヲ二ツノ問題ニ歸着セシメテ其調査ニ從事スルコトニシタ。

火ガ其中心カラ擴ガツテ行ク理想的最簡單ナ場合トシテハ地形ガ平面デ起伏ナク可燃材料ガ均一ニ此平面上ニ分布セラレ且ツ全ク無風デアルト假想スルト火ハ中心カラ圓形ニ四方八方ニ一樣ニ擴ガツテ行ク筈デアアル。圓形ト云フノハ同時刻ニ火ノ到着スル諸點ノ軌跡ガ圓デアルト云フコトデ四方八方向ト云フノハ中心カラ輻射狀ニ火ガ流レテ行ク火ノ徑路ヲ云フノデアアル。故ニ圓ノ方ハ同時刻線、ソノ半徑ノ方ハ火流線デアアル。今火ガ進ンデ來ルノヲ戰場ニ於テ敵ノ軍隊ガ攻メ寄セテ來ルノニ譬ヘルト同時刻線ハ火軍ノ陣形デアアル。三國志流ニ云ヘバ魚鱗ノ備トカ鶴翼ノ備トカ云フ中々複雑ナ形ヲ爲シ

テ居ル陣形ガアルガ實際ノ火災デモ同様デアル。ソレデ吾々ハ同時刻線ヲ火陣(Fire front)ト呼ブコトニシタ。火流線ハ之ニ對シテ單ニ火流(Fire current)ト呼ブ。上ノ假想的ノ火災デハ火陣ガ同心圓、火流ガ其半徑デ兩者ガ隨所互ニ直角ニ交叉シテ居ルガ一般ノ火災デハ兩曲線共ニ複雜デ且ツ直角ニ交叉スベキ理由ガ無イ。今火陣ノ曲線ヲ三十分毎トカ一時間毎トカ一定時間ヲ距テ、一本ヅ、描クコトガ出來レバ之ニヨツテ火足ノ速サガ知レル。更ニ別ノ譬ヲ取レバ火陣ノ曲線ハ樹ノ幹ノ切口ニ現ハレル年輪ノ如キモノデ年輪ガ密接シテ居レバ木質ノ成長ガ遅イコトヲ知ル如ク火陣ガ密接シテ居レバ火足ガ遅イ。

前ニ吾人ノ火災ノ調査ハ二ツノ問題ニ歸着セシメタト述ベタノハ即チ火陣ト火流トノ二ツヲ指スノデ之ヲ地圖ノ上ニ描クコトガ出來レバ火元カラ燒止マリ其他上掲ノ諸問題ガ自ラ解決セラレルノデアル。此ノ如キ二種ノ曲線ヲ記シタ火災地圖ハ火災ノ成長死滅ヲ示ス圖デアルカラ吾人ハ之ヲ火災動態地圖ト呼ブコトニシタ。故ニ吾人ノ調査ノ主眼ハ火災動態地圖ノ作製デアアル。

斯ク調査ノ方針ガ決定スルト吾人ノ爲スベキ事業ハ三ツノ段落ニ分レル。第一段ハ現場調査デアツテ燒跡ノ各所ニ調査員ヲ派遣シテ左ノ二問題ヲ尋ネ其答ヲ蒐集スルノデアル。之レ

ガ學生ノ擔當シタ事業デアアル。二問題トハ

(一)此地點ハ何時ニ火ガ到着シタカ。  
(二)此地點ハ何レノ方面カラ火ガ來タカ。

デアツテ(一)ハ火陣ヲ描ク爲(二)ハ火流ヲ描クタメデアアル。云フ迄モ無イコトデアルガ(一)ハ火ガ到着シタ即チ燃ヘ始メタ時刻デ鎮火シタ時刻デハ無イ。鎮火ノ時刻ハ建物ノ大サ其中ニアル可燃材料ノ性質分量等ニヨツテ支配セラレルカラ當面ノ問題トシテハ餘リ重要デ無イ。實際日本橋區箱崎町三丁目ノ東神倉庫デハ砂糖十萬俵ガ一ヶ月モ燒續ケ本所錦糸町驛ノ石炭ハ十月二十日頃マデ燃ヘテ居タ。

調査ノ第二段ハ此等ノ蒐集シタ材料ヲ整理シテ火災動態地圖ヲ描クコトデアアル。調査ノ第三段ハ此地圖ヲ基トシテ研究シ之レヨリ推論シ得ラル、種々ノ結論ヲ得ルコトデアアル。此第二段ノ作業ニモ學生中ノ少數ノ人ガ非常ナ努力ヲ續ケラレタ。其献身的ナ快イ姿ハ永ク忘ル、コトノ出來無イモノデアアル。

## 現場調査

現場調査ニハ先ヅ燒失全地域ヲ便宜上約六十個ノ小區域ニ分割シ一區域ヲ二人又ハ三人ノ一組ニテ擔當シテ調査シタ。番地入ノ地圖ト手帳トヲ各自携帯シテ例ノ二問題ヲ尋ネルノデアアル。此事業ヲ行フテ居ル間吾々ノ如キ平素無生物ノミヲ取

扱フ學問ヲシテ居ルモノガ嘗テ經驗シ無カツタ種々ノ事件ニ遭遇シタ。之ハ警察官トカ行政官トカ云フ様ナ活キタ人間ヲ取扱ツテ居ル人々ニハ日常茶飯事デアラウガ此ノ如キ事ニ不慣レナ吾々ニハ調査ノ初期ニ於テ特ニ非常ナ困難ヲ感ゼシメタ。第一ノ困難ハ問フ人ト答フル人トノ意志ガ疏通セズ心持チガ一致セヌ事デアル。一例ヲ舉ゲレバ現場調ノ初日ト第二日目ト余ガ二回經驗シタ事デアルガ燒跡デ片付ケヲシテ居ル人ニ「御宅ハ何時頃ニ燒ケ始メマシタカ」ト尋ネルト其家ノ主人ト覺シキ人ガデロ／＼ト余ヲ眺メナガラ「貴方ハ火災保險會社カラデスカ」ト如何ニモ怪訝ナ顔ヲシテ反問セラレル。良ク譯ヲ話シテ聞カセルト初メテ了解シタ様デアルガ其ニシテモ何ダカ奥齒ニ物ノ挟マツタ様ナ心持チガシテ、ドウモ腹藏無ク話ガ進マヌ。此點ニ於テ學生ニ出テ貰ツタ事ハ非常ニ都合ガ良カツタ。學生ノ角帽ハ世間的ノ小六ツカシイ事ヲ超越シテ居ル象徵デアル。角帽金釦ノ若者ガ同ジ問題ヲ掛ケルト先方ハ「火災ノ御研究デスカ」ト聞ク。「左様デス」ト答ヘレバ其カラハ赤裸々ニ話ガ進ムノデアル。其デモ火元ノ位置ヲ確カメ様ト思フト矢張り困難ハアツタ。調査ノ初期ニハ割合ニ樂デアツタガ時日ガ經過シ燒跡ノ整理ガ進ムニ從テ困難ガ増シ確答ヲ得ラレ無カツタ。之ハ蓋シ最初ニハ自分ノ家ノ燒失シタノヲ彼火元ノ御蔭デアルトデモ思フ反感カラ之ヲ公言シ

タノダガ心ガ落付キ秩序ガ恢復スルニ從ツテ近所付合ヒトカ何トカ六ツカシイ事情ガ出テ來テ寧ロ沈黙ヲ守ルガ得策トデモ思ハレルノカ言ヲ左右ニシテ話シテ呉レ無クナツタ。遠方デハ火元ノ見當ハツクガ近ヅクニ從ツテ正體ヲ捉ヘルコトガ出來無イ。同ジ事情ハ他ノ方面デ調査ニ從事シタ人達ニモアツタラシイ。警視廳關係ノ人ノ話ニモ火元ノ位置ハ正服デ行ツテハ判ラヌ角袖ニシタト云フコトデアル。火元ノ位置トカ飛火ノ位置トカハ到底正確ニ知レ無イモノデアルト思フ。

第二ノ困難ハ假リニ先方ガ學術上ノ研究ト云フコトヲ了解シテ隱シ隔テ無ク話シテ呉レルトシテモ其所述ノ信用ノ程度ガ著シク差異アルコトデアル。或人ハ極メテ曖昧ナ返辭ヲシテ何時頃カト聞ケバ「左様デスネ彼際ノコトデスカ」心ハ轉倒シテ居ルシ煙デ空ハ眞暗ダシ時計ハ止マツテ居タカラ良クハ判ラヌ午後六時頃ダト思フケレド事ニヨレバ四時頃ダツタカモ知レヌ」ト答ヘ火ガ何方カラ來タカト尋ヌレバ「方角モ何モ判ラナクナツテ仕舞ツタ、大方西南カラ來タノデアラウ」位ノコトデ不得要領デ誠ニ心元無イ感ジガスル。ソウカト思フト他ノ人ハ滔々ト辯ジ立テ、遙カ遠方ニアル燒殘ツタ高厦ノ殘骸ヲ指シ「火ハ彼所カラ始マツテズツト北ニ廻リソレカラ風ガ變ツタノデ始メ大丈夫ト思フノガ火ガ段々ト廻ツテ來テ終ニ此所ヘ來タ云々」ト如何ニモ詳細ヲ極メタノガア

ル。然シ後ニナツテ所々ノ報告ヲ綜合シテ比較研究ヲヤツテ見ルト奇妙ナ事ニハ概説スルト前者ノボンヤリシタ返辭ノ方ガ吾人ノ材料トシテ採用シ得ベキモノガ多ク後者ノ要領ヲ得テ居ル方ガ却テ信用スベキ部分ガ些ナイ様デアル。御話トシテハ後者ノ方ガ面白イガ研究材料ニハ成ラヌ。之ハ蓋シ自身ガ體驗シタコト、後ニ他人カラ聞キ或ハ新聞紙上デ讀ンダコト、ガ何時ノ間ニカ面白ク編込マレテ一ツノ立派ナ御話ニナツタモノラシイ。別ニ惡意ガアツテ虛言ヲシテ居ルノデ無クシテ自身ノ經驗ト他人カラノ傳聞トガ區別ガ付カナクナツテ仕舞ツタモノデアラシイ。ソレデ調査ノ時ニ此邊ノ事情ニ就テ大分注意ヲ怠ラヌコトニシタ。大體カラ云フト矢張り智識アル人ガ價值アル材料ヲ供給セラレタ。又婦人ハ多クハ早く避難シタノデ答ノ出來ヌ人ガ多イガ假リニ答ヲシテ呉レテモ信用スベカラザルモノガ多イ様ニ考ヘラレタ。此様ナ全ク豫想ダモシ無カッタ困難ト戰ヒツ、前記ノ二問題ヲ主眼トシテ尙旋風、樹木ノ効能トカ燒失シタ橋梁トカ或ハ又青年團ノ奮闘等何吳レトナク材料ヲ蒐集シタ。此現場調ニハ延べ人員約二百五十人ノ手間ヲ要シタノデアアル。

#### 材料ノ整頓ト火災動態地圖ノ作製

現場調ノ結果日々集マツテ來ル調査資料ハ先ヅ適當ニ之ヲ分類整頓シタ。彼主眼ノ二問題ノ火ノ方向ト時刻トハ兎ニ角

聞イタ其儘ヲ地圖ノ中ニ書込マネバナラヌ。此地圖ハ相當縮尺ノ大ナル正確ナ地圖デナケレバナラヌガ適當ノモノガ無カッタ。先ヅ陸地測量部發行ノ一萬分一ノ圖ヲ適當ノ大サニ擴大シテ之ニ記入シヤウト思フテ寫真機デ地圖ノ引延バシヲ試ミタガ「レンズ」ノ良好ナモノガ無イノデ擴大ノ割合ガ圖ノ部分ニヨツテ違ヒ隣接ノ圖幅ガ互ニ喰違フ様ニナル。ソコデ今度ハ「パントグラフ」ヲ使用シテ器械的擴大法ヲ試ミタガ之ハ餘リニ時間ヲ要シテ急ノ間ニ合ハヌ。其中ニ偶然或人カラ三千分一ノ東京圖ヲ陸地測量部ガ都市計畫局ノ爲メニ作製シタノガアル筈デアルト注意セラレタノデ之ヲ交渉シテ見ルト之ハ地震後復興院ニ移管シタシ且ツ火災デ燒失シタトノ事デアツタガ、復興院ノ好意デ燒ケ殘ノ二三部シカ無イモノ、中ノ一部ヲ借用シテ之カラ青寫眞デ五部ヲ複製シテ前記資料ノ記入ソレカラ火災動態地圖ノ作製ニ使用シタ。其後陸地測量部ハ本會ノ懇請ニ應ジテ此既成地圖ガ燒失全地域ヲ含ンデ居ラヌノデ新タニ不足ノ數圖幅ヲ製版シテ一組三十六幅カラ成ル三千分一ノ地圖數組ヲ印刷セラレタ。此爲メニ吾々ノ受ケタ恩惠ハ多大ノモノデアツテ之ニ對シテ感謝ノ意ヲ表明スルコトハ誠ニ吾々ノ愉快ナル義務デアアル。

扱テ斯クシテ地圖上ニ記入セラレタ各地點ニ於ケル火流ノ方向ヲ示ス矢ト時刻ヲ示ス數字トカラシテ吾々ハ一ツノ矢ト



次ノ矢トノ連絡ヲツケテ之カラ火流ノ曲線ヲ描キ又同時刻ニ燃エ出シタト思ハル、地點ヲ求メテ之ヲ通ズル曲線ヲ描イテ之ヲ火陣トシタノデアアル。然ルニ前述ノ如ク多數ノ人カラ多數ノ學生ガ聞イタ區々ノ材料デアアルカラ中々矛盾ガ多ク何レヲ信ジ何レヲ排スベキカニ迷ウテ斷定ヲ下スノニ難イ。時刻ニ於テハ「プラス、マイナス」二三時間モ相違ガアリ方向ニ於テハ直角モ間違ツテ居ルノデアラウト推セラレル場合ガ中中ニ多イ。之ハ一ニ公算論デヤル様ニ最モ確ラシイト思ハル平均値ヲ求メテ満足スルヨリ外ニ方法ガ無ク又ソレガ最穩當ナ處置デアアル。誤差ヲ伴フ多數ノ資料ノ平均値ハ人ノ知ル如ク其資料ノ何レトモ一致セヌガ、同時ニ資料ノ總テニ最モ良ク適合スル。例ヘバ吾々ガ最後ニ決定シタ火流ノ曲線上ノ一點ニ於ケル切線ノ方向ト其點ニ於ケル聞イテ來タ儘ノ火ノ方向ヲ示ス矢ノ方向トハ角度ニシテ、七八十度モ違ウテ居ル所ガアル。之ハ一ツハ資料ノ方ニ誤ガアルカラデモアラウガ假リニ總テノ人ガ正確ナ方向ヲ答ヘタトシテモ尙兩者ガ一致セザルベキ根本的ノ理由ガアル。ソレヲ此所デ明瞭ニシテ置く必要ガアル。

一體火ノ燃ヘ擴ガツテ行ク現象ハ液體ノ流レ氣體ノ運動ト同様ナ一ツノ物理的現象デアアル。今假リニ煙突カラ吐キ出サレル黒煙ノ運動ヲ見ルニ個々ノ炭素粒ノ運動ト煙全體トシテ

ノ運動ト二ツ全ク異ナツタモノガアル。煙突カラ出ル煙ガ全體トシテ何所ニ向ヒ幾何ノ速サデ進ムカト云フコトハ、例ヘバ鑛山製煉所ノ毒煙ニヨル損害ノ調査ヲ爲ス人ニハ大切デアアル。然シ又一方カラハ炭素ノ微粒ガ濛々トシテ渦ヲ卷キナガラ極メテ複雑ナ運動ヲシテ居ルノヲ詳細ニ調べ煙ノ溫度ト渦ノ卷キ方トノ間ニ關係ガアルカラ知リ度イ學者モアルデアラウ。即チ此様ナ場合ニハ大體トシテノ運動ト分子的(分子ノ語ハ化學者ノ云フ分子デ無ク微粒ト云フ様ナ意味デ使用スル)ノ運動トノ二ツガアル。火事ノ時デモ全ク同様デ火ガ全體トシテハ北カラ南ニ流レテ居ルトキニ一軒ノ家カラ其東隣ノ家ニ燃ヘ移ルコトモアラウ。又全ク反對ニ北隣ヘ逆行スルコトモアラウ。(之レハ尻火ト云フテ北風ノ時ニ火ガ北ノ方ヘ逆行スルトハ別デ此尻火ハ全體トシテノ火ノ運動デアアル)。家一軒カラ一軒ヘト燃移ルコトヲ知ラントスルノハ火災ノ分子的運動ヲ求メルノデアアル。火災保險事業ニ従事シテ居ル人ガ火災ノ研究ヲ爲スノニハ此種ノ調査ガ必妥デアラウ。吾々ノ立場カラ見レバ之ハ第二級ノ問題デ當面ノ問題ハ火ノ大體トシテノ運動ヲ達觀セントスルノデアアル。然リ而シテ學生ガ調べテ來タ矢ノ方向ハ何カト云ヘバ之レハ火ノ分子的運動ノ方向デアアル。ソレガ吾々ノ火流ノ切線ト一致セヌノハ寧ロ當然ノ事デアアル。

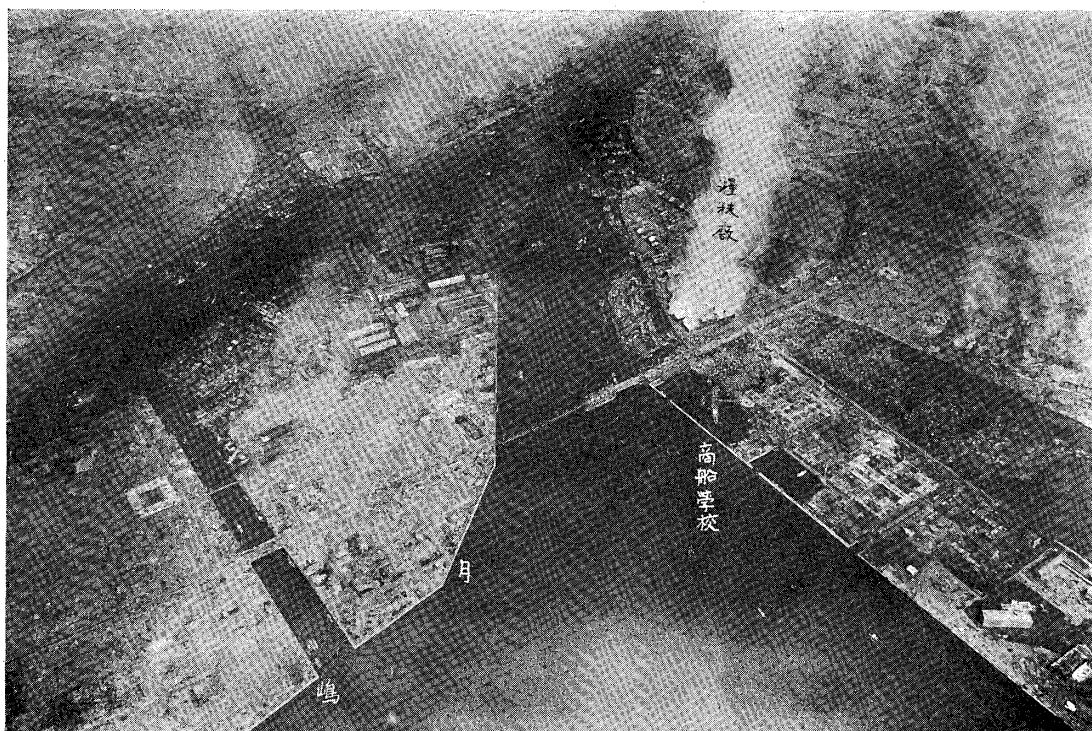
時刻ニ就テモ全ク同様ナコトガ云ヘル。或家屋ガ實際ニ午後五時ニ燃エタコトガ全然誤リノ無イ事實デアツテモ吾々ノ午後五時ノ火陣線ハ必ズシモ之ヲ通過シテ居ナイ。約言スレバ火ノ分子運動 (molecular motion) ニ關スル資料カラシテ大體運動 (molar motion) ヲ求メルノデアルカラ其所ニ研究者ノ個性ヤ判斷ガ加ハルノデアツテ同一ノ資料デモ出來上ツタ動態地圖ハ人ニヨツテ異ナル筈デアアル。

扱テ以上ノ如キ見地カラ資料ノ集マルニ從ツテ動態地圖ヲ纏メテ行ツタノデアアルガ其後ニ再調査ヲ行フベキ所ガアツタリ別ノ方面カラ有益ナ材料ノ供給ヲ受ケタリシタノデ下圖ヲ改ムルコト前後四回初メテ完成シタノデアアル。材料ノ供給ヲシテ貫ツタ中デノ最モ貴重ナモノハ明治火災保險會社デ余ノ方法ニ從ツテ新タニ四人ノ調査員ガ全地域ニ涉ツテ調査ヲセラレタ火流ノ地圖デアツタ。之ニヨツテ訂正シタ所モアルシ其好意ニ向ツテ非常ニ感謝スルガ若シ隴ヲ得テ蜀ヲ望ムベクンバ出來上ツタ地圖デ無クシテ其資料ノ提供ヲ得度モノデアツタノデ之ハ丁度燒跡デ纏ツタ話ヲシテ呉レル人ノト同様ニ事實其儘デ無ク意見ノ加ハツタモノデアアルカラ價值ヲ減損スルコト夥シイ。

完成シタ火災動態地圖ニハ何ガ收録シテアルカト云フニ第一ハ燒失地域ガ赤色ノ地色ニシテアル。從ツテ燒殘ツタ場所

神田區ノ和泉町、佐久間町、淺草觀音ノ境内、深川區森下町ノ神明祠ノ如キハ白ク島ノ様ニ現ハレテアル。燒殘リハ餘程委シク調査シタノデ獨立家屋ノ小ナルモノデモ圖ニ收メテアル。例ヘバ本郷區元町ノ金比羅神社ノ奥ニアル木造家屋ガ地形ノ爲メニ助カリ、或ハ神田區駿河臺袋町ノ家ガ之ヲ圍繞シテ居タ樹木ノ爲メニ助カツタ如キモノガ現ハシテアル。第二ニハ火元ノ位置デ之ハ赤丸デ示シテアル。第三ハ飛火デ之ハ赤ノ銳角三角形デ示シテアリ火ノ飛ンデ來タ方向ハ三角ノ底邊ニ附シタ短カイ直線デ示シテアル。第四ハ火流ヲ示ス赤色ノ曲線デ之ハ火元又ハ飛火カラ發散シテ其燒ケ終リニ矢ガ附シテアル。例ヘバ京橋ノ架シテアル川ノ對岸ハ、西ハ比久尼橋カラ東ハ白魚橋マデノ間ハ兩岸反對ノ方向カラ火ガ來テ川ヲ界トシテ止マツタノデアアルシ、櫻橋以東大河マデハ北カラノ火ガ飛火デ川ヲ越シタノデアアル。第五ハ火陣ヲ示ス綠色ノ曲線デ之ニハ其時刻ガ綠色ノ數字デ表ハシテアル。時ノ數ヘ方ハ午前午後ト區別セズニ二十四時制ヲ採用シテ夜半ヲ零時トシ正午ヲ十二時午後一時ヲ十三時ト數ヘテ翌夜半ノ零時ニ至ルノデアアル。又日附ヲ表ハス爲メニ時刻ノ數字ノ右肩ニ、<sup>〃</sup>ヲ附シテ夫々九月一日、同二日、同三日ヲ意味スルコトニシタ即チ18<sup>〃</sup>ハ九月一日午後六時デ6<sup>〃</sup>ハ九月二日ノ午前六時デアアル。火流ト火陣トノ二ツヲ併セテ圖ヲ讀ムト火ノ動態ガ

第五圖



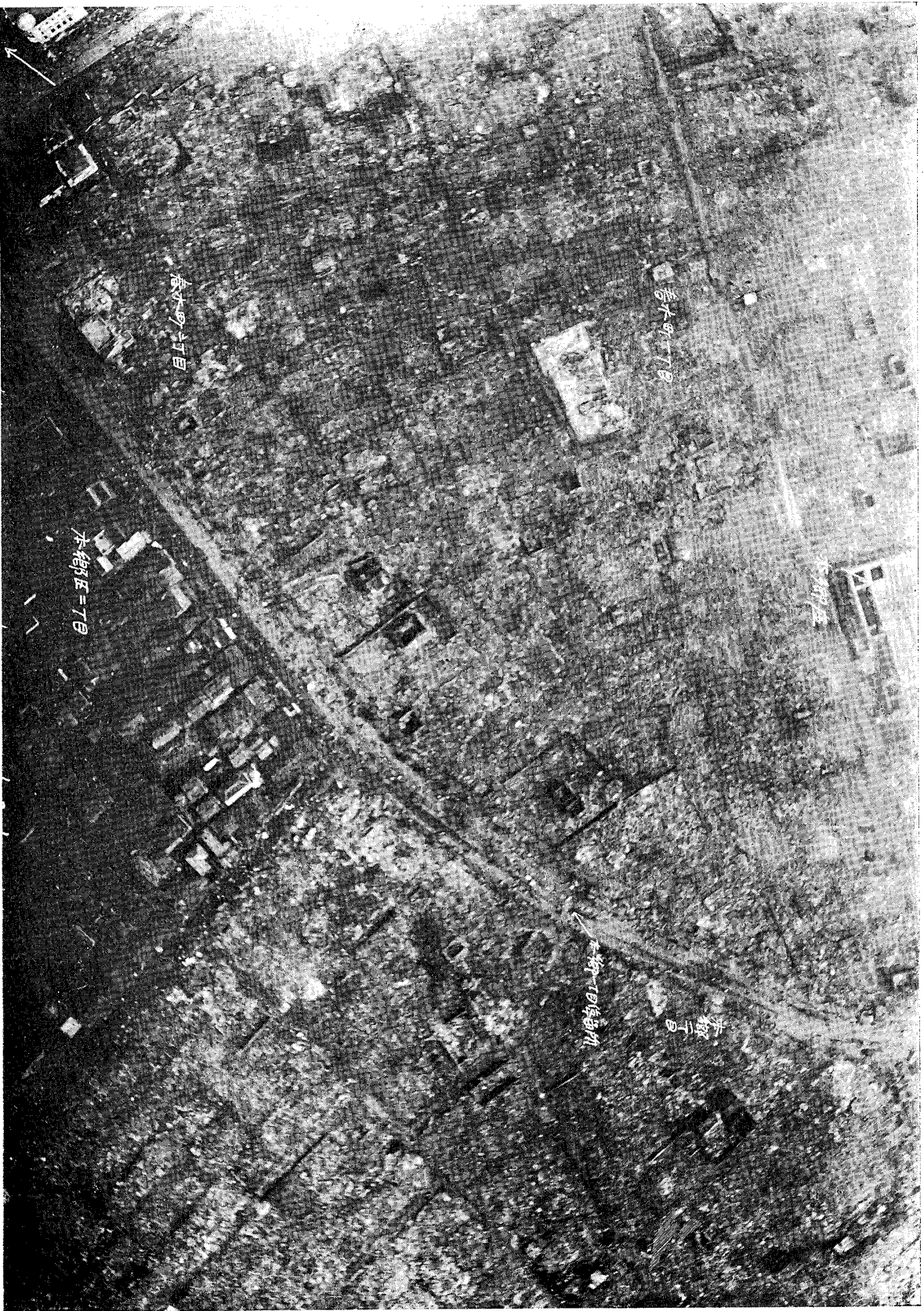
大正二十九年九月三日地上千「メートル」ヨリ撮影  
深川中島陸軍糧秣廠ノ餘燬

第六圖



震火災後比谷公園ニ作シラ「バツク」村  
火災免カタル帝國「ホテル」ト焼失セザル警視廳、帝國劇場





大正十二年九月四日午前十時半地上六百メートルヨリ撮影  
本郷一丁目東竹町(上右隅)ヨリ本郷三丁目電車交差点(下左隅)



大正十二年九月四日午前十時半地上六百メートルヨリ撮影  
九段坂下電車停留所、堀留橋

第八圖



明瞭ニナル。例へば淺草觀音ハ凌雲閣下カラ出タ火デ早ク其北側ト東側トガ燒カレタノデ最初ハ南風デアツタ爲メニ火ハ北ニ向ヒ風ガ西南ニ轉ジ後ニ強イ北風ニナツタカラ丁度火ハ境内ヲ避ケテ其周圍ヲ迂回シタ觀ガアル。ソノ火ガ廻リ廻ツテ九月二日ノ午前零時頃ニ淺草馬道ニ至ツタ。然ルニソレ迄無事デアツタ淺草公園ノ西側ノ地域ハ九月一日ノ夜ニナツテ下谷區入谷町ノ火元ノ火ガ始メテ此邊ニ到着シ猛烈ナ勢デ側目モ振ラズニ南下シテ同ジク九月二日ノ午前零時頃ニ馬道ニ達シ二ツノ火ガ合一シタノデアアル。即チ淺草公園ノ東側ハ火勢ノ弱イ爲メニ西側ハ火勢ノ強イ爲メニ火ガ侵入シ無カッタノダト云ヒ得ル。更ニ一例ヲ舉ゲレバ麴町區元園町ノ一丁目ハ九月二日ノ午前四時ニ燒ケ東カラ來タ火ガ此所デ止マリ二丁目ハ無事デアツタガ同日夜ノ八時頃ニ平河町ノ方ヲ迂回シテ來タ火ガ此所ニ到着シテ燒拂ハレタノデアアル。而シテ平河町ニ於ケル火陣ノ密集シテ居ルノヲ一見スレバ如何ニ火ガ徐徐ニ進行シタカヲ知ルコトガ出來、如何ニシテ此ノ如キ弱イ火ヲ喰止メ得無カツタカト不思議ニ思ヒ残念ニ感ズル次第デアアル。

以上ノ外ニ動態圖ニハ第六ニ燒失又ハ破損ノ爲メニ交通不能トナツタ橋梁ニ濃赤色ヲ施シテ示シテアル。

尙茲ニ一言感謝スベキハ燒失地域ノ境界及ビ燒殘リヲ定ム

ル爲メノ參考トシテ千葉縣下志津ノ陸軍飛行學校カラ九月三日、四日、同校ノ飛行撮影ニヨル燒跡圖ヲ使用スルコトノ便宜ヲ與ヘラレタコトデアアル。

附圖 第四、五、六、七、八圖空中カラ撮影シタ寫眞五枚

## 第二篇

### 起 災 火 元

火元ノ位置ヲ定メルコトノ困難ナコトハ既ニ述ベタ通りデアアル。從ツテ各所ノ調査ガ火元ノ數ニ於テサヘ一致セヌ。火元ハ之ヲ二ツニ分ツノガ便宜デアアル。第一ハ一旦發火シタケレド即時ニ消止メ左シタル損害ヲ起サナカツタモノデ、第二ハ其火ガ大キクナツテ或ハ火ヲ發シタ家ヲ燒キ或ハ他家ニ延燒シテ所謂火災ヲ起シタモノデアアル。前者ヲ消止メ火元後者ヲ起災火元或ハ單ニ火元ト呼ブコトニスル。消止メ火元ハ災害ヲ起サナカツタノダカラ調査スル必要ガ無イ様デモアルガ然シ尙其數ヤ發火ノ原因ヲ調べテ地震ニ伴フ火災研究ノ一項トシテ後日ノ參考ニ供スルコトハ大切ナコトデアアル。消止メ得タカ得無カツタカト云フコトハ後ノ問題デ地震ノ爲ニ發火シタト云フ點ニ於テハ二種ノ火元ハ同等デアアル。

吾々ノ動態地圖中ニ收録シタ起災火元ノ數ハ八十四個デアアル。之ヲ次ニ表記スルガ此表ニハ參照番號、位置、火元ノ家

## 第百號戊 大地震ニヨル東京火災調査報告

## ノ職業姓名及ビ發火原因ガ記入シテアル。

番 號	位 置	職 業	姓 名	源 因
一	北豊島郡地方橋場町一二九三	魚商或テン プラ屋	田村幸吉	倒壊、油鍋
二	南千住三ノ輪一一三	精進揚屋	小山某	油鍋
三	日暮里金杉一八二一	味噌屋	馬場儀一	倒壊、竈
四	淺草區淺草町四十八	飯屋	鈴木龜太郎	倒壊、瓦 斯ノ火
五	淺草町一一五	五軒長屋		
六	田中町五一	汁粉屋	野口條之助	倒壊、竈
七	田中町六六	車屋	細田力藏	倒壊、竈
八	玉姫町八一	酒屋	玉田勘吾	營業用爐
九	橋場町二〇一	荒物屋	福田晋次郎	倒壊、瓦 斯
十	橋場町二〇二	蕎麥屋		
十一	同新吉原江戸町二丁目三二	貸座敷	第二北濱樓	倒壊
十二	同新吉原京町二丁目五	貸座敷	小文字樓支店	倒壊
十三	同新吉原揚屋町二三	貸座敷	一聲樓	倒壊、火
十四	同千束町二丁目一三六	豆腐屋	細貝仲藏	倒壊、油鍋
十五	同千束町一丁目一四	洋食店	五井留藏	倒壊、油鍋
十六	同千束町二丁目三七一	セルロイド 工場箱製 造業	越名五郎三郎	倒壊
十七	同千束町二丁目一五	蕎麥屋	佐々木某	倒壊
十八	同光月町一、一號	蕎麥屋	暮石淺吉	牛潰出火
十九	同光月町一、二號	汁粉屋	小梶廣吉	倒壊、營業用爐
二十	同新谷町八		高須某	倒壊、三軒長屋
二十一	同北富坂町一八			

二十二	淺草區藏前片町	東京高等工 業學校	荒物屋	林伊之助	倒壊
二十三	下谷區龍泉寺町三七五	洋傘柄商	菓子屋	貴生川迎三郎	倒壊
二十四	同入谷町一八四	應用化學教 室	應化學教室	風月堂	藥品
二十五	同北大門町一	藥局	醫療器械商	小島政吉	藥品
二十六	本郷區東京帝國大學工學部	藥局	小島政吉	瓦斯ノ火	倒壊、火
二十七	同帝國大學醫學部	藥局	いれ屋不破保治	藥品	七輪
二十八	小石川區新誠訪町四	洋食店	北川周藏	倒壊	倒壊、竈
二十九	同櫻木町五	飯屋	英華堂	倒壊	倒壊、竈
三十	神田區猿樂町二丁目六	汁粉屋	榮屋早川	倒壊	倒壊、竈
三十一	同仲猿樂町一七	共立女子職 業學校	清月	倒壊	倒壊、竈
三十二	同仲猿樂町八	支那料理	寄宿舍	倒壊	倒壊、火
三十三	同西小川町二丁目一	支那料理	源順號	倒壊	倒壊、火
三十四	同今川小路一丁目八	支那料理	川平惠守	倒壊	倒壊
三十五	同今川小路二丁目一五	揚物屋	ゑびや	倒壊	倒壊
三十六	同南神保町九	下宿屋	佐藤秀夫	七輪	倒壊、竈
三十七	同一ッ橋通町二三	基會所	津布久要次郎	倒壊	倒壊、竈
三十八	同表神保町三	藥品商	小島義忠	藥品	藥品
三十九	同日本橋區本石町三丁目八	藥品問屋	小西惣七	倒壊	倒壊
四十	同本町三丁目一五	足袋屋	水村某	倒壊	倒壊
四十一	同京橋區南新堀町二丁目一二	藝者屋	加藤留三郎	七輪ノ火	倒壊
四十二	同靈岸島鹽町一七	下宿屋	岡部つる	瓦斯ノ火	倒壊
四十三	同八官町二四		山口德次郎		
四十四	同芝區金杉二丁目一九				
四十五	同芝區金杉二丁目一九				

四十六	芝區高輪西臺町	高輪御所	藥品
四十七	麴町區內幸町一丁目三	旅館	藥品
四十八	有樂町一丁目二	製版印刷業	倒壊、七輪
四十九	有樂町一丁目三	牛肉店	七輪
五十	日比谷公園	料理店	漏電
五十一	元千代田町	帝室林野管理局	藥品又ハ
五十二	富士見町六丁目四	日本齒科醫學專門學校	漏電
五十三	中六番町一八	明治藥學專門學校	藥品
五十四	赤坂區新町三丁目二二	蒲燒屋	七輪ノ火
五十五	田町四丁目一二	待合	倒壊
五十六	田町四丁目一二	待合	焔爐
五十七	本所區向島須崎町二五〇	荒物油類商	倒壊
五十八	松倉町二丁目一〇八	人形屋	倉庫内ヨリ
五十九	太平町一丁目九〇	煮豆屋	倒壊
六十	太平町二丁目九六	簞笥屋	倒壊
六十一	太平町一丁目一	ビヤホール	倒壊
六十二	吉岡町三〇	煎餅屋	營業用火
六十三	石原町五九	メリヤス業	鉢
六十四	柳原町二丁目二一	牧野正藏	倒壊
六十五	綠町五丁目一六	石塚俊吉	倒壊
六十六	松井町三丁目二	榮光舍	七輪ノ火
六十七	菊川町一丁目一六	豆屋	半倒壊
六十八	菊川町二丁目五六	下駄商入業	四軒長屋倒壊

第百號戊 大地震ニヨル東京火災調査報告

六十九	同	菊川町二丁目五七	自動車屋	白木某	倒壊ガソリン
七十	同	深川區東六間堀町二九	造業	高橋國太郎	炊事用竈
七十一	同	新安宅町五	菓子製造業	宮澤愛之助	倒壊
七十二	同	東大工町六〇	ガラス工場	佐藤某	倒壊ガラ
七十三	同	門前東仲町一四	五軒長屋	料理店伊勢平ノ堀	倒壊レカ、
七十四	同	西平井町二二	五色揚屋	大串	倒壊油鍋
七十五	同	洲崎辨天町二丁目五	貸座敷	藤春樓	倒壊
七十六	同	洲崎辨天町一丁目一五	貸座敷	本住吉樓	倒壊
七十七	同	洲崎辨天町一丁目一七	天ブラ屋	吉川某	倒壊
七十八	同	四谷區新宿旭町六三	豆腐屋	籠宮政吉	營業用油
七十九	同	牛込區市ヶ谷本村町	士官學校豫	應用化學室	藥品
八十	同	豐多摩郡下戸塚	早稲田大學理工科	化學藥品室	藥品
八十一	同	北豐島郡高田町四七五	合金製造所	今出喜好	竈
八十二	同	高田町	學習院	化學藥品室	藥品
八十三	同	南葛飾郡吾嬬町龜戸八〇	西洋洗濯	今出喜好	竈
八十四	同	荏原郡上大崎村	陸軍衛生材料廠	今出喜好	藥品

以上八十四個ノ起災火元ハ動態地圖中ニ收録シタモノデア  
ルガ此外ニ圖ノ範圍外ニ左ノ五ツアル。

南足立郡 千住町中組 製靴會社  
北豐島郡 板橋町下板橋 陸軍工科學校分校  
同 王子町船形七  
同 王子町豐島二八五



## 北豊島郡 尾久町上尾久一、四四四

又上表ニ收メテアル中デ第五號、第十號、第二十一號、第六十七號ノ四ツノ火元ハ其存在ガ疑ハシイガ然シ他ノ火元ノ初メ存在ガ疑ハシクテ後ニ存在セヌコトガ判然シタモノトハ異ナツテ抹殺スベキ材料ガ無イカラ疑ヲ挾ンダ儘ニ殘シテ置クコトニシタノデアル。

發火原因ノ記入方法ニ就テ説明ヲ爲シテ置クベキハ第一號及ビ第二號ノ火元ノ如キ同シ油鍋カラ發火シタモノデモ、第一號ノハ家屋ガ倒壞シテ其爲メニ油鍋カラ發火シタノト第二號ノハ家屋ガ倒壞シナイデ火ガ出タトノ區別ガシテアル。又單ニ倒壞トシテアルノハ家屋ガ倒壞シテ夫カラ如何ニシテ失火シタカバ不明ナノデアル。

發火ノ時刻ハ人ガ火ヲ發見スル迄ニハ家ノ大サトカ其他ノ事情デ多少ノ時間ノ經過ヲ見ルデアラウガ、大體トシテハ殆ド總テノ火元ハ、地震直後ニ發火シタト見テ差支ナイノデアアル。唯左記ノ四ツダケガ發火時刻ヲ異ニスルノデアツテ、第二十五號及ビ第四十七號ノ二ツハ家主ト火災保險會社トノ間デ保險金支拂ニ就テ訴訟ニナツタト云フコトデアル。

- 第二號 北豊島郡南千住三ノ輪 九月一日午後三時  
 第四十七號 麴町區内幸町一丁目 九月一日午後八時  
 第四十五號 芝區金杉二丁目 九月二日午前零時

## 第二十五號 下谷區北大門町 九月三日午前二時

發火原因ヲ見ルト藥品ニヨルモノガ中々ニ多クテ、其數十三モアリ地震ニ伴フ火災ニ於ケル一ノ特徴トシテ著シク注目ニ價スル。又地震ガ恰モ食事時刻デアツタ理由モアラウガ飲食ニ關係アル職業ノ家ガ多ク其數三十ヲ越シテ居ル。之ニ反シテ錢湯屋カラ發火シテ居ラスノハ奇シイ現象デアル。

化學藥品ノ中燐ノ如ク空氣ニ觸レテ發火スルモノ、「カリウム」ノ如キ水分ニ逢フテ發火スルモノ、或ハ石油「ガソリン」「アルコール」ノ如キ火勢ヲ助長スルモノハ危險デアルカラ其貯藏法ニ就テ取締ル必要ガアルガ然シ又一方カラ考ヘレバ此様な藥品ヲ取扱フ所ハ研究所、學校又ハ藥品問屋等デアルカラ、平素カラ少シク注意ヲ怠ラヌ様ニシテ貰ヘバ此方ノ源因ハ餘リ恐ル、ニ足ラヌ。實際此原因ニヨル發火ハ絶滅スルコトモ可能ナ筈ダト思フ。例ヘバ危險藥品ヲ貯藏スル罎ヲ戸棚ノ中ニ並ベテ置クトキニ、罎ガ倒レル程度ノ小地震ニ對シテハ此種ノ藥罎ダケハ爛德利ノ様ニ木製ノ枠ノ袴ヲハカセ其枠ヲ戸棚ニ釘付ケニシテ置ケバヨイ。戸棚ガ倒レル程度ノ地震ニ對シテハ戸棚ヲ家屋ニ固定シテ倒レヌ様ニシ、家ガ倒レル程度ノ地震ニ對シテハ危險藥品ヲ砂ヲ入レタ穴ノ中ニデモ埋藏シテ置ケバヨイ。藥品ニ就テ今一ツ好都合ナコトハ藥品ヲ取扱フ様ナ場所ニ居ル人ハ教養ノアル責任觀念ノ發達シタ

人ガ多イコトデアルト思フ。消止メ火元モ併セテ計算スルト藥品ニヨル發火件數ノ總數ハ四十四モアルガ(後文ヲ見ヨ)其中ノ三十一即チ四分ノ三ハ消止メラレテアツテ小使ノ如キガ自己ノ生命ノ危險ヲ犯シテ災ヲ未然ニ防イデ居ル。然ルニ之ト反對デ支那料理、天プラ屋ノ如キモノ、發火ハ殆ド消止メラレテ居ナイ。之コソ眞ニ恐ルベキ發火原因デ法ノ制裁ヲ以テ取締ル必要ガアルト思フ。

次ニハ火元ノ地理的分布デアアルガ之ハ其土地ノ地盤ト親密ナ關係ガアル。動態地圖ヲ見テモ明カデアアル如ク、神田區ノ神保町、今川小路ノ附近トカ淺草區ノ北部ノ千束町、光月町トカハ著シク火元ノ密度が大デ、火流ノ曲線ハ線香花火ノ様ニ多數ニ發散シテ居ル。消止メ火元ヲ圖ニ記スト一層明カデアツテ此邊ハ新ラシイ埋立地デ地盤ガ非常ニ惡ク地震ノ爲メニ先ヅ家屋ガ倒壊シ、夫カラ發火スルノデアアルコトガ上表ノ發火原因ノ欄ヲ見レバ直チニ首肯セラレルデアラウ。本會報告中ノ木造家屋ノ倒壊分布圖ヲ比較スレバ一層判然トスルデアラウ。

何故ニ埋立地ニ地震火事ノ被害ガ多イカト云フコトニ就テハ、之ヲ地盤ノ惡シイコトノミニ歸セシムルノハ理由ノ全體デハ無イト思フ。都市ノ發展ノ跡ヲ見ルト始メハ人民ハ地盤ノ良イ健康地帯ニ住居ヲ定メル。而シテ一般ニ有產者ノ住宅

ハ高臺ニ商家ハ稍平地ニ發展スル傾向ガアル。然ルニ土地ガ稍缺乏ヲ告ゲル程ニ發達シテ來ルト、卑濕ノ地ヲ埋立テ、此所ニ無產者ノ聚落ガ生ジ粗惡ナル家屋ガ建並ベラレ飲食店ガ軒ヲ接シ、或ハ土地發展策ト稱シテ狹斜ノ巷ガ現出セラレル。淺草ノ北部、神田ノ西部、赤阪溜池ノ西北部等ハ即チ此ノ如キ徑路ヲ踏ンダ土地デアアル。埋立地トハ經濟的ノ理由ニヨツテ非耐火、非耐震構造ノ集マツタ危險區域デアアル。故ニ後來大都市ノ發達計畫ヲ爲スニ當ツテ埋立地ヲ作り土地ヲ利用セントスル際ニハ、爲政者ハ其家屋ノ建築法ニ對シテ特ニ相當ノ取締ヲ爲スベキデアアル。然ラズンバ無辜ノ人民ニ不祥ノ災害ヲ蒙ラシムル一因トナルコトヲ恐レルノデアアル。

附圖第一 赤坂區ノ地盤ノ惡シイ處ニ於ケル倒壊狀態ヲ見ラレヨ。

### 消 止 火 元

消止メタ火元ノ數ハ吾々ノ調査シ得タモノガ市内ニ五十三ヶ所、郡部ニ二十六ヶ所アル、發火ノ原因ハ判然セヌモノガ多イガ、ソノ中デ藥品ニヨルモノハ比較的容易ニ知リ得ラレル。藥品ニヨル發火デ即時消止メタモノハ市内ニ二十ヶ所郡部ニ十一ヶ所デ後者ハ主トシテ研究所デアアル。次ニ市内ノ分五十三ヶ所ノ位置ヲ表記シ發火原因ガ藥品ニヨルモノニハ(藥)ノ字ヲ附記シテ置ク。

區名	町名番地	消止火元
麹町區	有樂町一丁目	東京府商工獎勵館(藥)
同	元園町一丁目	麹町高等小學校(藥)
同	大手町一丁目一	東京瓦斯電氣株式會社
京橋區	尾張町一丁目一	
同	月島西仲通三丁目八	
同	月島西仲通四丁目一	
同	岡崎町一丁目四一	
同	岡崎町二丁目一	
芝區	櫻田本郷町九	
同	愛宕町二丁目	慈惠大學(藥)
同	神谷町二〇	
同	白金三光町四	
同	白金三光町一三八	
同	白金今里町四〇	
麻布區	廣尾町三五	
赤坂區	田町一丁目一〇	藥學教室 四ヶ所(藥)
本郷區	東京帝國大學醫學部	藥物學教室(藥)
同	東京帝國大學醫學部	外來患者診察室(藥)
同	東京帝國大學醫學部	水野藥局(藥)
同	春木町三丁目一二	豆腐屋 川村傳次
同	臺町四九	揚物屋 大島興四郎
同	駒込動坂町一三七	
同	駒込動坂町一七七	
同	駒込千駄木町二	
同	上富士前町	理化學研究所二ヶ所(藥)
同	二長町五一	三ッ輪研究所(藥)
同	龍泉寺町一八三	

區名	町名番地	消止火元
同	龍泉寺町二四二	
同	金杉下町二八	
同	入谷町二七〇	東京高等工業學校二ヶ所(藥)
淺草區	藏前片町	東京衛生試驗場二ヶ所(藥)
同	和泉町	煎餅屋丸山
同	玉姬町八六	陸軍砲兵工廠作業課(藥)
小石川區	久堅町九六	博文館工場
同	大塚町七〇	專修高等女學校(藥)
同	大塚町七三	神戶鈴吉
同	高田豊川町	女子大學(藥)
同	若松町七	
牛込區	山吹町二三六	
同	早稲田鶴卷町八	
同	早稲田鶴卷町二〇〇	
同	中ノ郷業平町一七〇	
本所區	表町六一	
同	向島押上町一〇	
同	徳石衛門町一六	
同	猿江裏町一八二	
深川區		

此表中ニ消止メタ所ニナツテアル月島トカ下谷金杉トカハ  
後ニ別ノ火デ燒カレタノデアルコトハ云フ迄モ無イ。此表ト  
前ニ掲ゲタ起災火元ノ表カラシテ二種ノ火元ノ數ヲ對照スル  
ト次ノ通りニナル。

非常ニ良ク消止メラレタ本郷區ヤ郡部又其反對デ消止メラレ無カツタ神田區、淺草區、本所區ノ相違ハ主トシテ前ニ述ベタ藥品ニヨル火元ニヨルデアコトハ藥品ニヨル火元計リニ就テ同様ノ表ヲ作レバ明カニナル。

區郡	起災火元	消止火元	計
麴町	7	3	10
日本橋	2	0	2
京橋	3	5	8
芝	2	6	8
麻布	0	1	1
赤坂	3	1	4
四谷	1	0	1
本郷	2	13	15
下谷	3	5	8
神田	10	0	10
淺草	19	5	24
小石川	2	5	7
牛込	1	4	5
本所	13	4	17
深川	8	1	9
郡部	8	26	34
計	84	79	163

區郡	起災火元	消止火元	計
麴町	2	2	4
日本橋	2	0	2
京橋	1	0	0
芝	1	1	2
麻布	0	0	0
赤坂	0	0	0
四谷	0	0	0
本郷	2	9	11
下谷	0	1	1
神田	0	0	0
淺草	1	4	5
小石川	1	3	4
牛込	1	0	1
本所	0	0	0
深川	0	0	0
郡部	3	11	14
計	13	31	44

即チ火元ノ總數百六十三ノ中半分ガ消止メラレタコトニナリ、又火元ノ總數ノ約四分ノ一ガ藥品ニヨル發火デアアル。藥品ニヨル發火數ノ中四分ノ三ガ消止メラレテ居ルデアアル。

### 火災系統

燒失地域ハ一面ノ廣大ナ燒野原デアアルガ之ハ實ハ互ニ獨立ナ火災ノ多數ノ集合デアアルカラ之ヲ分解シテ系統ニ別ケテ見ル。此爲メニ起災火元ノ中カラ第二十九號ノ小石川櫻木町ノ

火ノ如キ其場所限リデ他ト連絡ノ無イモノヲ省キ又反對ニ第五十一號ノ帝室林野管理局ノ如キ其場所ハ孤立シテ居テモ其所カラノ飛火デ神田區、日本橋區ノ大火ヲ起シタモノヲ入レテ數ヘルト八十四個ノ起災火元ノ中デ七十四個ガ帝都ニ大焦土ヲ現出スル原因トナツタ。此七十四個ノ火元ノ火ヲ適當ニ系統ニ分カツベキデアアル。

各ノ火元ガ各自獨立ノモノデアアルカラ一ツノ火元ガ一ツノ火系ヲ作ルベキ理窟デアアルガ、實際ニハ二三ノ火元ガ一ツノ火系ヲ爲ストシタ方ガ却テ合理的ノ場合ガアル。例ヘバ赤坂區ノ火元第五十四號、第五十五號、第五十六號ノ三ツハ互ニ密接シテ居リソレガ發火後直チニ合併シテ一トナリ、溜池カラ芝愛宕下、金杉ヘト進ンダノデアアルカラ之レハ三ツガ一火系ヲ作ルト見タ方ガ穩當ト考ヘル。此様ニ適當ニ判斷ヲ下シテ一火系中ニハ一ツ或ハ一ツ以上ノ火元ヲ含ムモノトシテ、全地域ヲ分割スルト五十八個ノ火系ガ得ラレル。尤モ一ツノ火系ニ屬スル面積ハ連續シテ一枚トナルノガ正則デアアルケレドモ、時トシテハ之レガ飛火ノ爲メニ離レテ居ルコトガアル、前記帝室林野管理局ノハ丁度其一例デアアルガ最モ著シイ例ハ第五十三號ノ麴町中六番町ノ火ハ其附近ヲ燒イテ離レ島ガ出來、一方東北ニ飛ンデ三番町ノ一角カラ燃ヘ始メテ麴町區ノ大面積ヲ曠野ニシタ。此例デハ二ツノ離レタ面積ガ兩方ト

モ其周圍ガ燒ケテ居ナイノデ誠ニ明瞭デアルガ次ノ例デハ周圍ノ面積ガ他ノ火系ニヨツテ燒カレテ居ルノデ一寸見惡イ。ソレハ第七十二號ノ深川區東大工町ノ火デ此火ハ東西南北ニ燃エ擴ガリ其中ノ南進シタ火流ガ北風ニ乗ジテ長驅シテ木場ヲ襲ヒ鹽濱町ニ至ツテ燃草ノ無イ爲メニ鎮火シタ。其南進ノ途中ニ洲崎辨天町ニ飛火シ之ガ洲崎ノ東半ヲ燒イタ。尤モ此飛火ノ時刻ニハ其中間ノ土地例ヘバ洲崎ノ西半ハ既ニ燒ケテ仕舞ツテ居ル。

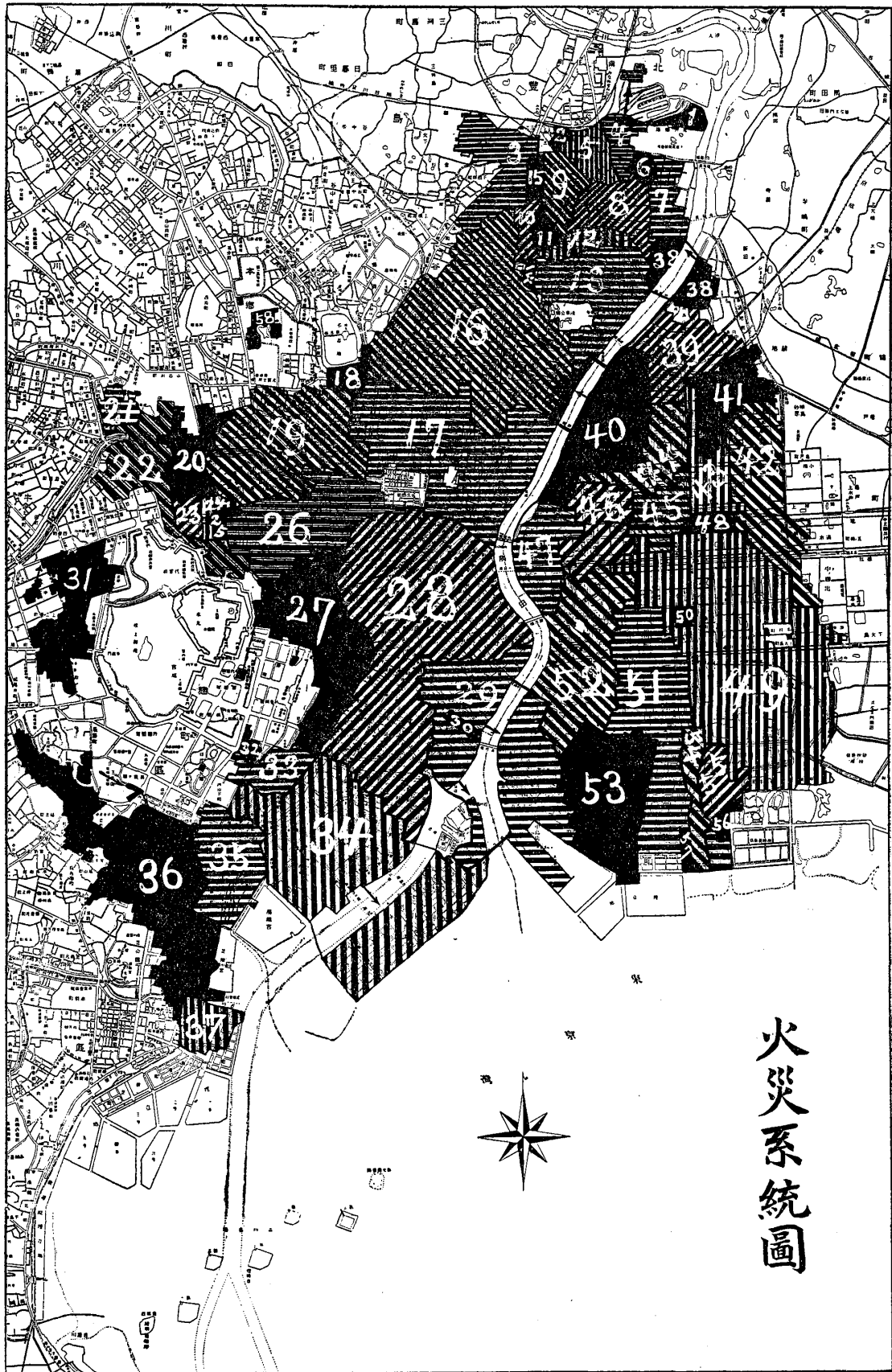
附圖第九圖ハ五十八火系ヲ示ス地圖デアル。次ニ各火系ノ火元番號及ビ燒失面積ヲ表記スル。

火系	起災火元	面積(平方メ)	火系	起災火元	面積(平方メ)
一 一號		七五〇〇〇	十三 十七號		七八八〇〇
二 二號		三四〇〇〇	十四 二十號		二五〇〇〇
三 三號		五四九〇〇〇	十五 二十三號		八〇〇〇〇
四 四號五號		一九七〇〇〇	十六 二十四號		二六一六〇〇〇
五 六號七號		二一八〇〇〇	十七 二十五號		一八七三〇〇〇
六 八號		六三〇〇〇	十八 二十六號		一一三〇〇〇
七 九號十號		二四八〇〇〇	十九 二十七號		一四三〇〇〇〇
八 十一號		三九〇〇〇〇	二十 二十八號		三五六〇〇〇
九 十二號十三號		二七二〇〇〇	二十一 二十九號		一五五〇〇〇
十 十七號十八號		一〇九〇〇〇	二十二 三十號		六八三〇〇〇
十一 十九號		八四〇〇〇	二十三 三十一號		九六〇〇〇
十二 十六號		一七六〇〇〇	二十四 三十二號		九二〇〇〇

二十五	三十八號	四二〇〇〇	四十二	六十號	九三九〇〇
二十六	三十九號	一〇五二〇〇〇	四十三	六十一號	三七七〇〇
二十七	四十號	一一九五〇〇〇	四十四	六十二號	四三六〇〇
二十八	四十一號	三四九二〇〇〇	四十五	六十三號	三一八〇〇
二十九	四十二號	一八七〇〇〇〇	四十六	六十四號	五二〇〇〇
三十	四十三號	二九〇〇〇〇	四十七	六十五號	五〇三〇〇
三十一	四十四號	六七九〇〇〇	四十八	六十六號	九二〇〇〇
三十二	四十五號	五〇〇〇〇〇	四十九	六十七號	三五四七〇
三十三	四十六號	二六〇〇〇〇	五十	六十八號	二一〇〇〇
三十四	四十七號	二七一二〇〇〇	五十一	六十九號	一四二五〇〇
三十五	四十八號	六六二〇〇〇	五十二	七十號	一一八二〇〇
三十六	四十九號	一八九九〇〇〇	五十三	七十一號	一〇四八〇〇
三十七	五十號	二六〇〇〇〇	五十四	七十二號	二四七〇〇
三十八	五十一號	二七〇〇〇〇	五十五	七十三號	二五一〇〇
三十九	五十二號	六五四〇〇〇	五十六	七十四號	六三〇〇〇
四十	五十三號	九六〇〇〇〇	五十七	七十五號	三八〇〇〇
四十一	五十四號	四六九〇〇〇	五十八	七十六號	五五〇〇〇
合計	五十九號		七號	七十七號	
				七十八號	
				七十九號	
				八十號	
				八十一號	
				八十二號	
				八十三號	
				八十四號	
				八十五號	
				八十六號	
				八十七號	
				八十八號	
				八十九號	
				九十號	
				九十一號	
				九十二號	
				九十三號	
				九十四號	
				九十五號	
				九十六號	
				九十七號	
				九十八號	
				九十九號	
				一百號	
				一百〇一號	
				一百〇二號	
				一百〇三號	
				一百〇四號	
				一百〇五號	
				一百〇六號	
				一百〇七號	
				一百〇八號	
				一百〇九號	
				一百一十號	
				一百一十一號	
				一百一十二號	
				一百一十三號	
				一百一十四號	
				一百一十五號	
				一百一十六號	
				一百一十七號	
				一百一十八號	
				一百一十九號	
				一百二十號	
				一百二一號	
				一百二二號	
				一百二三號	
				一百二四號	
				一百二五號	
				一百二六號	
				一百二七號	
				一百二八號	
				一百二九號	
				一百三十號	
				一百三一號	
				一百三二號	
				一百三三號	
				一百三四號	
				一百三五號	
				一百三六號	
				一百三七號	
				一百三八號	
				一百三九號	
				一百四十號	
				一百四十一號	
				一百四十二號	
				一百四十三號	
				一百四十四號	
				一百四十五號	
				一百四十六號	
				一百四十七號	
				一百四十八號	
				一百四十九號	
				一百五十號	
				一百五十一號	
				一百五十二號	
				一百五十三號	
				一百五十四號	
				一百五十五號	
				一百五十六號	
				一百五十七號	
				一百五十八號	
				一百五十九號	
				一百六十號	
				一百六十一號	
				一百六十二號	
				一百六十三號	
				一百六十四號	
				一百六十五號	
				一百六十六號	
				一百六十七號	
				一百六十八號	
				一百六十九號	
				一百七十號	
				一百七十一號	
				一百七十二號	
				一百七十三號	
				一百七十四號	
				一百七十五號	
				一百七十六號	
				一百七十七號	
				一百七十八號	
				一百七十九號	
				一百八十號	
				一百八十一號	
				一百八十二號	
				一百八十三號	
				一百八十四號	
				一百八十五號	
				一百八十六號	
				一百八十七號	
				一百八十八號	
				一百八十九號	
				一百九十號	
				一百九十一號	
				一百九十二號	
				一百九十三號	
				一百九十四號	
				一百九十五號	
				一百九十六號	
				一百九十七號	
				一百九十八號	
				一百九十九號	
				二百號	
				二百〇一號	
				二百〇二號	
				二百〇三號	
				二百〇四號	
				二百〇五號	
				二百〇六號	
				二百〇七號	
				二百〇八號	
				二百〇九號	
				二百一十號	
				二百一十一號	
				二百一十二號	
				二百一十三號	
				二百一十四號	
				二百一十五號	
				二百一十六號	
				二百一十七號	
				二百一十八號	
				二百一十九號	
				二百二十號	
				二百二一號	
				二百二二號	
				二百二三號	
				二百二四號	
				二百二五號	
				二百二六號	
				二百二七號	
				二百二八號	
				二百二九號	
				二百三十號	
				二百三一號	
				二百三二號	
				二百三三號	
				二百三四號	
				二百三五號	
				二百三六號	
				二百三七號	
				二百三八號	
				二百三九號	
				二百四十號	
				二百四十一號	
				二百四十二號	
				二百四十三號	
				二百四十四號	
				二百四十五號	
				二百四十六號	
				二百四十七號	
				二百四十八號	
				二百四十九號	
				二百五十號	
				二百五十一號	
				二百五十二號	
				二百五十三號	
				二百五十四號	
				二百五十五號	
				二百五十六號	
				二百五十七號	
				二百五十八號	
				二百五十九號	
				二百六十號	
				二百六十一號	
				二百六十二號	
				二百六十三號	
				二百六十四號	
				二百六十五號	
				二百六十六號	
				二百六十七號	
				二百六十八號	
				二百六十九號	
				二百七十號	
				二百七十一號	
				二百七十二號	
				二百七十三號	
				二百七十四號	
				二百七十五號	
				二百七十六號	
				二百七十七號	
				二百七十八號	
				二百七十九號	
				二百八十號	
				二百八十一號	
				二百八十二號	
				二百八十三號	
				二百八十四號	
				二百八十五號	
				二百八十六號	
				二百八十七號	
				二百八十八號	
				二百八十九號	
				二百九十號	
				二百九十一號	
				二百九十二號	
				二百九十三號	
				二百九十四號	
				二百九十五號	
				二百九十六號	
				二百九十七號	
				二百九十八號	
				二百九十九號	
				三百號	
				三百〇一號	
				三百〇二號	
				三百〇三號	
				三百〇四號	
				三百〇五號	
				三百〇六號	
				三百〇七號	
				三百〇八號	
				三百〇九號	
				三百一十號	
				三百一十一號	
				三百一十二號	
				三百一十三號	
				三百一十四號	
				三百一十五號	
				三百一十六號	
				三百一十七號	
				三百一十八號	
				三百一十九號	
				三百二十號	
				三百二一號	
				三百二二號	
				三百二三號	
				三百二四號	
				三百二五號	
				三百二六號	
				三百二七號	
				三百二八號	
				三百二九號	
				三百三十號	
				三百三一號	
				三百三二號	
				三百三三號	
				三百三四號	
				三百三五號	
				三百三六號	
				三百三七號	
				三百三八號	
				三百三九號	
				三百四十號	
				三百四十一號	
				三百四十二號	
				三百四十三號	
				三百四十四號	
				三百四十五號	
				三百四十六號	
				三百四十七號	
				三百四十八號	
				三百四十九號	
				三百五十號	
				三百五十一號	
				三百五十二號	
				三百五十三號	
				三百五十四號	
				三百五十五號	
				三百五十六號	
				三百五十七號	
				三百五十八號	
				三百五十九號	
				三百六十號	
				三百六十一號	
				三百六十二號	
				三百六十三號	
				三百六十四號	
				三百六十五號	
				三百六十六號	
				三百六十七號	
				三百六十八號	
				三百六十九號	
				三百七十號	
				三百七十一號	
				三百七十二號	
				三百七十三號	
				三百七十四號	
				三百七十五號	
				三百七十六號	
				三百七十七號	
				三百七十八號	
				三百七十九號	
				三百八十號	
				三百八十一號	
				三百八十二號	
				三百八十三號	
				三百八十四號	
				三百八十五號	
				三百八十六號	
				三百八十七號	
				三百八十八號	
				三百八十九號	
				三百九十號	
				三百九十一號	
				三百九十二號	
				三百九十三號	
				三百九十四號	
				三百九十五號	
				三百九十六號	
				三百九十七號	
				三百九十八號	
				三百九十九號	
				四百號	
				四百〇一號	
				四百〇二號	
				四百〇三號	
				四百〇四號	
				四百〇五號	
				四百〇六號	
				四百〇七號	
				四百〇八號	
				四百〇九號	
				四百一十號	
				四百一十一號	
				四百一十二號	
				四百一十三號	
				四百一十四號	
				四百一十五號	
				四百一十六號	
				四百一十七號	
				四百一十八號	
				四百一十九號	
				四百二十號	
				四百二一號	



圖 九 第



火災系統圖

## 火 元

本所區菊川町一丁目、二丁目	三五四七〇〇〇	平方メートル
日本橋區本石町三丁目、本町三丁目	三四九二〇〇〇	
京橋區八官町	二七一二〇〇〇	
下谷町入谷町	二六一六〇〇〇	
赤坂區田町、新町	一八九九〇〇〇	
淺草區東京高等工業學校	一八七三〇〇〇	
京橋區靈岸島鹽町	一八七〇〇〇〇	
神田區猿樂町二丁目	一四三〇〇〇〇	
深川區東大工町	一四二五〇〇〇	
麴町區帝室林野管理局	一一九五〇〇〇	
深川區東六間堀町	一一八二〇〇〇	
神田區表神保町	一〇五二〇〇〇	
深川區門前東仲町	一〇四八〇〇〇	
初メノ二ツハ各總面積ノ十分ノ一ニ近イ面積ヲ燒イタ大火 デアル。		

各火系ノ面積ト火元ノ位置トヲ通覽スルニ全體ニバ火流ハ  
南及ビ東ニ多ク延ビテ居ル。然ルニ第二十二號ノ火元（東京  
高等工業學校）ノモノハ反對ニ西及ビ北ヘ延ビテ居ル。此理  
由ハ動態地圖ノ明カニ示ス如ク、九月一日ニハ其火足ガ遅ク  
テ停滯シテ居タガ九月二日ノ午後他所ノ火勢ガ衰弱シテカラ

第百號戊 大地震ニヨル東京火災調査報告

後ニ、西ヘ盛ニ燃擴ガツタノデ此所ニ限ラズ九月二日ノ午後  
ニハ西ヘ向ツタノガ多イ。又隅田川ニ跨ツタ火系、換言スレ  
バ隅田川ヲ飛越シタ火ハ四ヶ所アツテ火元デ云フト第五十  
七號、第六十三號ノ二ツハ隅田川ノ上流ニ於テ東岸カラ西岸  
ヘ、第四十三號、第四十四號ノ二ツハ下流ニ於テ西岸カラ東  
岸ヘ渡ツタノデアル。

警視廳消防部ノ調査ニヨレバ市内ニ於ケル燒失戸數ハ次ノ  
通りデアル。

麴町區	燒失戸數	五七三三
神田區		四六七〇九
日本橋區		二六〇二〇
京橋區		二八二九八
芝區		一五六五八
麻布區		九
赤坂區		二二七二
四谷區		八七七
牛込區		四
小石川區		九五六
本郷區		五八九三
下谷區		三三五九五

## 淺草區

五二八八三

## 本所區

五五三〇〇

## 深川區

四一八八〇

## 計

三一六〇八七

東京市ノ總戸數ハ同ジク警視廳ノ統計デハ當時四十四萬五百四十九戸デアアルカラ約七割一分焼失シタ事ニナル。

## 火足ノ速サト風

火ガ延焼シテ行ク速サハ火陣ノ曲線ヲ見レバ一目瞭然デア  
ル。動態地圖ニハ一時間毎ノ火陣ガ現ハシテアルカラ相隣レ  
ルニツノ火陣ノ間ノ距リノ「メートル」數ガ火ノ速度ヲ毎時何  
「メートル」トシテ示スコトニナル。速度ノ最速イ方ノ例ハ左  
ノモノデアアル。

深川區木場	九月一日午後七時ヨリ八時マデ	毎時八百二十「メートル」
深川區千田町	同 上	毎時六百五十「メートル」
深川區西横川町	九月一日午後八時ヨリ九時マデ	毎時五百二十「メートル」
京橋區月島	九月一日午後九時ヨリ十一時マデ	毎時五百「メートル」
深川區西永町	九月一日午後六時ヨリ七時マデ	毎時四百五十「メートル」
日本橋區高砂町	九月一日午後八時ヨリ九時マデ	毎時四百「メートル」
芝區愛宕下町	九月二日午前〇時ヨリ一時マデ	毎時三百「メートル」
淺草區田原町	九月二日午前〇時ヨリ一時マデ	毎時三百「メートル」
凡テ九月一日夕刻ニ近イ、又遅イ方ヲ見ルト、		
淺草區左衛門町	九月一日午後八時ヨリ二日午前六時マデ	毎時三十七「メートル」
淺草區元島越町	九月二日午前一時ヨリ八時マデ	毎時三十三「メートル」
淺草區神吉町	九月二日午前六時ヨリ午後四時迄	毎時三十「メートル」

龜町區平河町

九月二日午前十時ヨリ午後五時迄 毎時二十「メートル」

淺草區猿屋町

九月一日午後四時ヨリ夜半マデ 毎時十八「メートル」

等デアアル。此ノ如ク遅々トシテ進ム火ヲ數時間勝手放題ニ燃  
エサセタノハ如何ニモ残念デアアル。

實際ニ火ノ擴ガツテ行クノハ以前ニ考タ理想的ノ場合「即  
チ火陣ハ火元ヲ中心トスル圓デ、火流ハ其半徑デア場合」  
ノ様ナ單純ナモノデハナクシテ、地形ノ複雑ナ爲メニ受ケル  
影響ガアリ、可燃材料ノ分布ノ均一ナラヌ爲メニ場所ニヨツ  
テ火勢ニ強弱ガアリ、建物ノ大サニヨツテ火ノ粉ヲ散ラス工  
合ニ相違ガアル。又風ノ爲メニ火ガ一方ニ吹キ付ツケラレル  
事ノ爲メニ燃エ方ガ著シク複雑ニナル。此等ノ中デ風ノ影響  
ガ蓋シ最顯著ナルモノデアラウ。若シ風ガ非常ニ強クテ且ツ  
方向ガ一定シテ居ルト火ハ横幅ヲ大キクスル事無クシテ細長  
イ帯ノ様ニ延ビテ行ク。昔享保二年六月九日ノ小傳馬町三丁  
目カラ出タ火ハ千住近邊マデ幅ハ僅ニ五町デ長サ二里モ押シ  
テ行ツタ。然シ若シ風ノ方向ガ一定セズ或方向ヲ真中トシテ  
其左右ニ往來變化スルト火ハ扇形ニ末廣ガリニナツテ前ノ場  
合ヨリハ災害ヲ及ボスコトモ甚シク亦消防ニモ始末ガ惡イ。  
一體消防士ガ延焼ヲ阻止スルニ當ツテモ真正面カラハ火流ニ  
抵抗シ得ベキデナイカラ、左右カラ防禦シテ漸々横幅ヲ小サ  
クシ終ニ消止メ得ラレルノデアルト云フ。然ラバ末廣ガリニ

燃エテ行ク火ハ恐ロシイモノデアル。

扱、火災ノ時ニハ火ガ喚起シタ部分的ノ氣流ガアリ、ソレガ又火ニ反動シテ火ヲ煽ルコトモアルガ大體トシテハ矢張其日ノ一般ノ風ノ影響ガ決定的ノモノト思フ。今參考ノ爲メニ中央氣象臺ノ麴町區元衛町ト品川ノ崩レ臺場トニ於ケル風力ノ觀測ヲ見ルト次表ノ通りデアル、風速ハ秒米デ表ハサレ風向ハ風ノ吹キ來ル方位ヲ示シテアル。

風向及ビ風速表

時 日	麴 町		品 川	
12'	SSW	12.3	SSE	8.8
13'	S	11.7	S	8.0
14'	SSW	11.3	S	7.5
15'	SW	11.0	S	6.1
16'	SW	10.7	SSW	5.1
17'	S	13.7	SSW	4.6
18'	W	14.5	WSW	2.3
19'	W	13.1	WSW	2.0
20'	WNW	18.1	—	0.0
21'	NNW	18.5	WNW	2.8
22'	NNW	19.2	WNW	4.1
23'	NW	21.8	WNW	4.7
0''	NNW	17.6	WNW	4.5
1''	NNW	16.9	WNW	4.2
2''	N	15.4	—	5.3
3''	N	13.8	欠欠欠欠欠欠	4.7
4''	N	10.5	欠欠欠欠欠欠	4.1
5''	NNW	10.2	欠欠欠欠欠欠	4.4
6''	NNW	7.9	欠欠欠欠欠欠	2.8
7''	NW	7.9	欠欠欠欠欠欠	0.3
8''	N	5.4	SE	0.5
9''	SSW	4.6	—	0.1
10''	SW	4.4	SW	1.7
11''	SW	5.1	—	0.1
12''	SW	5.6	SW	0.5
13''	SW	6.9	SSW	0.7
14''	SSW	5.9	SSE	2.9
15''	SW	5.7	S	1.1

此表デ見ルト火災地域ノ界ノ上ニアル麴町區元衛町ト火災カラ遠イ品川トデハ風速ニ著シイ相違ガアルガ、然シ風向ノ方ニハ餘リ著シイ違ヒガ無イ。今市中ノ方ニ重キヲ置イテ見

ルト、九月一日ノ夕刻マデハS又SWノ風デアツタガ午後六時七時ニ正西ノ風トナリ午後八時カラ北ニ廻ルト同時ニ風速著シク増大シテ翌二日午前二時、三時ニ風速稍衰ヘテ正北風トナリ午前八時マデハNトNWトノ間ヲ往來シテ午前九時以後ハ主トシテSWノ弱風デアツタ。上表ハ一時間ノ平均値デ刻々ノ模様ガ現ハレテ居ナイカラ中央氣象臺ノ風向ヲ自記シタ記象ヲ見ルト、九月一日ノ午後五時前カラ後ニカケテ暫時ノ間ニSWカラNWSEENEト變化シテ午後五時半カラWニナツタノデアルシ又午後十時ニ十五分時間ノ間ニ風向ノ大變化ガアツテカラ風向ガ轉々シテ東西南北ニ變ジ終ニNWニ落付テ居ル。九月二日ノ午前八時ニモ稍著シイ風向ノ變化ガアツタ。麴町デ觀測シタ風向風速ガ東京全體ニ適用デキスコトハ勿論ダガ、而モ尙九月一日ニハ風ガ初メSWデ夫カラWNWト變化シ夜半NWノ時ニ風速ガ最大デアツタトスルト諸所ノ火ノ燃エ方ガ良ク説明シ得ラレル様デアル、例ヘバ第四十號第四十一號ノ日本橋ノ火元ノモノ或ハ前ニ述ベタ淺草ノ凌雲閣ノ下ノ火元第十七號ノモノ、火ノ進ミ方ヲ動態地圖上デ辿ツテ見ルト明カデ、風ガNWノ強風ニナツテカラハ横幅ヲ擴ゲズニ急轉直下シテ居ル。

次ニ又九月一日ノ午後ニ風向ノ變化ガ甚シカツタノデ、此間ニ火ガ横ニ擴ガリ燒失區域ノ大部分ハ九月一日ノ初夜マデ

ニ燒拂ハレタト云フテ良イ程デアル。例へバ<sup>18'</sup>ノ火陣ノ位置ヲ調べテ見ルト本所區デハ殆大部分ガ同時刻マデニ燒失シテ居テ、後ニハ燒ケタガ其時マデハ未ダ燒ケズニ居タ所トシテハ、ソノ北隅ニ於テ僅ニ向島中ノ郷町、押上町ノ一角アルノミデ、東側ニ於テハ柳島ノ元町カラ横川町柳島町カラ柳原町二丁目以東ノ狹長イ地域、西側ノ隅田川邊デハ唯横網町、元町ノ兩國橋際ノ狹イ所ガアルノミデアル。

附圖ハ九月一日午後一時カラ同日夜半迄毎時間又九月二日ノ午前三時、六時、九時ニ於ケル燒失地域ノ略圖デアル。之レデ大體ノ火ノ推移ガ明カデアラウ。之ヲ見ルト九月二日午前零時以後ノ弱イ火ヲ防ガナカツタノハ地震ニ對スル恐怖ノ爲ニ意氣沮喪シテ消火ヲ放棄シタカラデアルト斷案セラレル。

全體ノ火事ノ中デ最後ニ火ニ攻メ寄セラレタハ何所カト云フニ、第二十五號ノ火元下谷區北大門町ノニ基ヅクモノガ湯島ノ天神下デ九月三日午前六時ニ襲ハレタノデアルガ然シ之レハ火元ノ發火時刻ガ九月三日ノ午前二時デアルカラ此ハ例外トシテ地震直後ニ發火シタ火元ニヨルモノニ就テ考ヘレバ第二十二號ノ藏前ノ東京高等工業學校ノ火ガ九月三日ノ午前三時ニ神田區榮町(萬世橋上野間電車道ノ東側)ニ到着シタノデアル。動態地圖ニ就テ火ノ徑路ヲ辿ツテ見ルト其迂迴シタ工合、火足ガ時々ニヨツテ遲速變化ガアル等此火ハ誠ニ興味

アル火災ノ一デアル、例へバ有名ナル神田區和泉町、佐久間町ノ一角ノ燒殘サレタル理由モ此火ノ徑路ノ如何ニヨルシ、又此火ガ上野廣小路ニ到着シタノガ九月二日ノ午後九時十時デアルカラ或ハ第二十五號ノ下谷北大門町ノ火ハ之レ或ハ其餘燼ニヨル飛火デハアルマイカトモ思ハレルノデアル。

第十乃至二十一圖ハ九月一日午後一時乃至同夜半毎時ノ燒失地域。

第二十二乃至二十四圖ハ九月二日午前三時以後毎三時ノ燒失地域。

第二十五圖ハ有樂町ノ火災ヲ馬場先ヨリ見ル、此頃ニハ東京全體ヲ焦土ニスルトハ知ラズニ多クノ人ハ火事見物ヲシテ居タ。

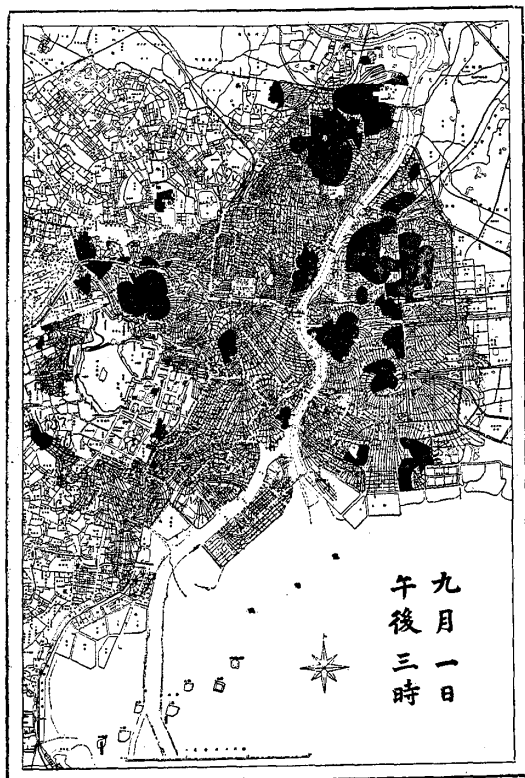
第二十六圖ハ日比谷公園ニ於ケル火災見物。

#### 安政二年ノ江戸大震火災

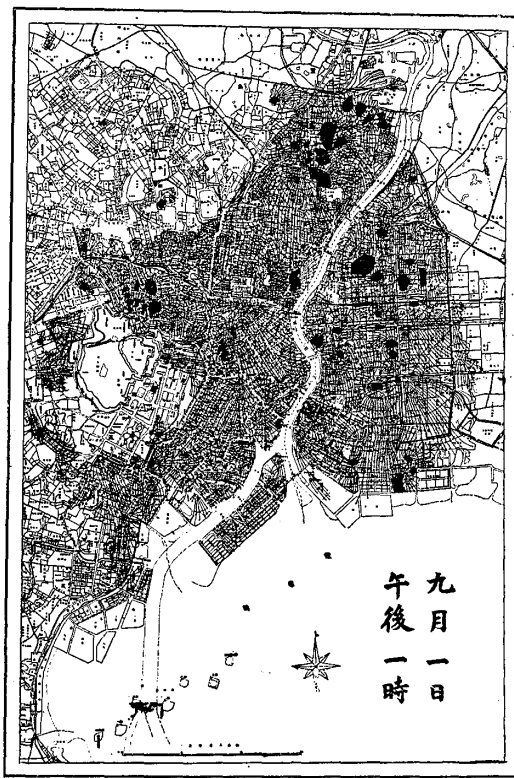
安政二年十月二日ノ江戸大地震ニハ火災ガ續發シタノデ、今度ノト大ニ其趣ヲ同フシテ居ルカラ參照ノ爲メニ其時ノ火災ヲ略說スル。此材料ハ主トシテ大正六年東京市役所發行ノ東京市史稿變災篇ニ載セテアルモノデ、尙二、三ノ火災地圖ヲ參考シテ取捨シ、新タニ安政火災地圖(第二十八圖)ヲ作り尙燒失地域火元燒失面積ノ全體ヲ示ス表ヲ作ツタ。舊幕時代ニハ社寺ニ屬スル土地ヤ武家ノ邸宅ハ町ノ中ニ入レテ無イカラ



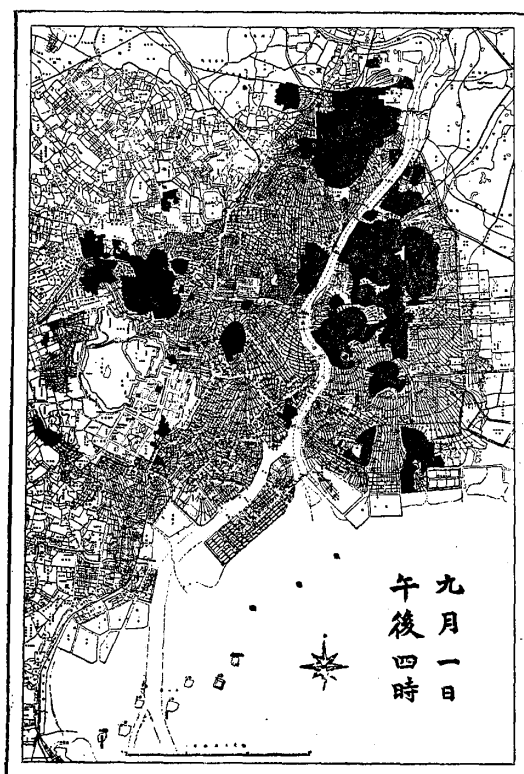
圖二十第



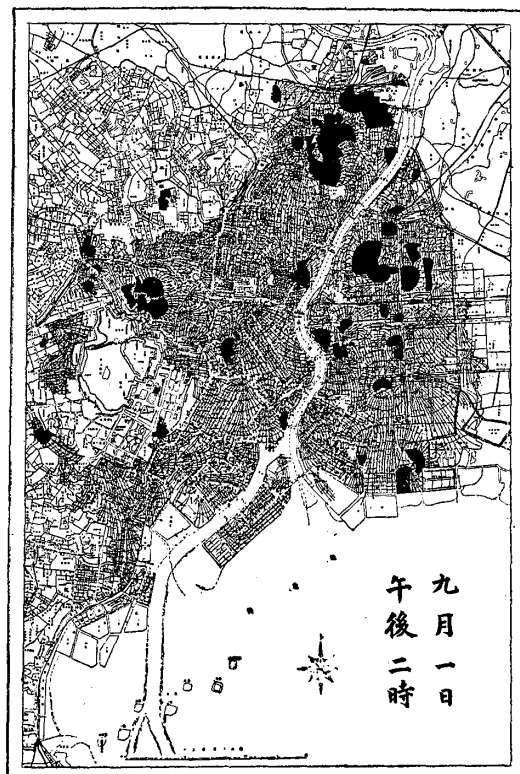
圖十第



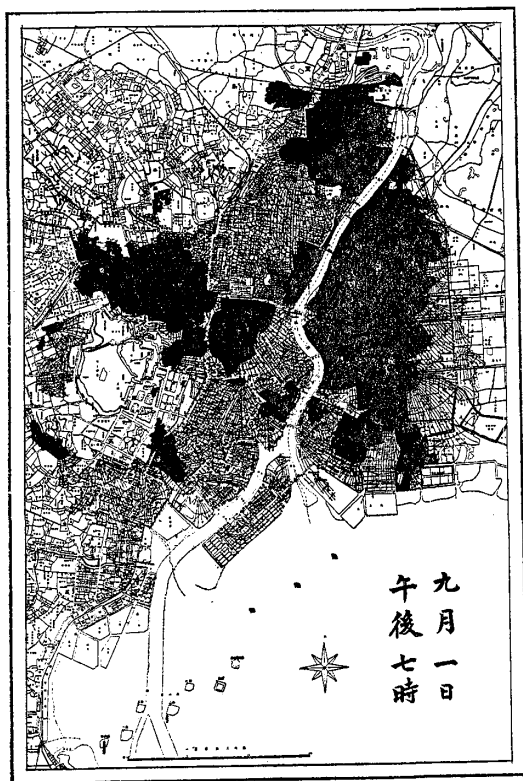
圖三十第



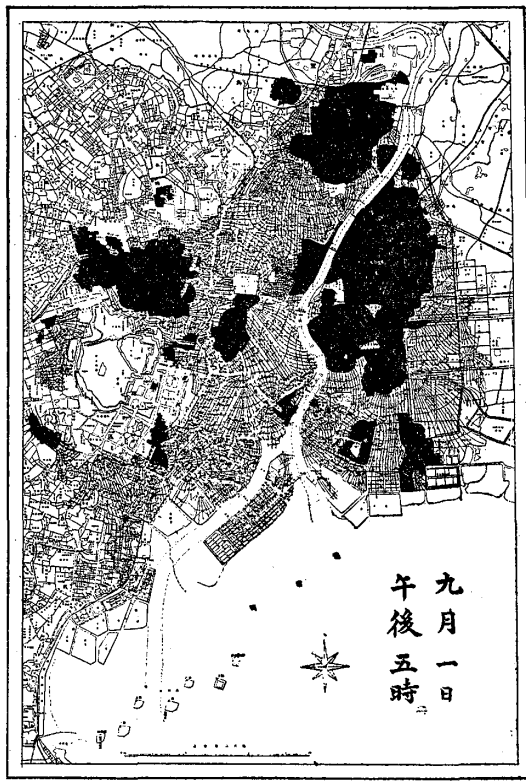
圖一十第



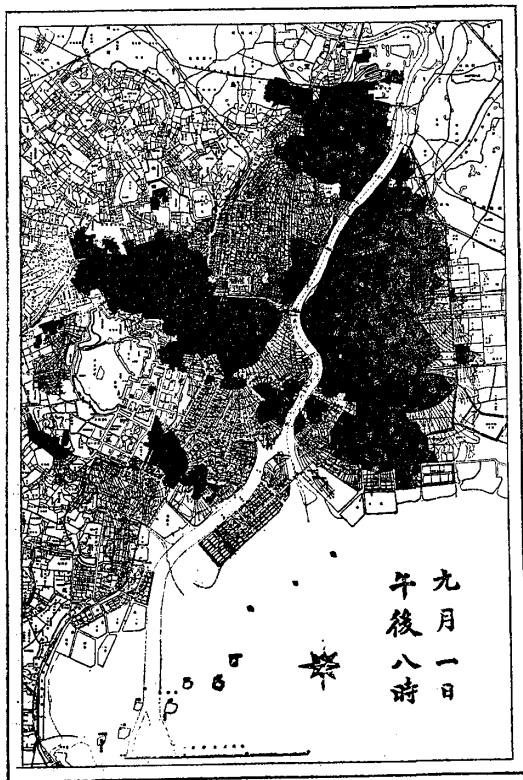
圖六十第



圖四十第



圖七十第



圖五十第

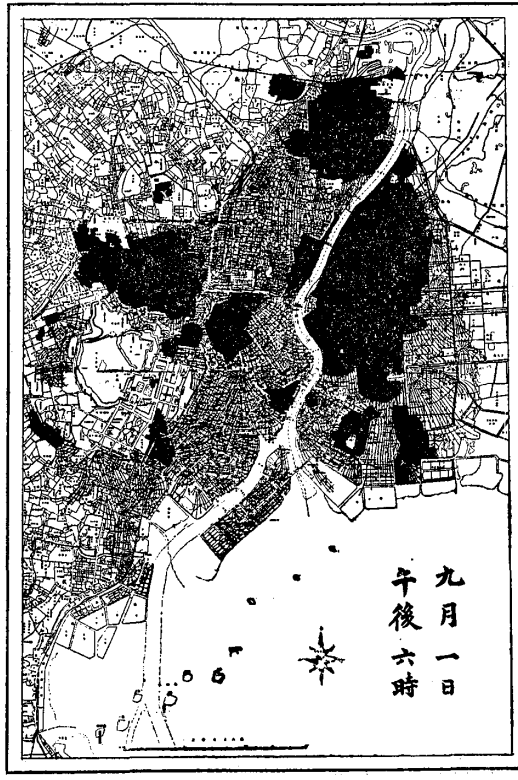


圖 十 二 第

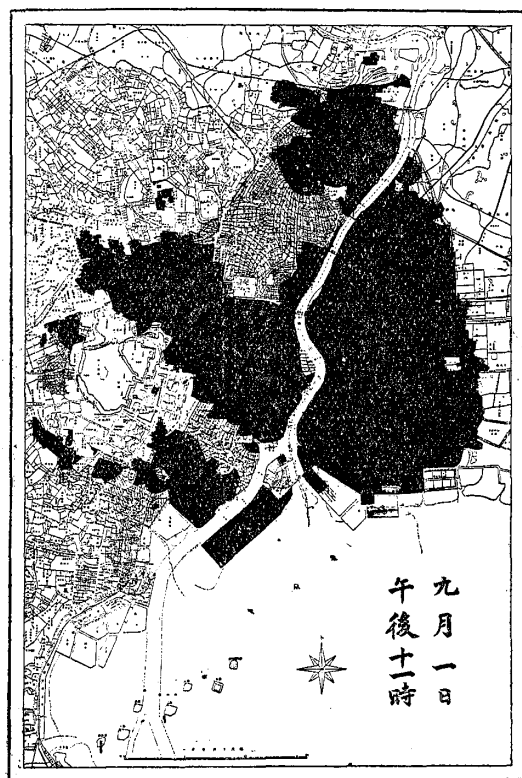


圖 八 十 第

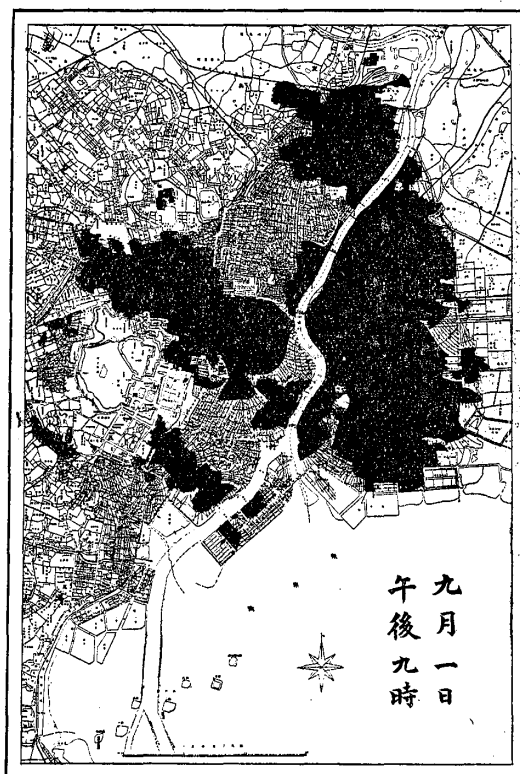


圖 一 十 二 第

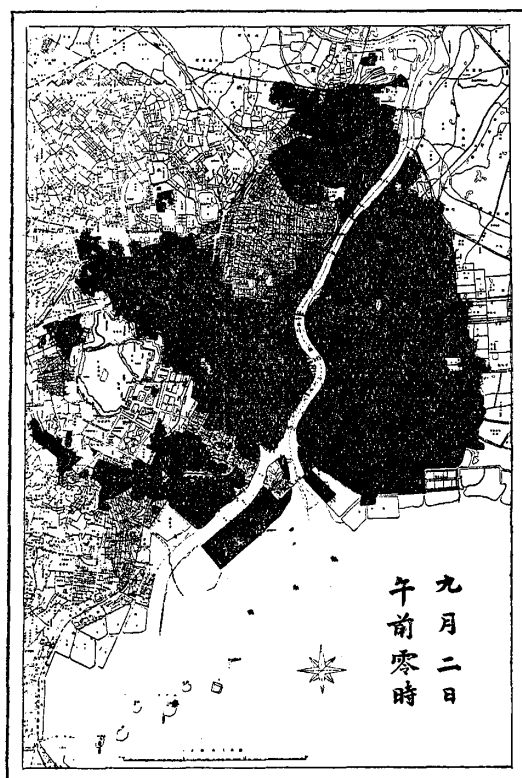


圖 九 十 第

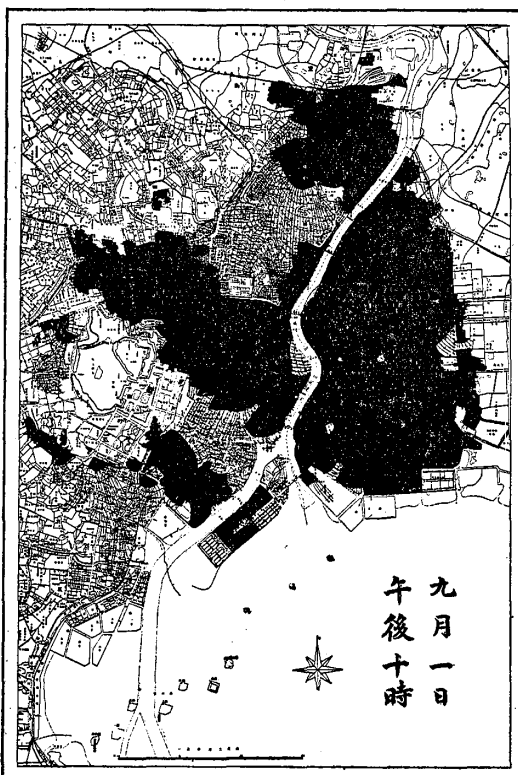


圖 四 十 二 第

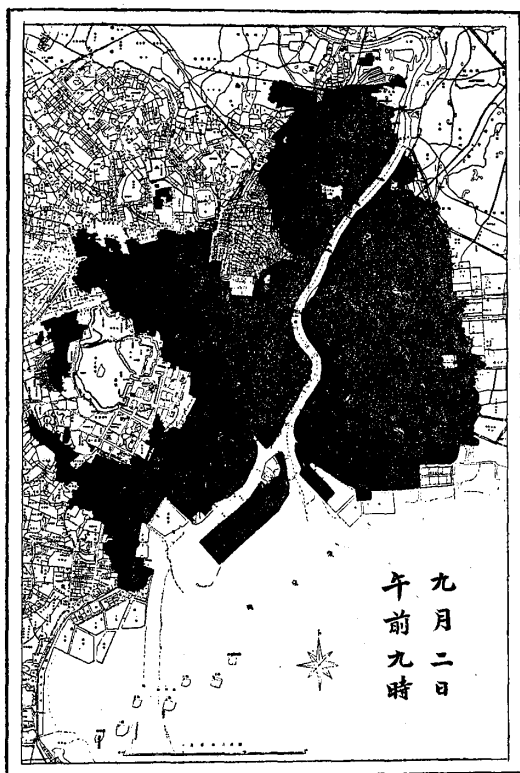


圖 二 十 二 第

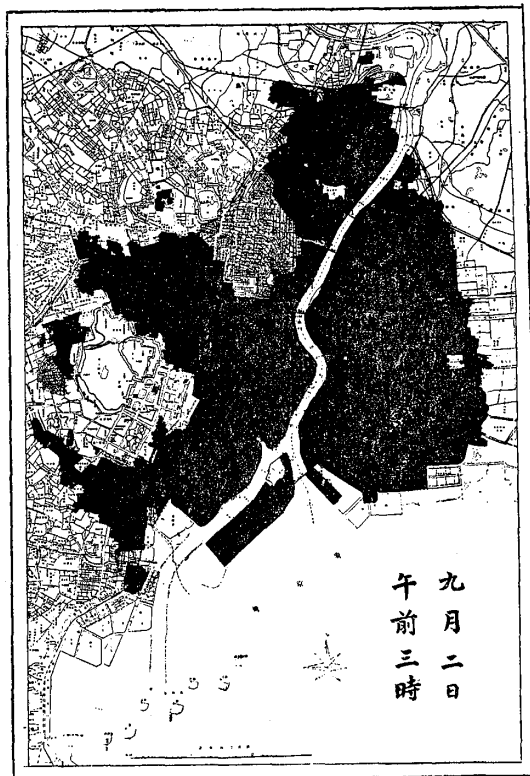
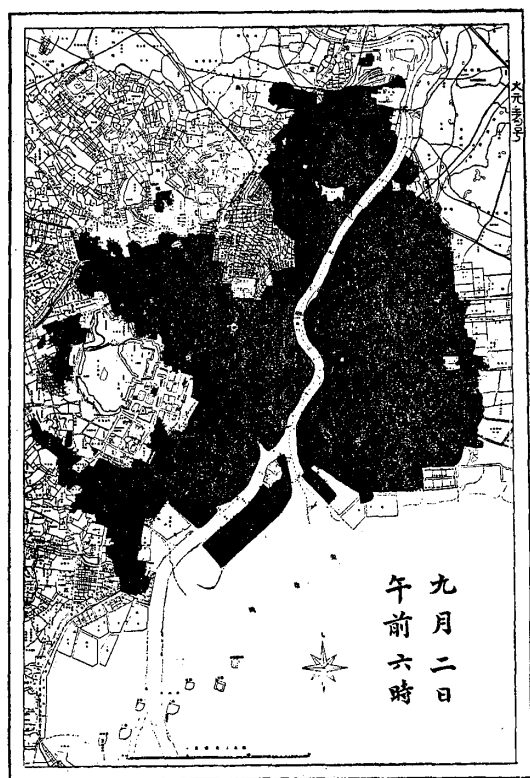


圖 八 十 二 第



圖 三 十 二 第







千住	淺草	淺草	吉原	淺草寺中	駒形	菊屋橋際	同上	龜戸	中ノ郷	同	中ノ郷	中ノ郷	
90×50	70×20		180×140	480×150	240×30	65×30	80×12		50×20	140×27			
小塚原町 中村町 三ノ輪代地	橋場町	今戸町	吉原五ヶ町	田町一、二丁目 猿若町、淺草 横町、山ノ宿町、花川戸町、聖天 横町、南馬道町、北馬道町	駒形町、黒船町、諏訪町、三好 町、三軒町、八軒町	行安寺門前 本立寺門前 正行 寺門前	龍光寺門前	龜戸町 五ノ橋町	本所出村町 中ノ郷代地	中ノ郷竹町、中ノ郷瓦町、竹腰 兵部少輔、松平周防守	小梅瓦町、本所元瓦町、松倉町	本所緑町一、二丁目 相生町五 丁目	
	金座下吹所	今戸橋際料理屋 玉屋	江戸町二丁目 松五郎、幸吉	淺草寺中小兵衛	駒形町 龜次郎 三好町 彌兵衛	喜十郎	傳七				元瓦町 新藏	同緑町二丁目市五郎 同二丁目與兵衛	

本所	法恩寺橋際	本所	深川	深川	深川	深川	深川	深川	深川	深川	深川	深川	深川
600×20	80×8	180×30	420×150				180×30	600×180					
本所緑町四、五丁目 花町植 村帶刀	太平町	番場町、寄場町、石原町、荒井町 若宮町、諏訪若狹守組屋敷	八名川町、六間堀町、神明門前 織田、森下町、御船藏前町、河田、 織田、新見	常盤町一丁目、井上、小笠原 太田	西町	伊勢崎町	龜久町	佐賀町、富吉町、黒江町、中島 町、蛤町、熊井町、諸町、大島 町、相川町	永代寺門前仲町、門前東仲町 門前山本町	同 東仲町 山本町	同 東仲町 山本町	同 東仲町 山本町	同 東仲町 山本町
花町徳兵衛緑町 五丁目 安兵衛	徳右衛門町二丁 目 總兵衛	番場町 新太 荒井町 忠八	森下町 勘四郎、御船 藏前町 久兵衛、御船 勘次郎、六間堀 町 新藏、勝五郎			市兵衛	金兵衛	蛤町 伊右衛門 黒江町 善兵衛 大島町 幸次郎 熊井町 利八	永代寺門前仲町 竹次郎 金次郎 金次郎	同 東仲町 山本町	同 東仲町 山本町	同 東仲町 山本町	同 東仲町 山本町

上表ニ火元ノ記入シテ無イ不明ノモノハ假リニ一ツ宛アツ  
タトシテ計算スルト火系ノ數ガ四十七個デ起災火元ノ數ガ六

十六個デアル、之ヲ今度ノ火系ノ數五十八個起災火元ノ數八十四個ト比較スルト著シイ差ハナイ。

然シ燒失面積ニ於テハ著シイ差ガアルコトハ地圖ヲ見レバ一目瞭然デアツテ安政震火災ノ燒失面積ハ大正震火災ノ九月一日午後二時頃ノ面積ト大差ガナイ、今上ノ表ニ記シテアル燒失面積ノ記入シテアルモノダケヲ合計シテ見ルト、約五十九萬坪ニナル、故ニ記入シテ無イモノヲ之ニ加ヘタ處デ總面積六十萬坪ト見テヨカラウ、尙東京市史稿變災篇第五第七八二頁所載ノ「地震後所々出火之儀申上候書付」ト題スルモノニ江戸ヲ北ノ方、南ノ方、本所、深川ノ三區域ニ分カツテ統計シテアルモノニヨルト

北ノ方	長サ一里二町四十間	幅平均一町四十七間
南ノ方	長サ二十一町十間	幅平均二町二十四間
本所深川	長サ三十一町十間	幅平均一町四十三間

ト記シテアルカラ之レデ計算スルト總面積ガ六十二萬坪トナル。

今假リニ安政大震火災ノ燒失面積トシテ六十一萬坪ヲ取リ之ヲ大正大震火災ノ一千一百五十萬坪ト比較スルト安政ノ火事ハ僅カニ十九分ノ一ノ小火デアルト云フコトニナル。

前ニ火元ノ地理的分布ニ就テ述べタ時ニ地盤ノ惡イ所ハ地震ガ強く、火災ガ起リ易イコトヲ論ジタガ安政二年ノ時デモ

全ク同様デアツタ、神田今川小路附近、淺草吉原附近、深川八幡ノ近所等殆ンド全ク同ジコトヲ繰返シテ居ル様デ安政ノ火災圖ト今度ノ九月二日午後二時頃ノ燒失地域圖トヲ對照スルト一目瞭然デアル。

#### 交通不可能ニナツタ橋

燒失區域内ニ於テ多數ノ橋ガ交通不可能トナツテソレガ爲メニ市民ノ蒙ツタ迷惑ハ莫大ナモノデアツタ、避難者ハ逃路ヲ失ヒ消防隊ハ其活動ヲ阻止セラレテ人民ノ財産モ生命モ之ガ爲メニ危クセラレタ。直接地震ノミニヨツテ破壊セラレタト云フ橋梁ハ極メテ少數デ殆全部ヲ燒燬シタモノト考ヘテ良イ。此等ノ橋ノ正確ナ數ヲ舉ゲルコトハ困難デ深川區千田町木場町等ニアル多數ノ無名ノ小橋ナドヲ數ヘルカ數ヘヌカデ數ニ大差ガ生ズル、吾々ノ調査デハ交通不能ノ橋ガ二百三十七個アツテ其外ニ小橋三十三ヲ算スルコトガ出來ル。此數ハ陸軍ノ陸地測量部ノ調査及ビ警視廳ノ調査トハ少シノ相違ガアルガ著シイモノデハ無イ、警視廳ノ調査ニヨル橋名ハ緒方委員ノ報告ニアリ、參照セラレタイ。

橋ラシイ橋ガ二百三十七個ト、小橋三十三個ヲ加ヘルト二百七十個ノ橋ガ交通不能トナツタノデアルガ、燒失區域ニアル橋ノ總數ハ三百五十三個ヲ算スルカラ約四分ノ三ガ損害ヲ受ケタコトニナル、當ニシテ行ツタ橋ガ四分ノ一シカ殘ツテ

居ナイノデ市民ノ困ツタコトハ如何デアツタデアラウ。

## 第二十八圖 燒燬シタ永代橋

## 第二十九圖 日本橋川ニ架シタ西河岸橋ノ殘骸

### 第三篇

#### 飛 ビ 火

飛火ハ動態圖ニハ赤ノ三角デ示シタルガ此位置ヲ定メルコトハ中々ニ困難デアツテ、自發ノ火元デアルカ他カラ來タ飛火デアルカノ區別ガ六ツカシイ場合ガ多イ、火流ガ之レカラ流レ出ス點ニ於テハ火元モ飛火モ同様デアルカラ余ハ火元ヲ第一次ノ中心(Primary center)飛火ヲ第二次ノ中心(Secondary center or Subcenter)ト呼ブコトニシタ、ソレカラ又飛火デアルカ延燒デアルカニ就テ判定ニ苦シマシメル事柄ガアル、ソレハツマリ一體飛火トハ何ゾヤト根本的ニ定義ヲ下スコトノ困難デアルコトニ歸スル。今隅田川ヲ言問カラ今戸ニ

飛ンダトカ築地カラ月島ニ飛ンダ或ハ神田川ヲ駿河臺カラ本郷臺ヘ飛ンダトカ言ヘバ之ガ飛火デアルト云フコトニ就テ誰モ異議ヲ挾ムマイガ、然ラバ川幅ヲ狹クシテ今川橋ノ架ツテアル小川ヲ越シタノハト言ヘバ之ハ飛火トハ言ハヌカモ知レヌ。川幅幾間以上ハ飛火トシ以下ハ飛火トセヌノハ變ナモノデアル。然ラバ飛火ハ飛ビ出シタ處ト飛付イタ處トノ中間ニ

可燃物質ガアルノヲ越シタノニスルト隅田川ヲ越シタノハ飛火デ無イ様ナコトニナル。火焰ガ直接ニ届イタノガ延燒デ火ノ粉デ擴ガルノガ飛火ダトスルト、殆總テノ火ハ飛火デ擴ガツタ様ナコトニナル、或ハ飛火トハ其場所ガ當然燃エ出スベキ筈ト豫期セラレル時刻ニ先ダツテ、燃出シタモノダトスルノモ良イカモ知レヌガ、兎ニ角飛火ノ定義ヲ下スコトハ誠ニ困難デアル、カラ此ハ例ノ常識デ判斷スルヨリ外ニ仕様ガ無イ。ツマリ判斷ノ方法トハ之ヲ第二次ノ中心ト見做シ得ルカ、其所カラ火ガ擴ガリ始メタカト云フコトヲ目安ニシテヤルノデアルガ、然シソレモ餘リ嚴密ニハ出來ヌ。其故ニ動態地圖ニアル飛火ノ數ナドハ餘リ重キヲ置ク譯ニハ行カヌ、兎ニ角動態地圖ニハ二百四十個ノ飛火ノ印ガ記入セラレテアル、尙言フ迄モ無イガ飛火ニハ火元ト同様ニ起災飛火ト消止飛火トノ二ツノ種類ガアル。

飛火ニヨツテ延燒ヲ助長スル原因ノ一トシテハ大厦高樓ノ存在ハ見遁スベカラザルモノデアル、本願寺ノ如キ巨大ナル木造建築或ハ米國風ノ所謂ビルディング式ノ建物ハ共ニ恐ルベキモノデ、特ニソレガ周圍ノ群ヲ抜イテ高ク聳エテ居ルトキ一層恐ロシイ、建物ガ高ケレバ遠方カラ飛ンデ來ル火ノ粉ヲ捉ヘル媒トナツテ先ヅ自ラ火ヲ引キ一旦燃エ初メルト今度ハ四方ヘ火ノ粉ヲ散布スル中心トナルカラ害毒ガ二重ニアル譯

デアル。此點ニ關シテ同時ニ考察スベキハ今度ノ大火災ノ如キ場合ニ於ケル恐レベキ溫度ノ高サデアル、鐵材ガ飴ノ如ク曲ガリ(第二十圖)花崗石ガ鱗ノ如ク剝脫シタノヲ見ルト(第三十一圖)如何ニ溫度ガ高カツタカガ推測セラレル。之ヲ見テ同時ニ吾人ノ直チニ感ジタコトハ此等ノ材料ヲ火熱ニ曝露シタ狀態ニ於テ使用スルコトノ危険ナコトデ此等ノ材料ハ非耐火的惡材料デアル、此ハ鐵骨「コンクリート」家屋ニ於ケルガ如キ施工方法ヲ採リ他ノ耐火材料ヲ被覆シテ使用スベキデアルコトヲ吾人ハ教ヘラレタ。中央氣象臺ノ報告ニヨレバ火ノ燃エテ居ル所ノ溫度ヲ攝氏ノ九百五十度トシテ、ソレカラ十三「メートル」六ノ所デハ氣溫ガ三百度四十五「メートル」五ノ所デ四十六度三デアツタト云フコトデアル。此氣溫ト云フノハ溫度ヲ測ル寒暖計ガ空氣ノ自由ニ流通スル而モ直接火カラ來ル幅射熱ニ曝露セラレナイ様ニ箱ノ中ニ入レテアルトキニ示ス空氣ノ溫度デアツテ、若シ直接熱源ニ曝サレテ強イ幅射熱ヲ浴セカケラレル場合ニハ溫度ハ隨分高クナルモノデア、例ノ火事裝束デ無ケレバ火事場ニ入レヌトカ或ハ今度ノ火事デ水中ニ飛込シテ居タ人デモ絶エズ頭ニ水ヲカケテ居ナケレバ凌ギカネタト云フノハ隨分火カラ遠イ所ノコトデア、況ンヤ火ニ直面シタ所デハ木材ノ如キハ其引火點以上ニ熱セラレルカラ微細ナ火ノ粉ガ一ツ飛附イテモ直チニ爆發的

ニ發火スルノデア。若シ建物ガ瓦葺ノ木造デモ同シ高サデ建揃ツテ居ルト家ノ外壁ハ木ノ下見板デモ相互保護ヲ爲シ火ニ直面シテ曝ラサレルコトガ無ク、隨ツテ高溫度ニナラヌカラ屋根ノ上ノ火粉サヘ掃落セバ防火ガ出來ルケレド建物ガ孤立シテ高ク四周ノ群ヲ抜イテ聳エテ居ルトサウハ行カヌ、屋根モ四壁モ耐火デナケレバナラヌ、窓モ火ノ入り込ミ得ヌ様又火ヲ噴キ出サヌ様ニ設備シテ無ケレバナラヌ、コレハ此ノ如キ高イ建物ニ火ガ入ルト其構造上恰モ煙突ノ如キ作用ヲ爲シ下カラ新鮮ナ空氣ガ入ツテ盛ンニ上昇氣流ヲ生ジ、爲メニ火勢ハ猛烈ヲ極メ火粉ハ窓ヨリモ盛ンニ噴出セラレテ四散スルカラデア、中央氣象臺刊行ノ關東大震災調査報告氣象篇ノ第九頁ノ文ヲ引用スレバ

中央氣象臺ノ火ハ一時半頃(九月二日午前)最モ盛ニシテ本館燒失後次第ニ附屬官舎等ヲ燒キ午前三時頃下火トナリタリ。東京主要部ノ燒失セルモ亦略同時刻ニシテ日本橋區方面數ヶ所ノ大廈高樓ヨリ噴出スル火焰ハ白色光ヲ放チテ眩耀シ其裾ヲ圍メル火原ハ見渡ス限リ隙間ナク動搖シ搔亂シ其壯觀其悽慘實ニ想像形容ヲ超越ス。云々トアル、高イ建物ノ窓等カラ迸リ出ル火焰ノ溫度ガ高イコトハ此文ニアル通り其色ノ白イコトガ判ル。此ハ全ク燃エル物が豊富デアツテ上昇氣流ガ建物ノ中ニ盛ンデアツタカラデア

ル。此等ノ高イ建物ノ殘骸ヲ見ニ行クト其高熱ノ火焰ノ窓カラ噴出シタ爲メニ壁ガ變色シテ居ルノガ歴然トシテ現ハレテ居ル(第三十二圖)。實ニ建物ガ高ケレバ火粉ヲ撒キ、大ナレバ可燃質ガ豊富デアルカラ火勢ガ強ク永續スルノデ大厦高樓ハ危険物デアル。故ニ大建築物ハ其高サ其大サニ相應シテ耐火震ノ程度ヲ高メル必要ガアル。之レハ建物自體ニ就テ言フ許リデナク窓及ビ窓枠トカ或ハ屋上ニアル設備ニ就テモ注意スル必要ガアル。耐火建築デモ窓ヲ鎖スコトヲ忘レタトカ或ハ其閉鎖方法ガ餘リニ器械的ニ巧妙デアアル爲メニ其場所ニ居タ人ガ閉鎖法ヲ知ラズ、鎖サレナカツタノデ燒ケタト云フ例モアルシ或ハ地震ノ爲メニ工合ガ惡クナツテ鎖サレナカツタト云フ例モアル。窓及ビ窓枠ハ鐵製デ而モ其鐵材ヲ露出セシメズ、或ハ日本在來ノ土藏ノ扉ノ如キ漆喰塗トカ或ハ「コンクリート」造トカニシテ巧妙ナ仕掛ケヲ排斥シ度イ。窓ノ硝子板モ金網入りニシテ容易ニ破損セザルモノヲ使用シ度イ、第五十二號ノ火元ナル麴町區ノ日本齒科醫學專門學校ノ火ガ其隣ニ甚密接シテ建ツテ居ル木造ノ小學校ニ附カナカツタノハ(第三十三圖)齒科醫專ノ窓硝子ガ金網入りデ硝子板ガ破損セズ火ガ小學校ノ方ニ噴キ出デ無カツタカラデアアル、實ハ齒專ノ方デ小學校カラノ火デ類燒スルコトガアルカモ知レヌヲ慮リ、平素カラ此ノ如キ設備ヲシタノデアアルガソレガ反

對ニ自身ノ方カラ火ヲ出シタガ此硝子板ガ他へ迷惑ヲ掛ケヌコトニ役ニ立ツタノデアアルト傳ヘラレテ居ル。

屋上ニアル設備モ大ニ注意スベキモノト思フ、麴町區虎ノ門内ノ東京女學館ハ赤坂田町ノ火ガ永田町ノ鍋島邸ニ飛火シソレカラ更ニ飛火シテ來タノデアアルガ、女學館カラノ火粉ガ芝區琴平町一番地ノ藤屋洋品店ノ屋上ニアル物干臺ニ乾カシテアツタ洗濯物ニ付イテ夫カラ南佐久間町、田村町方面ヘ擴ガツタ第二次ノ中心トナツタ。帝國劇場ノ燒ケタノモ屋上ニ立ツ翁ノ像ニ木製ノ部分ガアツテソレガ火ヲ捉ヘタカラデアルト云フ。神田區鎌倉河岸ノ渡邊葬儀店デハ屋上ノ「ペンキ」塗看板ニ飛火シタ、中央氣象臺ハ先ヅ本館ノ二階ノ廊下ニ燃エ付キノソレカラ延燒シタ、兎ニ角屋上ニ可燃物ノアルノハ恐ロシイ事デアル。

此所ニ於テ是非一言シテ置キ度ノハ木造家屋ノ建築ニ使用スル木材ニ施ス耐火藥劑ノ件デアアル、此等ノ藥劑ハ既ニ多數アル様デアアルガ之レヲ施シタ木材ハ焦ゲハスルガ火焰ヲ發スルコト無キモノデアアル、此研究ハ延燒ヲ防止スル點カラ見テモ一日モ忽カニスベカラザルモノデアアルト思フ。

木造家屋ノ外壁ガ屋根ト同様ニ少シデモ耐火ニナツテ居ルコトハ願ハシイコトデアアル、下見ニ「トタン」ノ生子板ヲ使用シタモノガ防火ニ對スル成績ガ意外ニ良イ様ニ思フ、寺田委



員ト燒跡ヲ視察スルトキニ燒殘リノ孤立シタ家ニ此例ガ多イ  
コトニ氣ガツキ、後ニハ遠方カラ燒殘リノ家ヲ望ンデ又生子  
板張りカト戲言ヲシタ程デアツタ。

高イ建物ノ燒ケ方ノ面白イ例ハ京橋際ノ第一生命相互保險  
會社ノ建物デ、此ハ五階以上ノ高層ハ飛火デ燒ケ一、二階ハ  
其中ニ避難シタ人ノ荷物ニヨツテ燒ケ中央ノ三、四階ハ無事  
デアツタ、深川區福住町ノ澁澤倉庫デモ高イ所ガ燒ケテ低イ  
所ハ災厄ヲ免レタ。

飛火ニヨル延燒ノ恐ロシイ例ハ第四十四號ノ火元京橋區八  
官町ノ火ガ先ヅ尾張町ヲ襲ヒ川ヲ越シテ木挽町ヲ侵シ、更ニ  
飛火、飛火ト川ヲ越シテ築地ニ入り、明石町、南本郷町、海  
軍造兵廠ト扇形ヲ爲シテ火陣ヲ擴ゲ九月一日午後九時ニ隅田  
川ヲ一躍シテ月島ヲ燒盡シタモノデアアル。

### 第三十圖 淺草區觀音劇場ノ燒跡

### 第三十一圖 花崗石ノ丸柱

### 第三十二圖 防火扉ノ閉ヂタ窓ト閉ヂザル窓

### 第三十三圖 富士見町ノ齒科醫專附近ノ飛行撮影

#### 耐火構造ト耐震構造

地震ニ伴フ火災ニ於ケル一特徴ハ所謂耐火構造ガ地震ノ爲  
メニ耐火性ヲ失ヒ、意外ナ延燒ヲ見ルコトデアアル、耐火構造  
ヲシテ地震ノ時ニモ有效ナラシムル爲ニハ耐火ニシテ同時ニ

耐震ナルコトヲ必要條件トスル。耐火構造ガ其耐火性ヲ失フ  
普通ノ場合ハ第一ニ土藏等ニ多クノ例ヲ見ル所ノ屋根瓦ガ墜  
落シテ屋根組ノ木部ヲ露出シソレニ引火スルコトデアアル、此  
點ニ注意シテ災厄ヲ免レタ一ツノ例ハ本郷區湯島一丁目ニア  
ル一ツノ土藏ハ瓦下ニ丁寧ニ漆喰ガシテアツタモノデ、此ハ  
學ブベキ方法デアアル。外觀ノミデ無ク其使用ノ目的ニ協フ様  
ニ注意シテ施工シタ營造物ハ總テ危急ノ時ニ其能力ヲ發揮ス  
ルモノデアアル、第二ニ甚多クアツタ場合ハ煉瓦造ノ建築ニ於  
テ屋根下ノ三角形ヲシタ破風ガ振り落サレテ大穴ガアキ、夫  
カラ火ガ屋根裏ニ入り上カラ下ヘト燃エ行クノデアアル。(第三  
十四圖)東京帝國大學圖書館ノ燒失ハ此種ノ最モ悲シムベキ  
一例デアアル。第三ニハ土藏等ニ於テ壁ガ落チソレカラ火ガ入  
ツタモノデ之モ随分澤山ニ其例ガアル、特ニ土藏ニハ此種ノ  
例ガ多イ、又地震ノ爲メニ耐火建築物ニ於テ窓ノ鐵戸ガ動カ  
ナクナツテ閉鎖スルコトガ出來ズ火ヲ入レタノモ中々ニ多  
イ。火ハ甚小ナル孔カラデモ入り込ムモノデ其建物内ニ吸込  
マレル勢ハ非常ナモノデアアル、暖爐用ノ小煙突ノ出口ノ孔カ  
ラ火ガ入り込ンダ跡ガ壁ニ印シタ變色ニヨツテ判斷スルト火  
焰ガ水平ニ一丈以上モ入ツテ居タ所ガアル、西洋風ノ家屋デ  
床下ノ空氣通シノ孔等カラモ盛シナ勢デ吸込マレルモノデア  
アル、割合ニ四壁ガ密閉シテアル程多ク建物全體ガ煙突ノ如キ

作用ヲ爲シ下部ニアル間隙カラ冷ナル空氣ガ入り込ミ上部ニアル間隙カラ拔出ル爲メニ此氣流ニ伴ハレテ火ガ建物内ニ入ルノデアル、故ニ完全ニ耐火構造タラシメルニハ少シノ罅隙モ出來無イ様ナ建築方法デアルコトヲ必要トスル。

前ニ掲ゲタ露出シタ鐵材ノ構造ヤ、花崗石等モ勉メテ避クベキデアル。

### 延焼ノ媒介

大道路、河川、高架鐵道線路等ハ火流ヲ阻止スル效能ガアツテ所謂防火線トシテ有效ナモノデアルコトハ後文ニ於テ更ニ詳説スルガ、此等ノモノヲシテ其效能ヲ失ハシメテ之ヲ突破シテ延焼スルコトガ往々ニシデアツタ、ソレハ皆其線上ニ置カレタ品物が延焼ノ媒トナツタノデ特ニ避難者ノ家具家財ガ主ナル禍源デアル。今左ニ然ラザル特殊ノ數例ヲ掲ゲル。

(一) 芝區新網町十番地先ニ於テ鐵道線路上ニ汽車ガ置イデアツタ、ソレヲ媒トシテ火ガ西側ヨリ東側ニ移リ芝浦ノ瓦斯會社ニ延焼シタ。

(二) 神田區旅籠町一丁目ヨリ田代町へ電車線ヲ越シテ火ガ移ツタノハ線路上ニアツタ電車ヲ媒トシタ。

(三) 水道橋驛デハ驛ノ煉瓦造ノ家屋ヨリ驛ノ物置ニ火ガツキ電車ヲ媒トシテ省線路ヲ越シ、河岸地ニ移リ更ニ川ヲ越シテ小石川區ノ陸軍造兵廠ニ入ツタ。

(四) 神田川ノ左衛門橋ト美倉橋ノ間ニアル南岸ハ九月一日ニハ未ダ燒ケナカツタガ(動態地圖ヲ見ヨ)左衛門橋際ニ積ンデアツタ材木ニ火ガツキ北岸ヨリ橋ヲ渡ツテ來テ九月二日ノ午前ニ燒ケタ。

(五) 四谷區ノ新宿車庫デハ電車線路ニ施ス油ヲ貯藏スル處ヲ被覆シ無カツタ爲メニ之ニ飛火シテ燒ケ出シタ。

(六) 深川區洲崎ノ海岸デハ避難者ガ地割レヲ恐レ海苔ヲ育テルタメノ粗朶ヲ地上ニ敷キ其上ニ避難シテ居タガ之ニ飛火シタ、之ハ海岸ノコトデ別ニ延焼ノ害ハ無カツタガ面白イ例トシテ掲ゲ置ク。

(七) 深川區ノ舊岩崎邸附近デ街路上ノ電線ノ被覆物ニ引火シ電線ニ傳ハツテ火ガ擴ガツタ。

(八) 下谷練堀町ノ桐淵病院ハ耐火煉瓦造ノ新築デアツタ、其隣ノ田代病院ガ燒ケテモ同院ハ無難デアツタノデ、同院ノ人ハ之ヲ誇トシテ居タガ其中ニ引込電線ノ被覆物ヲ傳ハツテ火ガ同院ニ入り之ヲ燒イタ。

前ニ燒失區域内ニ於テ約四分ノ三ノ橋ガ燒損セラレタコトヲ述ベタガ一方カラ考ヘレバ此燒ケタ橋自身ガ延焼ノ媒介ニナリ防火線トシテノ河川ノ效力ヲ失ハシメタニ相違無イ、市民ノ交通ヲ妨ゲ其生命財産ヲ脅カスト云フ消極的ノ害ト同時ニ火災ヲ助長スルト云フ積極的ノ害ガアツテハ橋梁ハ是非ト

圖五十二第



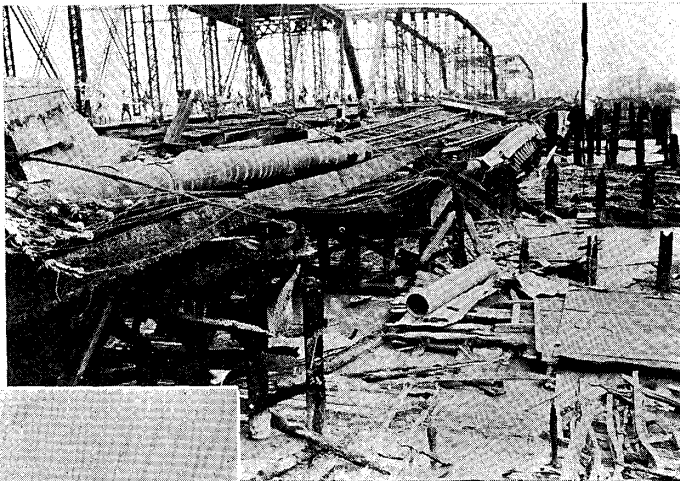
圖六十二第



宮神太谷比日ノ町樂有リヨ先場馬  
廳視警時此。ル見ヲ災火ノ社會燈電  
リタチ落ケ燒ニ既ハ場劇國帝ビ及

圖八十二第

物見事火ルケ於ニ園公谷比日  
ズラカ多ダマ者難避

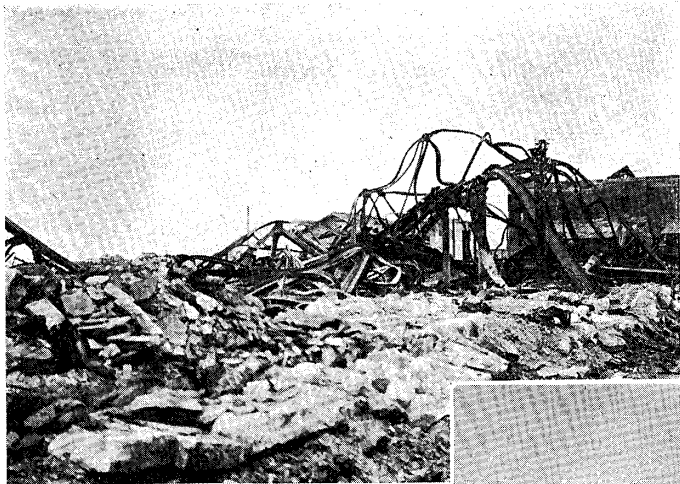


圖九十二第



骸殘ノ橋代永

日本橋川ニ架セル西河岸  
橋ノ殘骸、橋向フ右ハ帝  
國製麻會社、窓ヨリ出タ  
ル火焰ニヨル外壁ノ變色  
高塔ハ三越吳服店ノモノ



跡焼ノ揚劇音觀區草淺  
ヨ見ヲ材鐵ルタリ曲

第三十圖



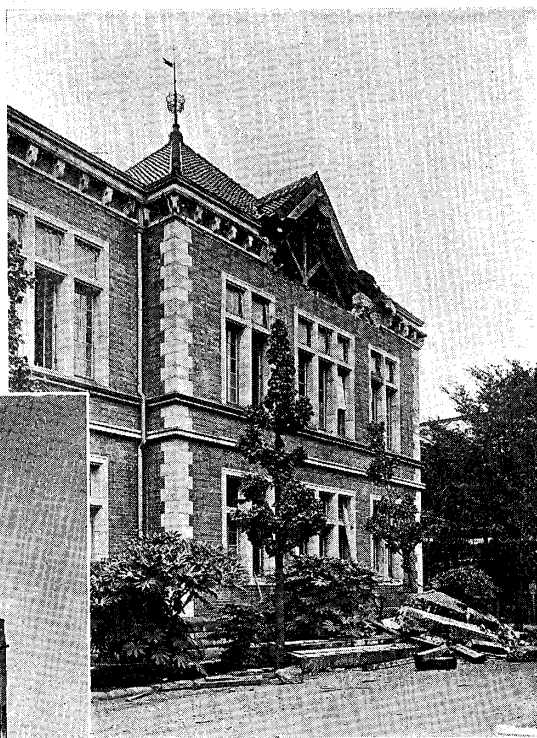
花崗岩ノ丸柱

第三十一圖

圖二十三第



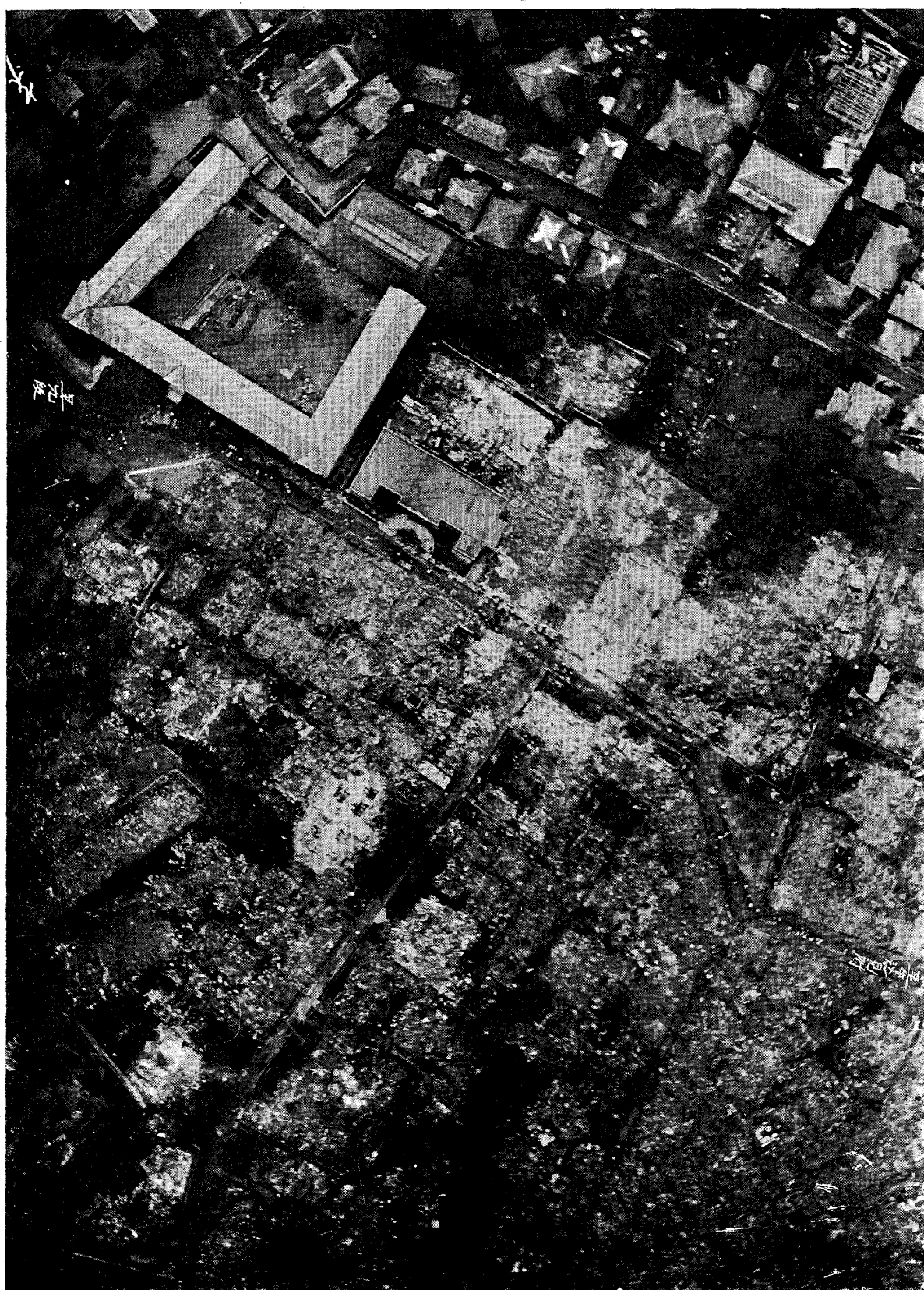
市濱横 ヨ見ヲキ強ノ煙ルタ出リヨ窓ト窓ルタザ閉ヲ扉火防



館本部學工學大國帝京東  
災火。風破ノ瓦煉ルタレサ落リ振  
ルタレサ出露テシク如ノ此バラア  
ク付ガ火ニ組根家

第三十四圖





第三十三圖

大正十二年九月四日午前十時半地上六百メートルヨリ撮影  
 麹町區富士見町六丁目日本齒科醫學專門學校ノ火元ト其隣リノ  
 火災ヲ免カレタル富士見小學校(左下ニアル四字形ノ長キ家)

第三十五圖



者難避ルケ於ニ園公野上

圖六十三第



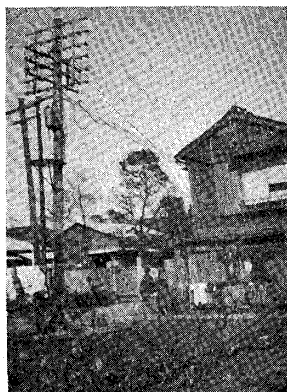
芝區濱松町ニ於ケル避難者ト其ノ荷物

圖七十三第



栖有ノ前校學大軍海地築  
館考參軍海ト像銅宮川  
タミ積ニ上段階ノ岩崗花  
シ火引ニ物荷ノ者難避ル  
セ脱剝ノ岩崗花ニ爲ルタ  
焼延ノ館考參。ヨ見ナル  
ルヨニ物荷モ

第三十八圖



本郷春木町三ノ三七齋藤伴次郎氏  
(火災後新築)ノ門内ニアルたぶの  
きノ枯死セルモノ。此木ニテ圖ノ  
右ニアル木造二階家ニ延焼ヲ防グ

第三十九圖



ヨ見ナルザケ焼ノ場足ルアニ上風、ル見ヲ座伎舞歌ビ及橋原三リヨ町張尾座銀



モ不燃質デ建造スベキデアルコトガ明白デアル、然シ鐵橋デモ其鐵材ガ曲ル程ニ痛シダノハ何故カト言ヘバ、ソレハ十中八九ハ橋上ニ積置カレタ避難者ノ家財ニヨルノデアルガ左ニ稍特種ノ場合二、三ヲ示ス。

(一) 京橋區南八丁堀ノ櫻橋ノ上ニハ近所ノ宿車屋デ人力車ヲ澤山置イタガ、之ニ火ガツイタ、然シ幸ニ橋ハ燒ケナカッタ。

(二) 神田區ノ廻橋ハ奇妙ナ燒ケ方ヲシタ、先ヅ廻橋ト堀留橋トノ間ニアツタ舟ニ火ガツキ、ソレガ流レ來ツテ橋杭カラ燒ケ始メ、同時ニ橋上ニ置イテアツタ空樽三個ニ飯田町カラノ火ガツキ、之ガ爲メニ橋上ノ電車ニツキ上下カラ橋ヲ燒イタ。

(三) 月島ノ相生橋ハ燃エテ居ル帆船前船ガ流レテ來テ之ヲ燒イタ。

以上ノ様ナ些細ナコトガ延燒ノ原因トナルトスルト、道路ヤ橋梁ノ鋪裝用トシテ「タール」ヲ浸入セシメタ木煉瓦ヲ使用スルコトハ如何カト思フ。

#### 避難者ノ荷物

避難者ノ荷物ト云フ問題ハ實ニ六ツカシイ問題デアル、家財ヲ失フマイト思フテ持ち出シタ爲メニ災害ヲ大キクシ、其爲メニ一旦出シタ家財ヲ失ヒ、自己ノ生命マデ失フ様ニナツ

タノハ誠ニ悲シムベキ皮肉デアル、余ハ此問題ノ重大ナルコトニ就テ世人ノ注意ヲ喚起シ、其救済方法ヲ講ズルコトノ大切ナルコトヲ絶叫シタイト思フ。

避難者ガ家具家財ヲ負擔シテ逃レルノハ人情トシテ止ヲ得ヌコトデアルガ、其携帯シテ行ク品物ニ就テ多少顧慮選擇シテ貰ヒ度ト思フ、吾人ノ最モ信賴シテ居ル大地ガ裂ケテ吾人ニ反逆スル様ナ天災ニ當ツテ其様ナ餘裕ガ無イカモ知レヌガ平素カラノ訓練ニヨツテ多少トモ災害ヲ輕減スルコトヲ未來ニ於テ爲シ度ト思フ。余ガ警視廳ノ小泉消防課長ヨリ聞ク處ニヨレバ或ル女髮結(逸名)ガ地震ト知ルヤ直チニ内弟子ニ命ジテ家ニ有合セタ米ヲ出來得ルダケ多量ニ炊イテ飯ト爲シ飯櫃ハ勿論、小桶等ニ分割シテ之ヲ盛り内弟子ニ道具ハ一品モ持ち出ス勿レト言ヒツケテ其飯米ヲ脊負ヒテ各自其志ス所ニ逃レシメタ。地震後ニ再ビ皆落合ツテ總テガ無事デ饑餓ニ苦シメラル、コトモ無ク災害ヲ免レタコトヲ祝シタト云フコトデアル、而シテコレハ安政ノ地震ニ逢フタ老人ヨリ平素教ヘラレタ事ヲ思ヒ出シテ實行シタノデアルト云フ話デアル。又久松小學校校長堀江氏ノ談ニ學校ノ生徒ノ親ガ地震後平素ノ訓育ニ就テ禮ニ來テ言フニハ家ニ居タ筈ノ自分ノ子供ガ大地震ダト云フノニ姿ヲ見セヌカラ非常ニ心配シタガ地震ガ一先ヅ納マツテカラ暫クスルト子供ガ出テ來タノデ何處ニ居タカト

尋ネテ見ルト、ツヒ先日學校デ地震ノ演習ガアツテ「ソラ地震ダ」ト先生ガ言ハレタラ机ノ下ヘ這ヒ込メト言ハレテ、ソレヲヤツタノヲ思ヒ出シテ、其通リヤツタト答ヘタトノ事デアル、此等ノ例デ考ヘルト此ノ如キ智識ハ日常無事ノ時ハ全ク忘レラレテモ一朝有事ノ時ニ突然トシテ記憶ヲ喚ビ起サレルモノデアルカラ平素ノ訓練、教育ハ忽ガセニスベカラザルモノト思フノデアル。

第三十五圖ハ上野公園ニ於ケル避難者ノ混雜ノ狀況ヲ示ス寫眞デ、所謂肩摩轂擊ト云フ有様デアル、平素ハ逆モ脊負ヘ無イ程ノ大荷物ヲ負フタ人ノ肩ト肩トガ擦レテ甲ハ東ニ行カントシ、乙ハ西ニ赴カント、互ニ人ヲ押分ケテ道ヲ求メタ。夜具ヤ簞笥ヲ載セタ車ガ行人ヲ叱咤シテ其間ヲ縫ヒ行クノデアアル。ソシテ一寸シタ廣場ガアルト困憊シタ市民ハ其所ニ荷物ヲ下シテ茫然トシテ爲ス處ヲ知ラズニ休息ヲ求メタ。第三十六圖ハ芝區濱松町ニ於ケル避難者休息ノ狀態デアルガ如何ニ嵩張ツタ大荷物ガ持チ出サレテ居ルカヲ見テ驚クノデアル。此ノ如キ多量ノ可燃物ガ道路ト云ハズ橋梁ト云ハズ一杯ニ並ベラレタノデ之ガ爲メ如何ニ消防隊或ハ工兵隊ノ活動ガ妨ゲラレ又此等ノ荷物ヲ媒トシテ如何ニ火ガ暴威ヲ逞ウシタカヲ考ヘルト實ニ寒心ニ堪ヘヌノデアル。

左ニ此種ノ荷物ノ害ヲ示ス多數ノ例ノ中カラ僅々數例ヲ掲

ゲル。

- (一) 下谷區御徒町一丁目五番地カラ電車通りノ向側松永町二十九番地ヘ火ガ移ツタノハ道路上ノ荷物ノ爲メデアル。
- (二) 神田驛ノ附近デ「ガード」ノ下ニ置カレタ荷物ノ爲メニ線路ノ下ヲ火ガ西側カラ東側ヘ移ツタ。
- (三) 本所區龜澤町一丁目デモ同様デ「ガード」ノ下ヲ南カラ北ヘ火ガ潜ツタ。
- (四) 日本銀行前ノ空地ニアツタ荷物ガ印刷局カラノ火粉カラ發火シ道路ニ並行ニ西カラ東ヘト三井銀行、大通リノ方ヘ燃エテ行ツタ、其時刻(九月一日午後六時半カラ七時頃)ニハ三越吳服店等ハ未ダ無事デアツタ。
- (五) 赤坂區葵町ノ米國大使館デハ館前ノ廣場ヘ赤坂田町方面ノ避難者ガ荷物ヲ運ビ込シタ。ソレニ火ガツキ館ヘ延燒シタ。
- (六) 麴町區飯田河岸ノ燒ケタノハ飯田町五丁目ノ火ガ「ガード」ノ下ノ荷物ヲ媒トシテ潜リ出デ製氷會社ノ軒先ニ延燒シタ。
- (七) 下谷區北清島町、松葉町ノ一帶ノ地ハ寺院多ク墓地等ガアツテ空地ガ澤山ニアツタガ之ガ荷物デ一杯ニ充サレ、ソレガ燃エテ延燒ヲ助ケタ。
- (八) 月島ノ最南端ノ海岸ニ並ベラレタ荷物ニ火ガツイテ片

端カラ順々ニ燃エテ行ツタノデ此所デハ火流ガ海岸ノ形ノ通りニ曲ツテ居ル。

(九) 築地ノ海軍參考館カラ海軍大學校ノ焼ケタノモ荷物カラデアアル。第三十七圖ハ海軍參考館ノ殘骸ト其前ノ有栖川元帥宮ノ銅像ヲ示シテアルガ、花崗石ノ階段上ニ積重ネラレタ荷物ノ爲メニ花崗石ガ焼損シタノヲ見ヨ。

此種ノ最モ極端ナ又最モ悲シムベキ例ハ有名ナル本所區ノ被服廠跡ノ慘事デアアル。同所ニ避難シテ幸ニ死ヲ免カレタ人ノ語ル處デ、一致シテ居ル點ハ他所ヲ方々逃ゲ廻ツテ同所敷地内ニ入り込ムト、人ト荷トデ非常ニ雜踏シテ居タガ是迄ノ場所ト變ハツテ如何ニモ空氣ガ清涼デ氣持ガヨカッタ。避難者ハ中デ悠々トシテ食事ヲシタリ「カルピス」ヲ賣歩ク商人ガアツタリ、中ニハ碁盤ガ欲シイト丸デ遊山氣分デ居タリ、遠方ノ火事ヲ眺メテ美シイト叫ンダリシタラシイ。ソレガ突然午後四時頃彼ノ恐ロイ旋風ニ襲ハレ、火ハ西方隅田川ニ近い側ヲ除イタ三方カラ、殆ト同時に到着シテ空ハ一時ニ暗黒トナリ、轟然ト物凄イ響ヲ立テ、魔風ガ火ヲ含ンデ荒レ狂ツタ。旋風ハ多クノ報告ヲ比較スルト此所ニ三度見舞ツタラシイ。淺草區南元町河中ニ立ツテ避難シタ岩本氏ノ談ニハ第一回ノ時ニハ蓋シ卷キ上ゲラレタ「トタン」板ヤ何カバ空中デ互ニ衝突スル音ト人ノ叫喚ノ聲トガ混ジタモノト跡カラ推

察スルガ、何トモ形容シ難イ恐ロシイ異様な物音が對岸カラ聞エタガ、第二回ニ反對ノ向ニ旋風ガ通過シタ時ニハ音が殆ト聞エナイ位デ、第三回ノ時ニハ寂トシテ音無キ有様デアッタ。多分第一回デ殆ト總テノ人ガ生命ヲ失フタノデアラウト云フコトデアアル。蓋シ然ラント思フ。

此所デ吾々ノ考ヘテ置キ度ノハ都市計畫ノ事業ニ従事スル人ガ火災防止ノ一策トシテ、大道路、公園等ノ廣場ヲ設ケルコトヲ主張シテ居ル。之レニハ何人モ異議ガ無イ處デアアル。然シ若シ強ヒテ說ヲ爲シ得クンバ次ノ如キ論モ出來ヤウ。即チ「本所被服廠跡ハ丁度此ノ如キ理想的ノ廣場、避難所デアッタ、然シ其所ヘ逃ゲ込ンダガ爲メニ生命財産ヲ失フタデハナイカ、寧ロ廣場ハ有害無用デアアル」ト論ズルコトモ出來ル。然シ此レハ廣場ノ罪デハ無クシテ使用方法ガ宜シキヲ得ナカッタノデアアル、設備ガ缺ケテ居タノデアアル。平日ノ狀態ニ於テハ理想的ノ避難所デアアルノヲ丁度肝心要メノ日ニ可燃材料ヲ以テ之ヲ充タシ、其燃草ノ間ニ身命ヲ託シテ火ノ到ルヲ待ツタノハ何タル悲シムベキ矛盾ゾヤ、旋風ニ襲ハレテハ手ノ下シ様モナイカモ知レヌガ、若シ身輕デアツタナラバ逃ゲル手段モアツタデアラウ。人間計リデ荷物ガナカッタナラバ逃路モアツタデアラウト思ハレルノデアアル。此ノ如キ廣場ニハ荷物ヲ置ク可カラザル區域ト置クベキ區域トヲ設ケ、後者ニハ

前以テ完全ナ消防設備ガアツテ、萬一荷物ニ火ガツイタナラ直チニ消止メラレル様ニシテアツタナラバ、多少トモ災害ヲ少ナクシテ濟ムデアラウ。荷物ニ對スル執着ノ爲ニ荷物ヲ失ヒ剩サヘ生命ヲ失フニ至ツテハ大ニ考慮スベキ問題デアアル。

九月一日午後十時頃ニ麴町區一ツ橋内ノ文部省前ノ廣場ニハ、神田方面カラノ避難者ガ身動キノナラヌ程ニ群集シテ居タ。然ルニ宮城ノ平河門ガ其時ニ開カレテ殆ド全體ノ人ガ宮城内ニ避難セシメラレタ。其後ニ彼等ノ遺棄シタ荷物ニ引火シテ一面ノ火ノ海トナツテ猛火ガ焰々トシテ立ツタト云フコトデアアル。平河門ノ開門ハ中央氣象臺ノ藤原博士ノ斡旋ニヨルモノト傳聞スルガ、此所ニ居タ避難者ハ實ニ幸福デ命拾ヒヲシタ。余ガ皇宮警察部デ聞イタ所ニヨルト同部デハ當日部員全體ニ何カ訓示スルコトガアツタ爲メニ、退廳時刻ガ平常トハ些シ遅クナツタノデ非番ノ人ガ退廳シテ丁度櫻田門邊マデ行ツタト思フ時刻ニ地震ガ來タノデアアルサウナ。然ルニ全員ハ期セズシテ引返シテ來テ宮城ノ警護ニ從事シタノデアアルガ、丁度上記平河門ニ近イ主馬寮ノ邊ハ火粉ガ雨ノ如ク降り注イデ危険千萬デアツタ。幸ニモ箒デ屋上カラ火粉ヲ掃キ落シタノデ事無キヲ得、宮城内ハ絶對ニ安全ヲ保チ得タト云フコトデアアル。ソコデ吾々ノ恐レ又喜ンダノハ彼ノ平河門内ニ收容セラレタ避難民ノ荷物ニ就テアル。之レガ火ヲ呼ビハ

シナカツタカヲ恐レ、次ニ其事無カリシヲ喜ブノデアアル。宮城内カラ火ヲ出ス様ナコトガアツテハ誠ニ恐多イ、民心ノ動搖モ起ルデアラウ。將來ノ爲メニ吾々ノ切ニ望ム處ハ宮城内ノ廣場ニ、此ノ如キ非常時ニ民衆ヲ收容シテ被下事ハ誠ニ難有イコトデアアルガ、願クハ其收容場所トナルベキ區域ハ之ヲシテ禍ヲ招ク場所トナラザル様ノ設備ヲ爲シ、其方法ニ就テ平素カラ十分ニ之ヲ考究シ置カレンコトヲ望ムノデアアル。

被服廠跡ト同様ナ原因デ迷路ヲ失ツタ民衆ガ荷物ノ爲メニ燒カレテ、多人數密集シテ慘死シタノハ人ノ知ル所デアアル。被服廠跡ニテ慘死シタル人ニ苦悶ノ相ナキニヨツテ、此ハ多分一酸化炭素ヲ吸ヒタルナラント推察スルモノガ多イ。二酸化炭素カラ一酸化炭素ノ生ズルノハ攝氏八百五十度以上ノ高熱ヲ要スルノデアアルカラ同所デハ荷物ノ爲メニ此高熱ガ生ジタト思ハレル。

橋梁ノ燒失モ主トシテ其上ニ置カレタ荷物ニ基因スルコトヲ述ベタガ、此荷物ヲ適當ニ處分シタ爲メニ助カツタ橋ノ例モアル。例ヘバ神田區ノ昌平橋モ他ノ橋ト同様ニ荷物ガ一杯ニ置カレテアツタ。然シ追々火ガ迫ツテ來タノデ多クノ人々が荷物ヲ橋上ニ遺棄シテ逃レタ。其時ニ附近ニ住スル學海指針社ノ主人夫婦モ橋上ニ居テ危険ヲ感ジ遺棄セラレタ荷物ヲ河中ニ投ジテ自分等ハ橋上ニ踏止マツテ橋モ人モ助カツタ。

又深川區伊豫橋ハ橋上ニ「ガソリン」ノ罐ガ多數遺棄セラレテ  
アツタガ其ヲ河中ニ投入シタノデ助カツタト云フ事デアル。  
隅田川ノ架橋中デ助カツタノハ兩國橋ト新大橋ノ二ツノミ  
デアルガ余ノ傳聞スル處デハ新大橋ノ方ハ橋上ノ荷物ガ適當  
ニ處置セラレタノデアル。橋ノ助カツタノニハ橋其者ガ構造  
上優秀デアツタトカ或ハ其他ノ原因モアツタデアラウガ、其  
災厄ヲ免カレ得タ理由ノ一ツハ些ナクトモ此荷物ノ處置ガ宜  
シキヲ得タコトデアルト信ズル。此荷物ヲ處置シタノハ深川  
區西平野警察署ノ橋本巡查部長デアツテ、時事新報記者ガ吾  
々ノ談ヲ聞イテ同氏ニ會見シタ時ノ氏ノ談話ガ同紙上ニ載セ  
テアル、左ニ之ヲ轉載スル。

「彼ノ大震ノアツタ九月一日私ハ新大橋袂ノ交番ニ居マシ  
タ、地震ガアルト同時ニ東六間堀町二十九ノ「ボール」箱屋  
ト、ソレカラ可ナリ離レタ安宅町五ノ「パン」焼工場ト菓子  
屋トカラ火ガ出マシタ、其時風ハ北東ノ方ヘ吹イテ居マシ  
テ、ツマリ新大橋ハ風上ニ當ツテ居タノデ安心シテ警戒シ  
テ居マシタガ、火ノ手ハ強クジリ／＼ト風上ノ方ニモ燃エ  
擴ガツテ來テ、四時ニハ國技館ノ方デ轟々ト云フ物凄イ音  
ガ聞エルカト思フト例ノ大旋風ガ殺到シテ來マシタ。私ハ  
橋ノ欄干ニ獅嚙ミツイテ顔ヲ伏セテ居マシガ十分モスルト  
非常ニ熱クナツテ來タノデ、フト顔ヲ上ゲルト今迄何トモ

無カツタ橋袂ノ家ガ一齊ニ飛火シテ居マシタ。此時分ニハ  
濱町ノ中ノ橋モ燒ケタノデ日本橋方面カラノ避難者ヤ深川  
ノ避難者ガドシ／＼橋上ニ詰メ掛ケ一萬四千モノ人間ガ  
集マリマシタ、其中ニ深川寄りノ方ニ居タ避難者ノ荷物ニ  
火ガツキ出シタノデ、私ハソレヲ捨テサセ續イテ未ダ火ノ  
ツカ無イ荷物ヲモ捨テサセ様トシマシタガ、生憎私服デ居  
タ爲メ避難民ノ激昂ヲ買ツテ毆ラレタリシマシタノデ對岸  
久松署ノ交番ニ行キ、其所ノ警部補以下七八名ノ巡查ノ  
應援ヲ得テ惜シガル荷物ヲ引ツタクツテハ河中ニ投ジマシ  
タ。私ガドン／＼荷物ヲ捨テサセテ居ルノヲ見テ居タ知人  
ガ、アンナ事ヲシテ後デ責任問題デモ起ツタラドウスルダ  
ラウト心配シタ相デスガ」云々。

橋本氏ガ警察官トシテノ職責ヲ果ス爲メニ奮闘セラレタ忠  
實ナル勇氣ニ對シテハ最大ノ敬意ヲ表シタイ、瀕死ノ危難ヲ  
救助スルコトハ誰ニデモ出來ルコト、思フガ、災ヲ未然ニ防  
グ爲メニ努力シ他署ノ警官ノ援助ヲ求ムル爲メニ橋ヲ往復シ  
テ最後マデ其所信ヲ枉ゲズニ遣リ遂ゲタト云フコトハ尋常一  
般ノ人士ノ爲シ得ル所デハナイ。

久松小學校長堀江氏ノ余ニ告ゲラレル、所ニヨレバ、當時  
久松署ノ警官ガ日本橋區側ヲ警戒シテ荷物ヲ橋上ニ置ク事ヲ  
禁ジ、且ツ荷物ヲ負フタ民衆ノ通行ヲ拒ンダ時ニ一ツノ挿話

的ノ事件が起ツタサウデアル、荷物ヲ脊負ツタ相當ナ人ガ橋ニ差シカ、リ警官ニ通行遮斷ト言ハレテ大ニ立腹シ自己ノ財産ヲ負フテ公道ヲ行クノガ何故ニ惡イカト云フ様ナ意味デ、警官ニ反抗シテ押問答ガ始マツタ、斯クシテ居ル中ニ此人ノ荷物ノ中ニ何所カデ知ラヌ間ニ入り込シダ火粉ガアツタモノト見エテ、一陣ノ強風ガ來ルト忽然トシテ脊中カラ燃エ出シカチ／＼山ノ童話ヲ現出シ見ル間ニ其人ハ活不動トナツテ倒レ終ニ絶命シタ。之ヲ見テカラ後ハ民衆ガ良ク警官ノ命ニ服シタト云フコトデアル。

此人ノ議論ノ如キハ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ知ツテ市民トシテ大都市ニ共同生活ヲシテ居ル一員トシテ非常時ニ守ルベキ義務ヲ知ラナカツタトモ見ルベキデアル、此人ハ市民トシテノ訓練ヲ受ケテ居ラヌモノデアル。

淺草觀音ガ災ヲ受ケナカツタノハ一ツハ境内ニ荷物ヲ入レルコトヲ寺僧ガ拒ンダ、又象潟警察署ノ警官モ同シ目的デ非常ニ努力シタ爲メデアルト云フ。

避難者ノ荷物ニ對スル方策トシテハ一方ニハ前ニ述ベタ如ク防火線路トシテ有效デ且ツ公衆ノ交通上大切ナル大道路線鐵道線路等及ビ橋梁ノ上ニハ荷物ヲ一切置カセヌコトニ法ノ制裁ヲ設ケ度イ。此ハ消極的ノ策デアル。又一方ニ廣場ニハ此等ノ荷物ヲ置クベキ特別ノ區劃ヲ設ケ置キ、之レニ十分ナ

ル特別消防設備ヲ施シテ荷物ヲ保護スル様ナ積極的ノ策ヲ講ジ度ト思フ。

火災ノ時ニ荷物ノ爲メニ災ヲ大キクスルコトハ昔カラアツタモノト見エル。今ヨリ二百年前正徳六年(即チ享保元年)正月ニハ江戸ニ大火事ガ多カツタガ其中ノ正月十八日ニハ淺草諏訪町カラ出テ本所、深川マデ延焼シタモノダガ正月二十一日附ノ町奉行ノ布告ニ

#### 覺

一、前々モ相觸候通出火ノ節風モ有之時分、風下ハイフニ不及、風脇ノ所々モ手前ノ火之本ヲ用心シ風下ノ所々ハ屋根ノ上ヘ人ヲモ差置、飛火ノ用心ヲ可仕ノ處近來諸道具ヲカタヅケ候ノミニアラズ、家ノ建具、板敷、引物等迄ヲハヅシ持出候支度仕リ候故、手前ヨリノ出火モ出來、其上町ノ道筋ハ言ニ不及、御堀端、御門下、升形之内迄モ種々ノ物ヲハコビ置、火消ヲ始立退候貴賤共ニ往來ノ通路トマリ候様ニ罷成、此等之次第以外不届ノ至ニ候、自今以後ハ出火ノ節ニ外ノ所ヨリ火ヲ出シ又ハ風下ニテ飛火ノ防ヲモ不仕、家道具ヲモ引ハヅシ持退候事等有之ニ於イテハ急度曲事ニ行ハレ、事ノ體ニヨリ其町ノ名主等モ越度ノ御沙汰アルベク候間此旨町中ヘ急度可相觸候以上トアル。即チ火元以外ニ新タニ出火ノ無キ様ニ注意シ防火ニ

勉ムベク、家具家財ヲ持出ス爲メニ或ハ火ヲ失シ道路、廣場ニ荷物ヲ置ク爲メニ消防隊及ビ避難者ノ交通ヲ妨害スルノハ以テノ外ノ不都合デアアルコトヲ戒メタノデアアル。若シ之ヲ犯セバ本人ハ勿論其町ノ名主迄モ罰スルト云フノデアアル。更ニ又荷物ヲ大八車等ニ載セテ避難スルモノアラバ其車ノ持主及ビ其車ヲ挽イタモノ共ニ罰スベク、尙名主迄モ其取締ノ怠慢ヲ咎メラルベキコトヲ戒メタモノガアル。即チ左ニ

#### 覺

前々ヨリ相觸候通、火事ノ節大八車ニ荷物ヲ積退、又ハカラ車ニテ引アルキ、道具等ヲ積候儀有之様ニ相聞候。往來込合候節右之仕形不届ノ至ニ候。向後左様ノ義有之候ハ、急遂ニ吟味ニ車主車引候者共ニ可爲曲事、其所之名主可爲越度候條此旨町中相觸可申候。以上。

ソレカラ今カラ百五十年前ノ寶曆十年二月六日ニ神田ノ旅籠町カラ出タ火デ洲崎マデ燒イタ大火事ガアツテ新大橋モ永代橋モ落チタガ其二月十日ノ布告ニ

#### 覺

出火之節建具并諸道具等大八車ニテ積候義有之候ニ付往還通路之妨ニ相成候。前々モ相觸候處不届至極ニ付自今見付次第召捕諸道具ハ取上ゲ追テ吟味ノ上當人ハ勿論家主五人組迄急度可相咎旨先達テモ相觸候處、此間ノ出火ニモ建具

諸道具等大八車ニ積候モ有之由相聞、不埒ニ付此以後右體之致方於有之ハ見付次第召捕、諸道具ハ取上ゲ追テ吟味ノ上、當人ハ勿論家主五人組迄急度咎可申付候。

辰二月十一日

トアツテ之ヲ家屋ノ所有者、借家人等へ漏レナク通告シタトノ事デアアル。道路ノ交通ヲ妨ゲタモノ、荷物ハ沒收シ、當人ハ勿論家主及ビ町内ノ自治機關タル五人組迄モ罰スルト云フノハ極メテ徹底シタ命令デアアル。之ヲ見ルト同ジ失敗ヲ何度トナク經驗シテモ吾々ハ一向賢明ニ成ラナカツタノデアアル、大八車ガ自動車ニカハルコトハアラウケレドモ。

### 第四篇

#### 消防

消防ニハ火ガ來タトキニ人工ニヨツテ之ヲ阻止スル方法ト火ガ至ラナイ前カラ既ニ存在シテ居ルモノ例ヘバ樹木トカ鐵道線路トカノ作用デ別ニ人ガ手ヲ下スコトナクシテ自然ニ延燒ヲ喰止メル方法トガアル。此ニツテ便宜ノ爲メニ人工方法天然方法ト呼ンデ區別シテ置ク。

先ヅ第一ノ人工方法ヲ考ヘルト水ヲ使用スルノガ最モ普通デ且ツ最モ有効ナ方法デアアル。水ガ有効ナ理由ハ蓋シ主トシテ其蒸發ノ際ニ要スル氣化熱ノ大ナルコトニ基ヅクノデ水ヲ



火ニ注グト水ハ既ニ燃燒シテ居ル材料カラ此熱ヲ奪ツテ蒸發スルカラ溫度ガ下降シテ燃燒ガ止ム。尙一ツノ理由ハ水蒸氣デ未ダ燃燒シテ居ナイ材料ヲ包圍被覆スルカラ火ガ近ヅイテモ燃エ出サナイ。然ルニ世ガ開ケルニ從テ發火ノ原因ニモ色色ノ新種ガ現ハレテ來タ。例ヘバ石油「ガソリン」ノ火或ハ電氣カラノ火等ノ如キハ水ヲ注グト却テ不利益ナ結果ヲ生ジ此等ハ砂ヲカケルトカ或ハ他ノ適當ナ消火藥液ヲ注ギ掛ケネバナラヌ。化學藥品ニヨル發火モ同様ナノガアル。然シソレモ發火ノ瞬間ノ事デ、既ニ火ガ生長シテ火災ト云フ程度ニナルト矢張り水ノ使用ガ殆ド唯一ノ消防方法デアラウ。而モ水道ガ發達シテ水利ガ自由ニ得ラレ、「ポンプ」ノ製作ガ改良セラレテ注水ノ方法ガ進歩スルト水道ト「ポンプ」トノ聯合ホド理想的ナ消防方法ハナイ事ニナリ、之サヘアレバ如何ナル大火デモ容易ニ消止メ得ルモノト安心スル様ニナツタ。之レハ素人計リデナク本職ノ人デモ左様考ヘタモノデ、從ツテ井戸ナドハ無用デアルカラ之ヲ埋メテ仕舞フコトヲサヘ獎勵シタ。尤モ之ニハ別ニ衛生上ノ見地カラ來テ居ル理由モアツテ井水ニヨル傳染病ノ蔓延ヲ豫防スル必要上、水道ヲ褒メ井戸ヲ貶シタノデアアル。然ルニ一方有識者ハ平常ノ火災ハソレ良イガ、地震ノ時ニハ水道ノ鐵管ガ破壊セラレルカラ地震ニ伴フ火事ニハ水道ハ無効デアルベキコトヲ力説シタガ不幸ニシテ

省ミラレナカッタ。今度ノ地震ガ襲來スルト此警告ノ如ク震災後約三十分ニシテ消火栓ハ全ク涸渴シ水利ハ絶タレ「ポンプ」ハ殆ド無能トナツタ。茲ニ於テ消防隊ハ止ヲ得ズ他ノ水利ヲ求メザルベカラザルニ至ツタ。加之消防隊ノ活動ハ群集ノ雜踏ト道路上ニアル荷物トノ爲メニ妨ゲラレタ。火ハ同時ニ多方面ヨリ起ツテ東ニ赴ケ西ヲ助ケヨト急ヲ告グルコト頻頻、暫時ニシテ交通機關タル火災報知機、消防專用電話、公衆電話等ハ不通トナツテ傳令ノ便ヲ缺キ消防隊ハ惡戰苦闘終ニ困憊ヲ極ムルニ至ツタ。然シ此名狀スベカラザル混雜ノ爲メニ却テ幸セラレタ所モアツテ、例ヘバ東京帝國大學醫學部ノ醫化學教室ヨリ發火スルヤ本郷駒込出張所ハ本郷第四消防署ヨリ命ヲ受ケテ之ニ赴カントシタガ其途中ニ於テ本郷追分ノ處デ工學部ノ應用化學教室ノ失火ヲ認メ、之ヲ受命ノモノト信ジテ之ヲ消止メルコトニ成功シテ後ニ其誤レルヲ發見シタト云フ。即チ一方應用化學教室ノ幸ガ他方ノ醫化學教室其他圖書館等ノ不幸トナツタノデアアル。

今地震當時ニ於ケル東京市ノ消防機關ノ配置ヲ見ルト全市ヲ六個ノ消防署ト二十四個ノ出張所デ分擔警戒シテ居ル。(詳細ハ緒方委員ノ報告ヲ見ヨ)。平常ノ火災ニ對シテデサヘモコレハ大都市トシテハ貧弱ナ施設トシカ考ヘラレヌ、之デハ彼ノ天災ノ時ニ有效ニ働キ得ナカッタコトハ勿論デアルト思

フ。

扱、水道が涸れたトスルト、消防隊ハ池水、濠水又ハ河川ノ水ヲ利用スルノダガ此ノ如キ水利ハ隨所ニアルモノデナクテ極ク限ラレタ場所ニシカナイ。而モ水源ト火事場トノ距離ガ餘リ遠イ關係上、所謂「ポンプ」ノ方法ニヨルヨリ外ニ途ガナイコトガ多イ。其方法ト云フハ數臺ノ「ポンプ」ヲ直結シ甲ノ「ポンプ」ヨリ乙ヘ乙ヨリ丙ヘト繼送スルノデ數臺ガ一臺ノ用シカセヌノデアル。之ヲ實行シタ一例ハ不忍池ヨリ「ポンプ」三臺ヲ直結シテ本郷ノ切通坂上ノ火ヲ消スニ用ヒタノデアル。此ノ方法ノ最モ興味アル最モ有效デアツタ例ハ蓋シ半藏門外衛戍病院ノ防火デアルト思フ。

九月二日ノ午前三時、四時頃ニ火ハ北方ヨリ病院ニ迫ツタ。當時此病院ニハ既ニ震災ニヨル多數ノ負傷者が收容セラレテアツテ其數ハ刻々増加スル一方デアル。地形ヲ見レバ南方ハ低ク、風ハ北風デ猛烈ヲ極メテ居ル。南方ニハ陸軍省、參謀本部、外務省、司法省ヨリ、永田町ニハ大臣官邸、大使館アリテ若シ此病院ガ類焼スレバ此等ノ諸官衙、公館ハ一嘗メニ燒燼セラル、デアラウ。防禦ノ必要ハ他所ノ比デ無イ、衛戍病院ヲ助ケヨト云フ嚴命ハ下サレタ。扱、衛戍病院ハ宮城ノ濠トハ唯一條ノ道路ヲ隔テ、居ルノミデアリ、且ツ水ハ多量ニアルガ消防隊ハ之ヲ利用シ得ザルヲ如何セン。小學校ニ通フ

兒童デサヘモ知ル如ク、「ポンプ」ハ一方カラ水ヲ吸ヒ他方ヘ之ヲ押出スノデアルガ吸フ方ハ「ポンプ」ガ如何ニ強力デモ水面ヨリ約十「メートル」以上ハ揚ラヌ。押ス方ハ「ポンプ」ノ力サヘ強ケレバ何程デモ押上ゲラレル。今日ノ七八十馬力ノ消火「ポンプ」ナレバ消火ニ必要ナ水量ヲ二百米ハ上ゲラレルノデアル。道路上ニ「ポンプ」ヲ置イタノデハ御濠ノ水ヲ吸上ゲ得ラレヌ。サレバトテ水面ニハ近ヅキ得ザル地形デアル。見ス／＼利用シ得ラレヌ多量ノ水ヲ見セ付ケラレタ消防士ノ苦痛ハ如何デアツタデアラウ、實ニ同情ニ堪ヘヌノデアル。恰モ餓鬼ノ前ニ山海ノ珍味ヲ並ベタ様ナモノデアル。ソコデ消防隊ノ人ハ西方遠ク八百米ヲ距テタ麴町區清水谷公園ノ池水ヲ、又一方櫻田門附近カラ濠水ヲ繼「ポンプ」ノ方法デ送り來ツテ衛戍病院ヲシテ事ナキヲ得シメ、從ツテ帝國ノ首腦ノ諸官衙ヲ火災カラ免カレシメタノデアル。

後ノ事ヲ思ヘバ此濠水ノ如キ利用シ得ベカラザル水ヲ利用シ得ル狀態ニ置カシムルコトハ極メテ必要ノ事デアルガ如何ニセバ可ナルカ。

之ニ對スル消防署ノ人ノ解決ハ極簡單デ實ニ名案デアル、即チ水面ニ「ポンプ」ガ近ヅキ得ル様ナ堅固ナ道路ヲ設ケテ置クコトデアル。道路ガ堅固デ無イト數噸モアル「ポンプ」ハ地中ニメリ込シテ進退ノ自由ヲ失ヒ、卒急ニ他所ノ難ニ赴キ得

ナイ。日比谷ノ帝國「ホテル」入口ノ自動車廻ハシノ所ニ水蓮ノ浮ンデ居ル角形ノ「タンク」ガアル、此レハ此前同「ホテル」ガ焼ケタ時ニ消防署ノ人ノ忠告ニヨリ「ホテル」ノ重役ガ之ヲ容レ建築技師ノ巧ナル設計ニヨツテ之ガ實現セラレタノデアアル。如何ニ此水ガ「ホテル」及ビ四隣ノ建物ノ爲メニ役ニ立ツタ事デアラウ。翻ツテ思ヘバ若シ此様ナ道路ガ東京帝國大學内ノ池水ニ近ヅキ得ル様ニ出來テ居タナラバ、古今東西ノ智識ノ粹ヲ藏メタ寶庫タリシ大學圖書館モ助カッタデアラウニ、返ス／＼モ残念ナ事ヲシタモノデアアル。富豪ノ邸宅内ニアル池泉モ庭園ノ美觀ヲ損ゼザル様ニ非常門カラ「ポンプ」ガ池水ニ達シ得ル堅固ナ道路ヲ設計出來ルト思フ。願クハ一日モ早ク之ヲ築造シテ自家及ビ隣人ノ安全ヲ計ツテ貰ヒ度イ。淺草區向柳原町ノ松浦邸内ノ池水ガ火災防禦ニ役ニ立ツタコトハ實ニ顯著ナモノデアアル。

井戸水其他少量ノ水ヲ利用シテ防火ニ成功シタ處ガ澤山ニアル。今其例二、三ヲ舉ゲルト、麴町區富士見町一丁目二十一番地角ノ焼止マリハ其所ノ酒屋ノ店内ノ井戸ト路上ニアル撒水用ノ市ノ井戸トヲ近所ノ人ガ使用シテ消止メタノデアアル。淺草區橋場町ノ焼止マリハ道路ノ東側ノ家屋ガ其住者ノ所有デアッタガ下水ノ水ヲ使用シテ消シ止メタ。神田區佐久間町デハ「ポンプ」ノ「ホース」ヲ下水ノ中ニ挿入シテ消防ニ盡力シ

タガ幸ニ滿潮時デ下水ト神田川ノ水ト連絡シタノデ水量ガ豐富ニアリ之デ成功シタ。麴町區一番町ノ土方博士ハ出入ノ植木職ト應援ノ工兵トノ三人デ「バケツ」ノ水デ消シ止メタ。最モ珍ラシイ例ト思ハレルノハ本郷區春木町二丁目ノ角ハ警官ガ附近ノ醬油屋ノ醬油ヲ使用シテ消止メタノデアアル。

此等ノ例デ見ルト少數ノ人デモ消防ヲシヤウト決心シテカカレバ火ハ消シ止メラレルコトガ多イラシイ。今度ノ火災ニハ地震ノ餘震ヲ恐ル、餘リニ消防ヲ全ク怠ツテ逃ゲルコトヲ先ニシタ爲メニ災害ヲ大ナラシメタノデ誠ニ遺憾千萬デアアル。目撃者ノ報ズル所ニヨルト警視廳ノ焼ケテ居タ時ハ數臺ノ「ポンプ」ガ其前ノ濠端ニ置カレテ「ホース」ハ濠水ニ差込マレタマ、デ遺棄セラレテアツタト云フ。

以上ハ火災ニナツテカラノ防禦ノ例デアルガ、發火ノ瞬間ニ消止メ火事ヲ卵ノ中ニ殺シタノニモ色々アツテ、或ハ水ヲ用ヒタノヤ或ハ油鍋カラ發火シタノヲ蒲團又ハ毛布ヲ被フテ火ヲ窒息セシメタ等ノ普通ノ方法ガ使用セラレタ。稍、異例ニ屬スルモノハ京橋區新榮町デ丁度消火器ヲ使用スル様ナ工合ニ金線「サイダー」ヲ罐ノ儘火ニ投ゲ付ケテ消シタノデアアル。化學藥品カラノ發火ハ砂ヲカケテ消シタノガ多イ。例ヘバ東京府廳内ノ商工獎勵館及ビ東京帝國大學醫學部藥學教室ノ如キ或ハ又内務省衛生試驗所ノ如キデアアル。藥品ヲ藏スル所デ

ハ平素カラ砂ノ用意ガ大切デアアル。

前文ニ火災消防用トシテ井戸ノ大切ナルコトヲ説イタガ尙水道ノ水ガ涸渴シタ時ノ飲料水トシテモ井戸ハ廢ス可ラザルモノデアアル。其一例ヲ舉ゲレバ下谷區秋葉原貨物驛ニ避難シタ人ハ、一時、二三萬人モアツタガ其人達ハ近所ノ練堀町ノ桐淵病院ニアル水量豊富ヲ以テ有名ナル井戸ヲ唯一ノ飲料水ノ供給所トシタ。

### 破壊消防

人工消防方法中ノ有力ナル第二ノ方法ハ破壊消防法デアアル。水道及ビ「ポンプ」ノ發達シナイ以前ニハ盛シニ用ヒラレタガ今ハ舊式ノ方法トシテ疎セラレ、之ニ使用シタ家屋ヲ押倒ス爲メノ大刺股又ハ梯子或ハ柱ヲ切ル爲メノ鉞、鋸等ハ今ヤ殆ド見ルベカラザルニ至ツタ。然ルニ今度ノ火災デハ此等ノ器具ガ殆ド無イノニ拘ラズ、破壊消防ガ工兵隊及ビ警官、青年團、在郷軍人等ノ素人消防家ニヨツテ名方面ニ於テ行ハレテ偉大ナ效果ヲ齎ラシタノデアアル。其例ノ或者ヲ記スト、

(一) 麴町區麴町五丁目ト同六丁目ト相對シタ角ハ工兵隊ガ家ヲ破壊シテ消止メタ。清水谷公園ノ水モ之ニ使用セラレタ。

(二) 下谷區入谷町六十一番地先、三ノ輪八十八番地等デ此方法ガ奏效シタ。同下根岸七十五番地郵便局附近デハ警官

ト民衆ト協力シテ之ヲ用ヒ、萬徳寺ノ所デ成功シタ。

(三) 破壊消防ノ行ハレタ最モ有效デアツタ例ハ蓋シ次ノモノデアラウ。下谷區下車坂町四十四番地カラ上野驛マデ位ノ幅デ火ガ南方カラ攻上ツテ來タトキ、坂本警察署長ガ卒先シテ破壊消防ニヨツテ之ヲ防禦セントシタ。器具トシテハ繩ト鋸トダケシカ無カツタガ、先ヅ鋸デ柱ノ根元ヲ切り柱ニ繩ヲツケテ之ヲ引倒シタ。繩ヲ引クニハ傍觀シテ居ル民衆ヲ強制シデ之ヲ爲サシメタノデ終ニ下谷萬年町二丁目十五番地角ニテ火ヲ喰止メタ。且ツ此時幸ニ風ガ變ツテ上野公園ノ方ニ向ツタ爲ニ根岸一帶ノ地ガ災厄ヲ免レタ。

(四) 淺草區橋場町百六十四番地百七十八番地附近モ破壊消防デ燒止マツタ。

(五) 淺草區新谷町七番地デハ青年團ガ本然寺前ノ東側ノ石垣ヲ引倒シテ火ヲ消止メタガ後ニ西方カラ襲來シタ火デ燃エ結局無効トナツタ。

(六) 淺草區三輪ノ電車車庫デハ其煉瓦家屋ノ足場ニ火ガ附クコトヲ恐レテ附近ノ人々ガ周圍ノ家ヲ倒シテ防火ニ成功シタ。

(七) 日本橋區魚河岸デハ一旦或家ヲ破壊シテ消防ニ成功シタガ後ニ反對ノ方カラ燃エテ來タ火デ前ニ助カツタ家ガ燒ケタ、ソコデ前ニ破壊シタ家ニ對スル辨償ヲ出セ出サヌト

カデ悶著ガ起ツタ。

(八) 芝區デハ新堀町十四番地金杉四丁目三十五番地及ビ將監橋北ノ隅角ノ焼止リ又西久保神谷町十九番地ノ焼止リ等ハ皆破壊消防ノ効果デアル。

(九) 破壊消防ガ如何ニ各所デ多ク奏効シタカヲ示ス爲メニ本郷區本富士警察署管内デ成功シタ總テノ地點ヲ舉グレバ次ノ通りデアル、他所デモ同様ニ多數ニアツタコト、思フ。

湯島天神町一丁目一ヶ所

同三丁目二ヶ所

湯島新花町五十四番地、九十二番地、九十三番地、各一ヶ所

湯島梅園町一番地料理店魚十前一ヶ所

弓町一丁目一番地、二十三番地各一ヶ所

金助町六十三番地、六十八番地、七十一番地各一ヶ所

春木町一丁目四十番地、同二丁目角、同三丁目角各一ヶ所

本郷三丁目角同四丁目各一ヶ所

破壊シタ戸數ハ各所一戸若シクハ二戸デアル。

以上ノ例デ如何ニ破壊消防ガ有効デアルカヲ知ルコトガ出來ヤウ。此方法ノ有効ナ理由ハ蓋シ家屋ガ立ツタ儘デ火ガツクト上昇氣流ヲ生ジ、火勢ハ強ク溫度ハ高クナリ從ツテ火粉ヲ盛ニ飛バスカラ危険デアルガ、之ヲ倒シテ可燃材料ノ嵩ヲ

成ルベク小サクスルト新鮮ナ空氣ノ流入ガ妨ゲラレ火勢ハ弱ルカラデアル。半燒ケノ家ヲ倒ス場合モ未燒ノ家ヲ倒シテ防火線ヲ作ルニシテモ理窟ハ同ジデアル。

今度ノ經驗デ吾人ハ破壊消防ノ忽ガセニスベカラザルコト及ビ素人ノ消防モ輕ンズベカラザルコトヲ學ンダ。願クハ平常カラ或一定ノ場所、例ヘバ總テノ交番所ニハ必ズ斧、鋸、繩等ノ道具ヲ備ヘツケ之ヲ非常ノ用ニ供シ度イ。又青年團、在郷軍人等ノ組織立ツタ團體ヲ訓練シテ之ヲ消防署ノ管轄ノ下ニ動作スル所ノ消防豫備機關タラシメ度イ。余ハ之ヲ以テ水道「ポンプ」系統ノ消防機關ノ幾分ヲ置換ヘヨト言フノデハナイ。却テ反對ニ消防本機關ハ在來ノモノニ比シテ少クモ數倍ニ之ヲ擴張シ、之ニ加フルニ青年團等ヨリ成ル豫備機關ヲ置カントスルノデアル。總シテ何事ニアレ道具立テハ一筋デハ不備デアル、議長アレバ副議長アリ、主人ニハ番頭アリデ一ツニ故障ガ生ジタ時ニ之ニ代ハルベキ設備ガ二重ニモ時トシテハ三重ニモ入用デアルノデアル。

尙破壊消防ニ連帶スル問題ハ破壊セラレタ家ノ損害ノ辨償問題デアル。余ハ法律ヲ知ラザレバ其可、不可ヲ知ラザレドモ相當ノ法規ヲ設ケテ消防署ニ其審判權ヲ附與シ、公平ニ且ツ容易ニ破壊ガ施行セラル、様ニシ度ト思フ。

消防設備ノ不備

消防設備ハ一旦之ヲ設ケテモ平素カラ十分ノ注意ヲ要スルモノデ、危険ナ時ニ働カヌコトガアツテハ遺憾デアル。此所ニ其遺憾デアル二、三ノ例ヲ舉ゲテ後ノ誡トスル。

(一) 神奈川県川崎町ノ東京電氣株式會社デハ自働的ノ撒水裝置ガアツテ火ヲ失スルト其火熱ノ爲メニ機械ガ働キ出シ各室ニ配置シテアル水管ノ栓ガ開キ撒水スル裝置デアル。今度ノ地震デハ其機械ガ狂ツテ働カナクナツタ。同所ニハ幸ニ火災ハナカッタガ一考スベキ例デアル。

(二) 日本橋區ノ三越呉服店ノ防火設備ハ電力ニヨルモノデアル。電力ヲ以テ水ヲ高所ニ掲ゲ消火スル方法デアルガ、ソノ電氣ヲ供給スル爲メニ館外カラ來ル電氣ヲ先ヅ館内デ變壓スルコトニナツテ居ル。其變壓器ガ二ツ共地震ノ爲メニ破損シテ用ヲ爲サナカッタ。變壓器ニ異狀ガナクテモ電氣ノ供給ガ斷タレ、バ何トモ致方ガナイ筈デアル。

(三) 本所區ノ堅川工場デハ自家用ノ「ガソリン・ポンプ」ガ二臺備附ケテアツタ。「ポンプ」ニハ異狀ガナカッタガ肝心ナ燃料ノ貯蓄ガ不足デアツタ爲メニ「ポンプ」ガ働クコトガ出來ナカッタ。

(四) 東京帝國大學デハ「ポンプ」ニ故障ガアツテ働カナカッタ。

要スルニ餘リ巧妙ナ設備ヤ複雑ナ機械ハ非常用トシテハ不

可デアル、毎日其立派ナ姿ヲ見テ居ルト之ハ依頼スルニ足ルモノダト云フ考ガ出テ安心サセラレルガ非常ナ時ニ故障ガアルヤラ、使用法ニ通ジタ人ガ居ラヌヤラデ蹉跌スル。

#### 樹木ノ効力

天然消防法ニモ色々アツテ地形トカ河川又ハ樹木ノ作用トカデ火ガ喰止メラレルコトガアリ又ハ大道路、鐵道線路等ガ防火線ノ役ヲ爲スコトガアル。

樹木ハ種類ニヨツテ防火ノ程度ガ違フ。松、杉ノ如キハ反對ニ火勢ヲ助長スル有害ノモノデアツテ山火事デモ杉林ノ火ハ中々ニ鎮ラヌ。樹木デ有効ナノハ從來ノ經驗デ樅(カシ)椎(シイ)珊瑚樹等ガ最良デ公孫樹(イチヨウ)梧桐(アオキリ)等ガ之ニ次グ、ソシテ「プラタナス」モ今度ノ火事デ良イコトガ判ツタガ、此等ノ落葉樹ハ葉ガナイ時ハ效能ガナイ。公孫樹モ寺院等ニ此目的デ植エラレテアルガ其葉ガ青イ時ハ良イガ黃變スルト餘リ效能ガ無イト傳ヘラレテ居ル。

樹木ハ其數ガ多ク又其高サガ高イ程良イ、火勢ガ餘リ強クナイ時ニハ確カニ有効ダガ然シ無効ナ場合モアル。之レハ他ノ防火ノ方法ト相待ツテ始メテ効力ヲ發揮スルモノデアルカラ樹木ノ有ルハ無キニ優ルト云フ種類ノモノデアル。

樹木ガ防火ノ役ヲ爲スノハ蓋シ第一ハソレガ幅射熱ヲ遮斷スル障壁トナルコトデアラウ、第二ニハ高イ樹木ノ周圍ニハ



常ニ下降氣流ガアルラシイガ其爲メニ一般ノ氣流ガ攪亂セラレテ火ノ粉ガ樹木ノ上ヲ遠方ニ飛ビ行クコトヲ妨ゲラレルラシイ、故ニ樹木ハ丈高ク數多キヲ要スル。

樹木ガ偉功ヲ奏シタ第一ハ蓋シ淺草觀音デアラウ。二重ニモ三重ニモ高イ公孫樹其他ノ樹デ包圍シテアルノハ推察スルニ、淺草觀音ハ既ニ數回モ祝融ノ災ニ罹ツテ居ルカラ其苦イ經驗ガ此ノ如キ嚴重ナ防備ヲ爲サシメタノデアラウ。深川區森下町ノ神明祠モ同様ニ高イ樹木デ圍マレテアルノデ燒殘ツタ。然シ又無効デアツタ場合モアルノデ、其一例ハ湯島ノ東京博物館ノ境内ニアル孔子廟ノ大成殿ガ椎、樑ノ大木ノ森ノ中ニアツタニ拘ラズ燒ケ落チタ。此相違ハ何ニ基ヅクカハ動態地圖ニヨツテ此等ノ場所ノ火流ノ方向ヲ見レバ自ラ明白ニナル。大成殿ノ方ハ火流ガ東京高等師範學校ノ方カラ眞正面ニ之ニ向ツテ來タノデ之ハ到底樹木ノ阻止スル處デハナイ。淺草觀音ヤ神明祠ハ火流ガ其燒殘リ地域ノ境界ニ略ボ平行ニ周圍ヲ通り過ギタ形デアル、故ニ輻射熱サヘ遮斷スレバ安全デアル。尤モ神明祠ノ方ハ其北側ハ火流ノ衝ニ當ツタガ此方ハ火元ニ近クテ火勢ガ未ダ猖獗ヲ極ムルニ至ラナカツタ。加之幸ニ此方ニハ特ニ高イ公孫樹ガアツテ神殿ヲ覆フタ。ソシテ神殿ノ外壁ハ他ノ神社ト異ナリ全部白色ノ漆喰デ塗り固メラレテアリ神官ノ二階建木造瓦葺住宅ハ其下見ガ例ノ「トタ

ン」生子板デ張ツテアツテ十分ニ火ノ粉ヲ防グニ足ルモノデアツタ。序ニ附記スルガ此地ハ深川ヲ開イタ深川氏ノ邸宅ノ跡デ安政ノ大震火災ニモ災厄ヲ免カレタ。

尙左ニ樹木ノ效能ガアツタ例ヲ示セバ

(一) 本所區須崎町三十五番地ノ燒止マリハ木造建築ナレド周圍ニ樹木ガアリ且ツ燒失區域ノ境界線ノ上デ火勢ガ弱カツタ。

(二) 神田區駿河臺袋町ノ福田氏住宅ハ樹木デ包圍シテアツタ爲メニ助カツタ。

(三) 淺草區今戸町七十三番地ノ慶養寺ハ樹木ニ取り卷カレタ鐘樓ノミ燒ケ殘ツタ。

(四) 東京帝國大學内ノ學生集會用ノ新建築木造平家ガ圖書館ニ隣接シテ居タニ拘ラズ大樹ノ下ニアツタノデ之ニ保護セラレテ全ク不思議ノ様ニ殘ツタ。

尙一ツ面白イ例ハ本郷三丁目カラ湯島切通シニ通ズル電車道ヲ境トシテ防火ニ努メタトキノ事デアル。此時消防隊ハ郵便局ノ向側ノ小路ニ入ツテ土藏ヲ楯ニシテ防禦セントシタガ、中々ニ困難デ消シテハ燃エ出シ、消シテハ燃エ出シ三回之ヲ繰返シテ終ニ失敗ニ歸シ止ヲ得ズ其次ノ春木町三丁目ノ小路デ防禦ヲ試ミタ。然ルニ此所ニ東側ニ木造ノ古イ二階家ガアツテ之ニ火ガツケバ頗ル危険ヲ極ムル狀態デアツタノニ其

向側ノ火ノ攻メテ來ル方ニ春木町三丁目三十七番地齋藤氏ノ敷地内ニアル樹木ノ爲メニ二階家ガ助カリ、之ガ爲メニ此所ヨリ湯島天神マデハ電車通りノ兩側共ニ災厄ヲ免カレタノデアル。齋藤氏ノ建物ハ樹木ノ無イ方カラ火ガ來タノデ燒ケ其殊勳アル樹モ焦ゲテ立枯レトナツタ。此樹ハ何ノ木ダカ不明デアツタガ植物園ノ牧野氏ノ鑑定ニヨツテ「イヌグス」又ハ「タブノキ」ト稱スル樟ノ一種デアルコトガ判ツタ。

#### 附圖 第三十八圖ハ此樹ト二階家トヲ示ス。

#### 大道路、河川、鐵道線路

大道路、河川、鐵道線路等ガ所謂防火線トシテ火災阻止ニ有効デアルコトハ事實デアル。前述シタ如ク火ヲソレ／＼ノ系統ニ分ケテ見ルト異系ノ境界線ガ此等ノモノニヨツテ形成セラレテ居ル所ガ多イ。燒失區域ノ境界即チ燒止マリ線モ同様デアル。此ノ説明トシテ或ハ之レヲ可燃材料ノ存在セザルコトニ歸スル人モアラウ。ソレモ確カニ左様デアラウ。線路上ニアル些細ノ荷物等ガ媒トナツテ火ガ之レヲ傳ハツタ例モ澤山ニアルカラ此理由モ確カニアルデアラウ。然シ總テノ場合ヲ通ジテ説明ハ左程簡單ニハ片付ケラレマイ。此所ニ一ツノ注目スベキ事實ガアル。ソレハ若シ火流ガ道路又ハ河川等ニ直角ニ攻寄セテ來ルト、火ハドン／＼之ヲ越シテ行クガ火流ガ或角度ヲ爲シテ之ニ近ヅクト、近ヅクニ從ツテ漸々火流

ハ其方向ヲ變ジテ終ニ線路ニ並行ニナリ火ハ之ヲ越サナイモノデアル。此作用ハ蓋シ此等ノ線路ニ沿フテ流レル氣流ガアツテ之ガ爲メニ起ル現象デハアルマイカ。此ノ如キ例ハ動態地圖ヲ見レバ所々ニ認メラレル。例ヘバ上野廣小路カラ厩橋マデノ電車通ノ兩側ニ於テ或ハ京橋、日本橋間ノ大通リノ兩側ニ於テ之ヲ見ラレル。日本橋ノ第四十號、第四十一號ノ火元ノ火ガ北進カラ南進ニ轉ジテ後ニ大和橋、中ノ橋ノ間デ川ヲ越サナカツタノモ尙一ツノ例デアル。要スルニ上述ノ理由ト可燃材料ノ存在セザルコト、消防者ガ之ヲ防火線トシテ活動シ得ル便宜トガ相助ケテ有効ニナルノデアラウ。火ガ大道路ヲ越サル習性アリトスレバ新タニ都市計畫ヲ爲スニ當ツテハ大道路ノ或者ノ方向ヲシテ其土地ノ火災季節ニ最も頻繁ニ吹ク風ノ方向ニ並行デアル様ニ設計スルノガ得策ト思フ。敢テ當事者ノ一考ヲ煩ハス次第デアル。

鐵道線路ニ就テ一ツノ面白イ例ハ神田區秋葉ノ原驛カラ北方ニ走ル貨物線路ニ於テ之ヲ見ルノデアル。此線ノ東側ニ練堀町ガアリ、西側ニ松富町、山本町ノアル所ハ此線路ガ高架線デアツタ爲メニ防火線トシテ有效ニ作用シタガ、夫ヨリ北ニ於テハ然ラザリシ爲メト、尙一ツハ火流ガ線路ニ直角デアツタ爲メトデ、火ハ東側ノ御徒町一丁目、二丁目カラ、西側ノ同朋町、南大門町ヘ越シタノデアル。鐵道線路ノ有効デア

ツタ例ハ尙芝區金杉ノ濱町ニアルガ、此所デハ線路上ノ荷物ヲ媒トシテ一ヶ所カラ火ガ防火線ヲ漏レテ東側ノ新濱町ヲ燒キ結局ハ無効トナツタ。

更ニ稍變ツタ例トシテ芝公園ノ東側ノ燒止マリハ墓地ト寺院トノ土塀トノ爲メデアリ、神田區美倉橋角ノ日進銀行ノ助カツタノハ倒レ殘リノ煉瓦塀ガ防火壁トナツタノデアル。又芝區金杉三丁目十六番地ノ松宮氏ノ石造倉庫ハ特別耐火ニ注意シテアルガ、此石藏ノ存在ガ燒止リノ原因トナツタ。

要スルニ河川、大道路、鐵道線路等ハ火災阻止ニハ有効デアル。道路ニハ適當ノ街路樹ヲ植エ、川岸地ニハ堅固ナ道路ヲ設ケテ消防「ポンプ」ノ水面ニ近ヅキ得ル様ニシテ、都市ノ美觀ヲ添ヘルト同時ニ災厄ヲ輕クスル方法ヲ講ズルノハ、實ニ一舉兩得ノ策デアル。

### 慘死者

今度ノ震火災デハ、火ニ燒カレ水ニ溺レテ多數ノ人命ガ失ハレタコトハ、實ニ古今未曾有デアル。本所被服廠跡トカ、神田驛トカノ多數ノ慘死者ヲ出シタノデ有名ナ場所デ幾名ノ犠牲者ガアツタカト云フト、其數ハ震災直後ニ喧傳セラレテ居タモノト其後各警察署デ檢死シタ數トハ一致セヌ處モ随分アル。警視廳ノ調査デハ慘死者ノ總數ハ市部ニ五萬七千五百二十三人、郡部ニ五人合計シテ五萬七千五百二十八人ト云フ

コトデ、男女ノ區別ノツケ兼ネルモノガ甚ダ多イ。今何故ニ某々地點デ特ニ多數ノ慘死者ガ出來タカ又何時迄ニ死ンダノデアルカラ推定シテ見度イト思フガ、溺死ノ方ハ屍體ガ潮流等デ移動スルノデ死亡シタ場所ト檢死シタ場所トガ必ズシモ一致セズ、事情ガ複雑デアルト云フ恐レガアルカラ、之ヲ考慮ノ外ニ措イテ燒死者ノミニ就テ考察スル。各警察署デ檢死シタ燒死者ノ百名以上アツタ場所ハ左ノ通りデアル。

番號	場 所	燒死者數	所轄警察署
一	本所區被服廠跡	四四〇三〇	相生署
二	淺草區田中小學校敷地内	一〇八一	日本堤署
三	本所區太平町一丁目四十六番地先横川橋北詰	七七三	太平署
四	本所區錦糸町驛	六三〇	太平署
五	淺草區吉原公園	四九〇	日本堤署
六	深川區東森下町百〇九番地先	二三七	西平野署
七	深川區伊豫橋際	二〇九	扇橋署
八	本所區枕橋際	一五七	向嶋署
九	本所區綠町三丁目一番地暨川河岸	一二五	相生署
十	深川區東大工町五百六十六番地丈六原	一一三	扇橋署
十一	神田區神田驛	一〇八	錦町署

此表デ見ルト人ノ燒死シタ場所ハ廣場カ橋ガ多イ。コレハツマリ火ニ追ハレテ遂ニ多數ノ人ガ密集シテ身動キノナラヌ様ニナツタ所ヲ包圍攻撃セラレタノデアラウ。今其考デ動態地圖ノ火陣ノ曲線カ或ハ又第十乃至第二十四圖ニヨツテ

上記ノ地點ヲ吟味スルト、皆或時刻ニ於テ火ニ包圍セラレ、終ニ火中ニ併吞セラレテ居ル。例ヘバ第一ノ被服廠跡ハ16'ニ全ク包圍セラレタ。而シテ此時ニ彼ノ恐ロシイ旋風ガ來タ。第二ノ田中小學校ハ14'ニ南ト北カラ火ガ攻メ寄セテ15'ニ全ク挾撃セラレタ。第三ノ横川橋ハ15'ニ圍マレ始メ16'ニ併吞セラレタ。此ノ如ク全部説明シ得ラレルノデアル。斯クノ如クシテ慘死シタ時刻ヲ推定スルト次表ノ如クニナル。

#### 慘死場所及ビ時刻

#### 慘死場所及ビ時刻

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 第一、九月一日午後四、五時 | 第二、九月一日午後三時   |
| 第三、九月一日午後四時   | 第四、九月一日午後三、四時 |
| 第五、九月一日午後一、二時 | 第六、九月一日午後二時   |
| 第七、九月一日午後五時   | 第八、九月一日午後四時   |
| 第九、九月一日午後五時   | 第十、九月一日午後五、六時 |
| 第十一、九月一日午後八時  |               |

若シ此説明ガ正シイトスルト此ノ如ク悲慘ナ運命ニ陥ラヌ様ニスルニハ異ナツタ方面カラノ火陣ガ近カヌ様ニ協力シテ火ヲ消スコトヲ第一方策トシ、若シ到底ソレガ不可能トナツタナラバ、第二策ニ移ツテ何所マデモ逃ゲテ見セルト云フ意氣デ行進シテ、一ヶ所ニ停滯セヌコトヲ第二ノ方策トシタイト思フ。此見地カラ考ヘルト廣場ヲ作ツテ、避難者ノ停滯ヲ起リ易クスルヨリハ道路ヲ成ルベク廣クシテ遠ク市外ニマデ

延長シテアル様ニスル方ガ良イ。四角ナ大公園ヨリハ、細長イ公園ノ方ガ良イト思フ。例ヘバ嘗テ或人ガ考ヘタ芝公園カラ愛宕山、麴町山王臺カラ濠端ニ沿フテ、駿河臺カラ上野ヲ連絡スル様ナ細長イ公園的ノ避難所ヲ置ク方ガ有利ノ様ニ考ヘラレル。

#### 燒 殘

火災動態地圖ニハ燒殘リガ記入シテアルガ、之レハ周圍ガ燒失シテ居ル場合デ燒失區域ノ境界ニ接シタモノハ燒止マリトシテ取扱ツタ。例ヘバ中央氣象臺ノ一ツ橋ニ近イ所ニアル官舎一棟ノ如キデアル。又交番所、自働電話小屋ノ類ハ省略シテアル。ソレカラ京橋區疊町ノ片倉製糸會社ノ如キ下層ノ内容物ガ燒ケテ上層ノ無事ナモノハ燒殘リノ數ノ中ニ加ヘタ。次ニ燒殘リノ場所ヲ舉ゲルガ其數ハ約百四十ヶ所デア。ル。(木)ハ木造、(耐)ハ耐火構造ヲ意味スル。

#### 麴町區

- 大手町二丁目會計検査院門衛詰所(木)
- 大手町二丁目會計検査院小使詰所(木)
- 上六番町三井邸、三ヶ所
- 永田町二丁目、鍋島邸内
- 飯田町四丁目川岸、新飯田橋西北袂(木)
- 飯田町驛轉轍事務所(木)

## 神田區

## 練塀町

和泉町佐久間町一帶

昌平河岸昌平橋袂、書店(耐)

駿河臺東紅梅町、岩崎邸向側川沿崖上二ヶ所(木)

駿河臺袋町、福田邸

御茶ノ水橋驛「プラットフォーム」(耐)

商科大學內圖書館(耐)

錦町三丁目十八番地、學校(耐)

小川町、東京商工學校

錦町一丁目、電機學校新館(耐)

大和町十二番地、倉庫

大和町七番地、八十四銀行神田支店

豐島町(二十三番地、變電所?)

柳原河岸二十一號地、日進銀行神田支店

千代田町一番地、共榮貯金銀行(耐)

元久右衛門町二丁目河岸地、米倉庫

## 日本橋區

平松町七番地、住友銀行(耐)

南茅場町靈岸橋角、三井銀行支店(耐)

日本銀行、二ヶ所

室町二丁目八番地

新乗物町(一番地?)

本石町一丁目新常盤橋角、變壓所

蠣殼町二丁目(二十二番地?)東京「モスリン」會社

蠣殼町三丁目十一番地、杉村邸內

永久橋土州橋間小公園

富澤町(十七番地?)

## 京橋區

南新堀町一丁目、倉庫(耐)

越前堀一丁目十番地

越前堀二丁目、住友倉庫

疊町八番地、片倉製糸會社四階以上

具足町(十番地?)

南傳馬町二丁目(十七番地?)

南傳馬町三丁目、第一生命保險相互會社三階四階

南傳馬町三丁目十三番地、三十四銀行

山城町角

南金六町五番地

木挽町九丁目、大臣官邸

水路部內

海軍大學校

海軍大學校內軍樂隊練習所

築地一丁目、京橋警察署

明石町五十番地(木)

明石町二十一番地

石川島佃島一帶

月島西仲通六丁目河岸

月島三號地四ヶ所

### 芝區

櫻田久保町(七番地?)

金杉新濱町、芝浦製作所(耐)

芝口一丁目十三番地

芝愛宕山上小祠

### 赤坂區

溜池町三十番地(日本自動車會社?) (耐)

### 小石川區

造兵廠本部

新諏訪町(十五番地?)

### 本郷區

元町金刀比羅神社奥、小此木氏(木)

元町神田川崖下數戸(木)

東竹町(二十七番地?)

湯島三丁目御茶ノ水橋袂、工夫詰所(木)

湯島二丁目東京博物館官舎(木)

湯島二丁目切符賣場(木)

### 下谷區

金杉上町百五十五番地

東黒門町四番地(耐)

御徒町三丁目六十番地、新築中

南稻荷町二十七番地

### 淺草區

龜岡町三丁目(百十九番地?)

吉野町十九番地(耐)

今戸町四十一番地

今戸町三十番地

今戸町三十二番地

今戸町七十三番地、慶養寺鐘樓(木)

山谷町十三番地、念佛寺(木)

三輪車庫新谷町(四番地?)

淺草公園

公園、凌雲閣ノ間千束町二丁目八

新谷町十三番地第一飛行館

新谷町十六番地十七番地



南富坂町(五十番地?)

向柳原町、松浦邸及其附近

老松町(二十五番地?)

本所區

向島須崎町三十二番地

向島牛島神社、社務所外壹棟

向島三圍神社

向島押上町百五十八番地、京成電事事務所

向島淺草驛、倉庫二ヶ所

向島中ノ郷町(九十九番地?)倉庫

荒井町(五番地?)

柳島横川町百番地、倉庫(耐)

綿糸町汽車製造會社

綿糸町糧秣本廠本所倉庫(木)

菊川町一丁目十九番地、倉庫

菊川町一丁目六番地、倉庫

松坂町一丁目十三番地、石造倉庫

横網町河岸地一帶

龜澤町一丁目三十七番地、石造倉庫

龜澤町一丁目五十二番地、石造倉庫

深川區

西森下町、神明祠

西森下町十番地、倉庫

伊勢崎町、岩崎邸内二ヶ所

龜住町三番地、倉庫

龜住町五番地

一色町五番地、石造倉庫

一色町十四番地、石造倉庫

松村町(二十八番地?)

福住町、澁澤倉庫

佐賀町二丁目七番地

富吉町二十番地、第十五銀行深川支店

門前山本町四番地

富岡門前町四十二番地

深川八幡境內

門前東仲町三十四番地

東大工町四十番地、大日本紡績會社内

豐住町(八十二番地?)

上大島町、瓦斯製造所

富川町二番地石川島造船所分工場(木)

富川町三番地(木)

東森下町百〇六番地

黒江町四十一番地、石造倉庫

清住町淺野「セメント」會社西側家屋

越中島町糧秣本廠内一ヶ所

越中島町商船學校内一ヶ所

越中島町水産講習所内二ヶ所

越中島町航空研究所内二ヶ所

洲崎町洲崎警察署

古石場町南方

古石場所「アパートメント」(耐)

平久町二丁目藤倉電線工場(耐)

鹽濱町飛行機倉庫(耐)

平久町二丁目、二ヶ所

南葛飾郡

砂町八右衛門二〇三番地、石灰製造所

同 永代一ヶ所

此等ノ燒殘リハ其ガ耐火構造デアツタトカ風ノ工合ガ丁度良カツタトカ樹木ガ火ヲ遮斷シタトカ消防ガ行届イタトカ種種ノ原因ガアツテ、ソノ或者ニハ既ニ前文ニ其場所デ説明ヲ加ヘテアル。前ニ記載シタ例ト異ナツタ消防ノ例ハ此表ニアル本所區錦糸町ノ汽車製造會社デ、コ、デハ客車三臺ヲ會社ト東武線トノ間ニ持ツテ來テ客車ノ窓ヲ閉デテ防火ニ成功シ

タ。燒殘リ中ノ最著シイノハ神田區和泉町佐久間町ノ大地域、淺草公園、石川島佃島一帶等デアルガ、今代表者トシテ神田區和泉町佐久間町ノ燒殘リニ就テ、更メテ説明ヲ加ヘテ見ヤウ。

此ハ實ニ見事ナ燒殘リデ震災後暫時ノ間ハ東京ノ大焦土ノ中ニ「アフリカ」ノ砂漠ノ中ニ在ルト云フ「オアシス」ノ觀ヲ呈シタ。他所ノ人ハ奇蹟トシテ驚キ町内ノ人ハ土地ノ誇トシテ喜ンダ。今此地域ヲ見ルニ其東北隅ニハ内務省衛生試驗所三井慈善病院ガアツテ其耐火構造ガ防火ニ有利デアツタ。東側ニ於テハ火ハ淺草藏前ノ方カラ眞正面ニ攻メ寄セテ來タガ然シ幸ニ此ノ火ハ餘リ優勢デ無ク、而モ將ニ到着セントスルトキニ風向ガ急ニ變ジテ火流ハ北進シタ。此ノ北進シタ火流ガ更ニ一轉シテ東カラ西ニ向フモノトナツテ此地域ノ北側ニ平行ニ進ンダ。北側ノ道路ノ向側ニハ三ツ輪研究所、郵便局、市村座劇場等ノ煉瓦建築ノ一列ガアツテ、此自身ハ後ニハ燒ケタガ尙防火壁トシテ効能ガアツタ。南側ハ神田川デ、川向フニハ煉瓦造ノ家ヲ隔テ、大道路アリ其向フニ木造ノ家ガアツタノダガ、木造ノ家ハ大體南ニ向フ火デ燒ケタノデ、何等ノ心配ハ無カツタ。西側ニハ其南半ニ秋葉原貨物驛ガアツテ其構内ノ神田川ニ通ズル「ドック」ハ豊富ナル水利ヲ供給シタ。故ニ此部分ハ火ガ西カラ東ヘト正面カラ攻撃シタガソレ

ニモ拘ラズ見事ニ消防シ得タ。西側ノ北半ハ火流ノ方向ガ北カラ南ニ向ツテ甚好都合デアツタ。且ツ此一帶ノ地ハ幕府時代ノ火事ニモ其厄ヲ免カレタコトガアルト云フ事實ヲ語り傳ヘテ、土地ノ人ニ不燒ノ地ト云フ信念ガアルノデ、非常ナ決心デ消防ニ努力シタト云フコトデアル。要スルニ此所ノ燒殘リハ種々ノ原因ガ極メテ有利ニ助ケ合ツタノデアル。奇蹟ト云フ語デ表現サレル様ナ偶然ノ出來事又ハ神祕的ナ事實デハ斷ジテ無イ。

東京市ノ大部分ヲ焦土ニシタ彼猛火ノ中ニ、尙上記ノ如キ燒殘リガ點々存在スルノヲ見、又一方消防ニ勉メタ所デハ多ク其効ヲ奏シテ居ルノヲ見ルト、吾人ハ人ノ力ノ偉大ナルニ驚カザルヲ得無イ。之カラ考ヘルト今度ノ大火ハ多數ノ人達ガ自己ノ安全ヲ先ニシテ市民トシテ共同一致シテ働作スルコトヲ怠リ人力ノ偉大ナル効果ヲ十分ニ發揮シ得無カツタカラデアルト斷ジテモ過言デハ有ルマイ。子孫ニ對シテ耻ヅベキ一大恨事デアル。江戸ノ先代ノ住民ハ明暦ノ大火ニ鑑ミテ京橋、日本橋ノ中程ニ中橋廣小路ト云フ防火用ノ廣場ヲ新設シタ。愚ナル子孫ハ之ヲ無益ナル土地ノ使用法ト盲斷シテ之ヲ廢シ、民家ヲ以テ之ヲ充タシ、今ハ唯其地名ヲ存ズル計リデ其實ガ無イ。電車ノ車掌ガ中橋廣小路ト叫ブトキ地方ノ人ハ何所カニ廣場ヲ求メントシテ空シク見廻ハスノミデアル。今

明暦ノ大火後ニ出版サレタ有名ナル武藏鑑ノ記事ヲ引用スレバ

(上略) 其年(明暦三年)ノ九、十月ニハ土木ノ功成リテ町並一様ニ六萬間棟ヲ並ベ軒ヲ揃ヘテ奇麗ニ建テ侍リ元ノ大地ハ廣サ六間ナレバ往來狹シトテ今ハ廣サ十間ナリ。之ニヨツテ車馬道ニ止マラズ人ノ往カヨヒ安ラカナリ。又銀町ヨリ柳原マデ町屋一通リ除ケラレ高サ二丈四尺ニ石ヲ以テ東西十町餘リニ土手ヲツカセラル。日本橋ノ南、萬町ヨリ四日市マデノ町屋ヲ取除ケ高サ四間ニ川端ニ沿フテ北ヲ受ケ、東西二町半ニ疊上ゲラル。又日本橋ヨリ京橋マデ八町ノ間ニ町屋三ヶ所ヲ取除ケテ會所三十間ヅ、ニ廣クナレリ。元ハ町屋餘リニセキ合ヒ諸人彌ガ上ニ人込ミ稍モスレバ失火ヲ出シ人物ヲ損フコトノ度ニ及ブ故土手ヲツキタラバ江戸中ノ者如何ナル事アリトモ退先タヤスキ爲メニトノ御事ナリ。扱右ノ取除ラレシ五ヶ所ノ町人共ニハ引料トシテ家一家ニツキ金子七十兩宛給、替地ニソヘテ下サレタリ。(下略)

上文ニアル東西十町ニ餘ル土手ト云フノハ今日今川橋ノ架シテアル川筋ノ處デ此所ハ以前ハ川ハ無ク町家デアツタノヲ上記ノ如ク收拂ツテ高サ四間ノ防火壁ヲ築造シタノデアル。其ノ土手ハ現在ノ狀態デ言フト龍閑橋カラ九道橋マデノ間デ

アル。第二ノ東西二町半トアル土手ハ日本橋カラ江戸橋迄ノ間ニ川ニ沿フテ設ケラレタノデアル。第三ノハ日本橋ト京橋トノ間ニ三ヶ所ノ廣場即チ廣小路ヲ街路ニ直角ニ東ノ方ノ千代田橋、久安橋ノカカツテ居ル川カラ、西ハ外濠マデ達シテ居ルモノデアル。其第一ハ今ノ千代田橋カラ吳服橋マデノ電車通りニ近ク第二ハ所謂中橋廣小路デ大通リノ東側ハ久安橋附近カラ大通リマデ堀割リガ今ノ中橋和泉町ノ所ヲ被ヒ、大通リノ西側ハ外濠マデ廣場ニセラレタノデアル。第三ハ今ノ松幡橋附近カラ濠端マデ松川町、南大工町等ガ廣場ニセラレタノデアル。

此ノ外ニモ江戸市中ニハ所々ニ火除原ト云フ空地ガ設立シテアツタノダガ漸々ソレガ失ハレテ天保ノ江戸圖ニハ中橋廣小路ハ既ニ無ク龍閑橋カラノ土手ガ殘サレテアルノミデアル。

### 雜件 數則

本調査中ニ知ツタ事實デ後ノ參考ノ爲メニ記シテ置キタイコトガ數件アル。之ヲ順序ニ拘ラズ記載スル。

(一) 金庫ニ貴重品ヲ入レテ置イタノガ燒失シタ多クノ場合ハ、金庫ガ不完全ナ爲メデハ無クシテ不注意ニ基ヅクノガ多イ。不注意トハ金庫ノ下ニツケテアル車ヲ動かヌ様ニ「セメント」カ何カデ止メテ置クベキヲ、ソレヲ爲サナカツタ

爲メニ地震デ動キ出シ或ハ高イ臺ノ上ニ載セテ置イタノデ墜落シテ前ノ扉ノ鎖サレヌ様ニナツタ。ソレヲ其儘デ逃ゲ出スコトニナツタカラデアル。

(二) 金庫ノ扉ヲ完全ニ閉ヂタガ後ニ開イテ見タラ中ニ入レテ置イタ重要書類ガ熱ノ爲メニ乾餾セラレテ、ボロ／＼ニナリ手ヲ觸レルト忽チ形ヲ失フ様ニナツタノガアル。

(三) 之ト全ク同ジ經驗ヲ大規模ニヤツタノハ駿河臺ノ佐々木研究所デ書庫ノ防火扉ヲ完全ニ締メタガ書物ガ皆ボロボロニナツタ。此書庫ハ外國學術雜誌ガ澤山ニ藏シテアツタノデ誠ニ惜シイモノデアル。

(四) 以上ノ失策ハ平常ノ火災デハ火中ニアル時間ガ短イカラ起ラヌノデアラウガ今度ノ火災ノ様ナ強イ火ガ長ク續クト次ノ例ノ様ニスルガ良策ト思フ。

或銀行(逸名)デハ行員ガ其親カラ豫々聞テ居タ事デ火事ノ時ニハ土藏ノ中ニ盥ニ水ヲ充タシタモノヲ入レテカラ之ヲ閉ヂヨト云フ事ヲ思ヒ出シテ「バケツ」又ハ靴洗ヒノ楕圓形ノ「ブリキ」器ニ水ヲ入レテ之ヲ澤山ニ建物ノ中ニ配置シテカラ防火扉ヲ下シ密閉シテ立退イタ。結果ハ極メテ良好デ内容物ニ何等ノ異狀ガ無ク「バケツ」ノ水ハ無クナリ靴洗器ノ水ハ半分ニナツテ居タトノ事デアル。

上ノ現象ヲ説明スルト一體乾餾ト云フノハ物質ヲ熱スル

ト熱ノ爲メニ其物質ノ蒸發シ易イ成分ガ氣體トナツテ出ルコトデアルガ其物質ノ觸レテ居ル空所ガ稀薄デ即チ壓力ガ小デアルト、同ジ溫度デモ氣體ガ出易ク乾餾ガ早ク行ハレル。壓力ガ大ナレバ反對デアル。上記ノ様ニ水ヲ入レテ建物ヲ密閉スルト火事ガ來タトキニ先ヅ水ガ蒸發シテ水蒸氣トナツテ建物内ノ空所ヲ充タシ蒸發ガ進ム程壓力が高マル。故ニ普通ナラバ内容物カラ氣體ガ出ル可キ程ノ高溫度ニナツテモ水蒸氣ノ壓力ノ爲メニ氣體ガ出ラヌ即チ乾餾セラレヌノデアル。假リニ建物ガ不完全ニ密閉シテアツタトスルト水蒸氣ハ隙間カラ逃ゲ出スガ水ノ逃ゲ切ラヌ間ハ建物内ノ壓力ハ高イカラ乾餾ハ無ク又隙間カラ外ノ火ガ侵入スルコトガ無イ。

(五) 嵩張ツタ荷物ヲ持出シテ他人ノ迷惑ヲ掛け自分ノ生命ヲ失フコトノ馬鹿ゲタモノデアルコトハ既ニ述べタガ、極メテ大切ナ小サナ品物デモ身ニツケテ逃ゲ歩クト何時ノ間ニカ紛失スル人多イ。ソレデ或人ハ其等ノ品ヲ井戸ノ中ヘ入レタ。此時、後ニ井戸換ヘスルノガ面倒ダカラト考ヘタ積リデ系デ吊シタ人ガアル。サウスルト火事場泥棒ガ此系ヲ目標トシテ品物ヲ片端カラ盗ンデ行ツタト云フコトデアル。

(六) 上記ノ如ク水中ニ入レルコトハ品物ニヨツテハ、後ニ

處分ニ窮スルコトガアル。之ニ代ハル方法ハ地中又ハ砂ヲ入レタ箱ノ中ニ入レテ地中ニ埋メルコトデアル。此ハ成績ガ甚良イ。其例ハ

築地二丁目ノ東京府立工藝學校デハ吉田書記ガ小使ヲ督シテ穴ヲ掘ラセ重要書類ヲ土中ニ埋メテ皆無事デアツタ。

中央氣象臺デハ官舎ノ前ニ建築物ノ地下工事ノ爲メニ穴ガ掘ツテアツタガソレニ入レタ荷物ハ皆助カツタ。土ハ五分位シカ掛けテ無カツタ。又役所ノ書類及ビ圖書ハ皆水道ヤ下水工事ノ穴ノ中ヘ先ヅ箱ヲ入レテ其上ニ入レタ爲メニ濡レモセズ燒ケモセズニ澤山ノモノガ無事デ助カツタ。

久松小學校デハ學校ノ圖書中ノ高價ナ辭書類ヲ土中ニ入レ其上ニ東郷元帥書ノ横額ヲ載セ又其上ニ試験的ニ萬年青一株ヲ載セテ砂ヲ掛けタガ。皆助カツタ。

是等ノ例デ見ルト割合ニ淺イ所デモ土中ノモノハ助カルラシイ、品物ヲ積ンダ場所ガ建物ノ下デ後ニ強イ火ガ上ニナル處デハ如何カと思フガ戸外ナラバ有效ト思ヘル。其一ツノ證據ト思ヘルコトハ余ガ前記ノ府立工藝學校ヘ九月十日頃ニ燒跡ヘ行ツテ見タトキニ學校ノ中庭ニ「タマスダレ」(水仙ノ類)ノ球根植物ガ旬日前ノ猛火ノ中ニアツタモ忘レ

タ様ニ青々ト若葉ヲ出シテ白イ花ガ咲キ誇ツテ居タ。之レハ土地ガ溫マツテ居ル爲メニ、時ナラヌ春ニ會フテ芽ヲ出シタノデアラウ。球根植物ダカラ根球ハ地面カラ精々一二寸ノ深サト思フガ夫デモ蒸シ焼キニモナラズ異狀ガ無イラシイ。

(七) 深川區ノ木場町、扇町邊ハ火足モ速ク火勢ガ餘程猛烈デアツタラシク此邊ノ材木置場ノ水面ニ浮ベテアル材木デサヘ焼ケタ。

(八) 建物ニ近イ所デハ不規則ナ氣流或ハ渦ガ起ルモノデア。大方ソレデ説明セラレルコトデアラウガ築地ノ歌舞伎座ガ焼ケタノニ其風上ノ側ニアツタ足場ノ丸太ガ焼ケテ居ナイ。(附圖第三十九圖) 日本橋區北鞘町ノ舊ノ横濱正金銀行ノ建物デモ同様ニ足場ガ焼ケテ居ナイ。

(九) 同ジ原因ニヨルト思フガ東京帝國大學デ理學部ノ木造平家建ノ大キナ數學教室ガ焼ケタ時之ニ相對シテ居ル理學部ノ煉瓦造ノ二階建ノ本館ノ窓枠ノ木ガ、火ヨリ遠イ二階ノ方ガ焦ゲテ近イ一階ノ方ガ焦ゲナイ。之レハ冷カナ空氣ガ横カラ建物ノ下部ニ流レ込ンデ建物ノ熱シタ外壁ニ沿フテ上昇スルノデ丁度一枚ノ空氣ノ幕ガ一階ノ邊ヲ包ンダモノラシイ。

(十) 前ニ避難スル時ニ飯ヲ十分ニ用意シタ女髮結ノコトヲ

述ベタガ、食物ノ用意ト頭部ヲ坐蒲團等デ十分ニ保護シテ身輕デ逃ゲルコトガ避難ノ第一義デアラシイ。又被服廠跡デ災ヲ免カレタ多クノ人ノ話ヲ集メテ見ルト早クカラ駄目ダトシタ人ハ死シ、此様ナコトデ死ンデ溜ルカモノカト最後マデ意志ノ強固デアツタ人ガ逃ゲ課セタラシイ。

## 結 論

以上ノ調査カラ結論シ得ベキ事ヲ列舉スルト左ノ通りデア。

(一) 地震ヨリハ火災ノ方ガ恐ロシイ。地震ハ地震其者ヲ少サクスルコトガ出來ナイ。吾人ハ地震ガ襲來シタ時ニ其災害ヲ小ナラシメル設備ヲ爲シ得ルノミデア。

(二) 火災ハ火其者ヲシテ災害ヲ起サヌ様ニ爲シ得ラレル。又火災ガ起ツテモ其災害ヲ小ナラシムル方法ガアル。

(三) 生命財産ノ損失ハ地震ノ方ガ遙カニ小サイ。

(四) 地震ハ稀ニ起リ火災ハ頻繁ニ生ズル。

(五) 地震ニヨル火災防止ノ爲メニハ(甲)發火シ易イ藥品ノ取締リト(乙)地盤ノ惡ルイ地點ニ於ケル建築方法ノ取締リトヲ必要トスル。

(六) 耐震ニシテ耐火的ノ建築ヲ希望スル。

(七) 建物ガ高ク且ツ大ナル程耐火耐震ニ對スル程度ノ率ヲ

高メル必要ガアル。

(八) 地震ヲ恐レテ消防ヲ拋棄スルコトノ無イ様ニ訓練シ度イ。

(九) 消防ノ形式ハ一ツニ限ルコト無ク數多ノ方法ヲ整頓シテ置イテ甲法ガ失敗スレバ乙法、乙法ガ無効ナレバ丙法ト云フ様ニ複式設備ヲ必要トスル。

(十) 道路面ノ鋪裝及ビ橋梁ハ絶對ニ不燃質タルコトヲ必要トスル。

(十一) 廣場ヲ設クルナラバ消火設備ヲ十分ニ具備セシムベキデアル。

(十二) 廣場ヨリハ大道路デ延長遠キニ達スルモノ、方ガ有効ト思フ。

(十三) 避難者ガ道路又ハ橋梁上ニ荷物ヲ置キ交通ヲ妨害スルコトハ許スベカラザル曲事トシテ法律上取締リ度イ。

(十四) 以上ノ件々ヲ有效ナラシムルニハ市民トシテノ教育ヲ忽カセニシテハナラス。區劃整理等ノ公共事業ニ無理解ナルハ此種ノ教育ノ無カリシ爲メデアル。

以上

#### 追記(大正十四年三月)

本文火元第七十八號四谷區新宿旭町ノモノニ付、法學博士小山溫氏ノ語ル所ニ據レバ、發火ハ地震ヨリモ二分程前デアツタノデアツテ、其報ヲ得タ人々ガ消防ニ出掛ケルト、夫ノ大地震ガ襲來シタノダト云フ、發火ノ原因ハ地震ニ由ルモノデハナイトイフ一説トシテ、茲ニ之ヲ追記シテ置ク。